元総社蒼海遺跡群（93街区）

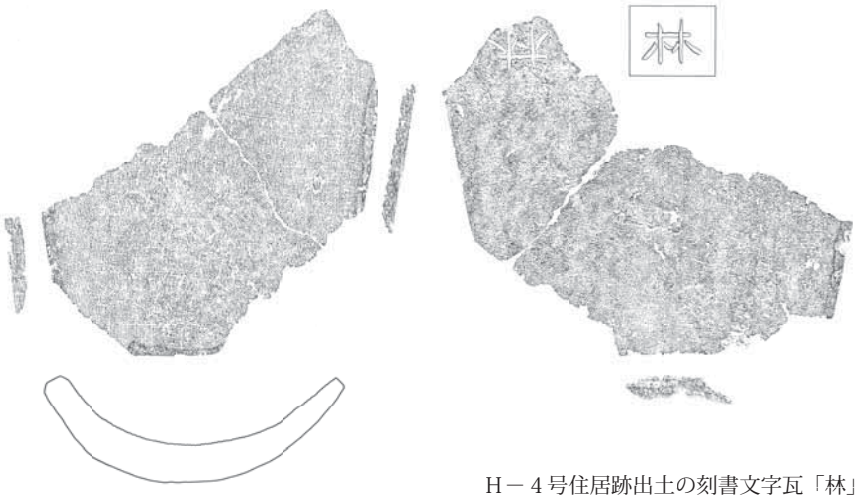
店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１６.１２

前橋市教育委員会
株式会社しまむら
有限会社 毛野考古学研究所

元総社蒼海遺跡群（93街区）

店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



Ｈ－４号住居跡出土の刻書文字瓦「林」（1/6）

２０１６．１２

前橋市教育委員会

株式会社しまむら

有限会社 毛野考古学研究所

口絵写真

元総社蒼海遺跡群（93 街区）遠景　　調査区南側より上野国分尼寺跡を望む

元総社蒼海遺跡群（93 街区）遠景　　南東より上野国分寺跡・榛名山方面を望む

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する「元総社蒼海遺跡群（９３街区）」は、古代において上野の中枢地域として上野国分尼寺に近接するところから、その成果に期待がもたれていました。今回の調査では、古代の住居跡・畠跡、中世の溝跡等が調査されました。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められましたことに感謝いたします。また、発掘調査にあたられた担当者・作業員のみなさんのご尽力にも、厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成２８年１２月

前橋市教育委員会

教育長　佐　藤　博　之

例　　言

１．本報告書は、店舗建設工事に伴う元総社蒼海遺跡群（93 街区）発掘調査報告書である。
２．発掘調査および整理作業は、株式会社しまむら より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が前橋市教育委員会の指導のもとに実施した。
３．発掘調査の要項は次のとおりである。

遺　跡　名　称	元総社蒼海遺跡群（93 街区）
調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町 元総社蒼海土地区画整理事業 93 街区 1717、1718、1710
遺　跡　コ　ー　ド	27 Ａ 224（遺跡番号 0142）
発 掘 調 査 期 間	平成 28 年５月　９日～平成 28 年　６月 10 日
整理・報告書作成期間	平成 28 年６月 11 日～平成 28 年 12 月 20 日
発　掘　担　当　者	南田法正・李スルチョロン（有限会社毛野考古学研究所）
［遺構測量・空撮］	小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）
整　理　担　当　者	南田法正・李スルチョロン

４．本書は南田が編集し、原稿執筆はＩを藤坂和延（前橋市教育委員会）、ほかを南田が担当した。
一部の石器の実測・観察表作成は土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
５．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。
【発掘調査】岡庭秋男・小関泰洋・鈴木　正・鈴木靖美・中島勝由・橋元裕児・松本幸男
勅使川原幸枝・萩原秀子・森山恵子・井口ヒロ子
【整理作業】 磯　洋子・樺澤美枝・合田幸子・下條真美代・竹中美保子・半澤利江・伴場りく・日沖美奈子
６．発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
７．発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。
記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
株式会社しまむら　　株式会社エム・ティ・プラン　　佐藤産業株式会社
鈴木徳雄　櫻井和哉　田辺芳昭　永井智教　中村岳彦　前田和昭

凡　　例

１．遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。
２．遺物実測図の縮尺は、１/１～１/４縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。
遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
３．遺物実測図のトーンは次の意味を表す。　　須恵器（硬質）　　他のトーン凡例は図中に併記した。
４．遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。
Ｈ：竪穴住居跡　Ｔ：竪穴状遺構　Ｂ：掘立柱建物跡　Ｐ：ピット　ＢＰ：As-B 混入ピット
ＪＰ：縄文時代のピット　Ｄ：土坑　Ｎ：畠跡　Ｗ：溝・堀　ＳＧ：竪穴窪地
５．遺構覆土および土器類の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に拠った。
６．本文中や挿表中において、＜　＞は残存値を、（　）は推定値を、それぞれ示す。
７．本書で使用する火山灰指標テフラの略称は以下のとおりである。　　As－A: 浅間Ａ軽石（西暦 1783 年）
As－B: 浅間Ｂ軽石（西暦 1108 年）　　Hr－FP: 榛名山二ツ岳伊香保テフラ（Hr－Ｉ・６世紀中葉）
As－C: 浅間Ｃ軽石（３世紀後葉～末葉）　　Hr－FA: 榛名山二ツ岳渋川テフラ　(Hr－S・６世紀初頭)
８．本書作成のために使用した参考・引用文献については、諸般の都合で一部割愛した。ご寛恕願いたい。

目　次

口絵写真
はじめに
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　地理的・歴史的環境 …… 3
　1．地理的環境…… 3
　2．歴史的環境…… 4
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 7
　1．調査の方法…… 7
　2．調査の経過…… 7
Ⅳ　標準堆積土層 …… 12
Ⅴ　遺構と遺物 …… 13
　1．遺跡の概要…… 13
　　縄文時代
　　古墳時代～古代（畠跡・溝）
　　古墳時代～古代（住居跡・土坑・ピット）
　　中世
　　近世～近代
Ⅵ　まとめ…… 42

写真図版
抄　録
奥　付

挿　図　目　次

Fig. 1　調査区の位置と水田分布状況…… 1
Fig. 2　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図…… 2
Fig. 3　遺跡位置図…… 3
Fig. 4　周辺の遺跡…… 4
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図① …… 8
Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図② …… 9
Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図③ …… 10
Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図④ …… 11
Fig. 9　標準堆積土層…… 12
Fig.10　遺構図（1）H－1・3号住居跡 / D－17 号土坑 …… 20
Fig.11　遺構図（2）H－2号住居跡 / D－18 号土坑 …… 21
Fig.12　遺構図（3）H－4・8・9号住居跡 / D－23・25 号土坑 …… 22
Fig.13　遺構図（4）H－4・8・9号住居跡 / D－23・25 号土坑、H－5号住居跡 / D－19～21 号土坑…… 23
Fig.14　遺構図（5）H－7・11 号住居跡 …… 24
Fig.15　遺構図（6）B－1～4号掘立柱建物跡 / SA－1～3号柱穴列 …… 25
Fig.16　遺構図（7）T－1・2号竪穴状遺構 / D－1・2・3号土坑 …… 26
Fig.17　遺構図（8）T－3・4号竪穴状遺構 / D－4～16・22・29 号土坑 / F－1号炉跡 / W－2・3号溝…… 27
Fig.18　遺構図（9）D－27・28・30～35・37・40・41 号土坑 …… 28
Fig.19　遺構図（10）W－1号溝…… 29
Fig.20　遺構図（11）N－1・5号畠跡…… 30
Fig.21　遺構図（12）N－2～4号畠跡 / W－4号溝…… 31
Fig.22　遺物図（1）H－1号住居跡 / H－2号住居跡①…… 32
Fig.23　遺物図（2）H－2号住居跡② / H－3号住居跡…… 33
Fig.24　遺物図（3）H－4号住居跡①…… 34
Fig.25　遺物図（4）H－4号住居跡②…… 35
Fig.26　遺物図（5）H－5号住居跡 / H－7号住居跡 / H－11 号住居跡 …… 36
Fig.27　遺物図（6）土坑・ピット・溝・畠跡 出土遺物 / 遺構外出土遺物 …… 37
Fig.28　上野国分尼寺周辺の集落変遷図①（4～8世紀）…… 44
Fig.29　上野国分尼寺周辺の集落変遷図②（9～11 世紀・中世）…… 45

挿　表　目　次

Tab. 1　周辺遺跡一覧表 ① …… 5
Tab. 2　周辺遺跡一覧表 ② …… 6
Tab. 3　遺構一覧表（1）住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑① …… 16
Tab. 4　遺構一覧表（2）土坑②・炉跡 …… 17
Tab. 5　遺構一覧表（3）溝・ピット① …… 18
Tab. 6　遺構一覧表（4）ピット② …… 19
Tab. 7　出土遺物観察表（1）…… 38
Tab. 8　出土遺物観察表（2）…… 39
Tab. 9　出土遺物観察表（3）…… 40
Tab.10　出土遺物観察表（4）…… 41

写　真　図　版　目　次

ＰＬ．１

元総社蒼海遺跡群（93 街区）　調査区全景（上が北）
基本層序Ａ（北から）
基本層序Ｂ（北から）
Ｈ－１号住居跡　全景（北から）
Ｈ－１号住居跡　全景（西から）
ＳＧ－１（Ｈ１住の As － Ｂ直下の窪地）検出状況（北から）
Ｈ－１号住居跡　土層断面（西から）

ＰＬ．２

Ｈ－２号住居跡　全景（南西から）
Ｈ－２号住居跡　カマド近景（南西から）
Ｈ－２号住居跡　土坑１　遺物出土状況（南から）
Ｈ－２号住居跡　埋設甕（転用器台）截ち割り（南西から）
Ｈ－２号住居跡　南壁の壁体痕跡（南西から）
Ｈ－３号住居跡・Ｄ－ 17 号土坑　全景　（南から）
Ｈ－４・８・９号住居跡　全景（西から）
Ｈ－４号住居跡　カマド・貯蔵穴近景（西から）

ＰＬ．３

Ｈ－４号住居跡　貯蔵穴出土　文字瓦近景（北から）
Ｈ－５号住居跡　全景（南西から）
Ｈ－５号住居跡　カマド近景（南西から）
Ｈ－７号住居跡　全景・遺物出土状況（南から）
Ｈ－７号住居跡　カマド近景（南西から）
Ｈ－ 11 号住居跡　全景　（南西から）
Ｔ－１号竪穴状遺構　全景（東から）
Ｔ－２号竪穴状遺構　全景（北から）

ＰＬ．４

中近世遺構群（調査区西部）全景（南から）
Ｄ－１号土坑　検出状況（西から）
Ｄ－２号土坑　馬幼獣骨検出状況（南から）
Ｄ－５号土坑　全景（南から）
Ｄ－７号土坑　土層断面（南から）
Ｄ－ 11 号土坑　土層断面　（南から）
Ｄ－ 19 号土坑　全景（南西から）
Ｄ－ 28・32 号土坑　全景（南から）

ＰＬ．５

Ｄ－ 30 号土坑　全景・土層断面（南西から）
Ｄ－ 31・33・34 号土坑　全景（南から）
Ｗ－１号溝　全景・土層断面（南から）
Ｗ－１号溝　全景・土層断面（北から）
Ｎ－１号畠跡　検出状況　（南から）
Ｎ－２・３・４号畠跡 / Ｗ－４号溝　検出状況（南から）
Ｎ－５号畠跡・Ｗ－５号溝　全景（南から）
近世畠跡（調査区南東隅）検出状況（南から）

ＰＬ．６

出土遺物（１）

ＰＬ．７

出土遺物（２）

ＰＬ．８

出土遺物（３）

Ⅰ　調査に至る経緯

開発人である株式会社しまむらより、当該地での店舗建設工事にあたり、遺跡の取扱いについて事前の協議を受けた。前橋市教育委員会では、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市０１４２遺跡」であり、開発にあたっては文化財保護法第９３条第１項の届出が必要であること、また開発内容によっては、その取扱いについて協議が必要となることを説明した。さらに、遺跡の保存状況把握のため「試掘・確認調査」の実施が必要となる場合があることもあわせて説明した。

平成 28 年 1 月 13 日、開発人より「埋蔵文化財事前調査依頼書」が提出され、同年 1 月 23 日、開発人より工事の内容を添付した文化財保護法第９３条第１項の届出が提出された。同年２月１日、教育委員会は「試掘・確認調査」を実施し、中近世以降の所産と思われる土壙墓･ピット等の遺構を確認するに至った。教育委員会は、開発人に「試掘・確認調査」の結果を報告するとともに、提出された文化財保護法第９３条第１項に添付された工事内容では、保存に及ぼす影響が大きいことから、工事計画の変更が必要であることを回答した。

開発人からは工事計画の変更が難しいとの返答が得られ、協議の結果、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで教育委員会は開発人との間で合意を得た。また、教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下で発掘調査を実施することになり、平成 28 年 4 月 27 日付けで開発人と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査・整理業務委託の契約が締結された。これを受けて、同年 4 月 27 日、開発人・有限会社毛野考古学研究所・教育委員会との間で三者協定が締結され、同年５月９日から現地調査が開始された。

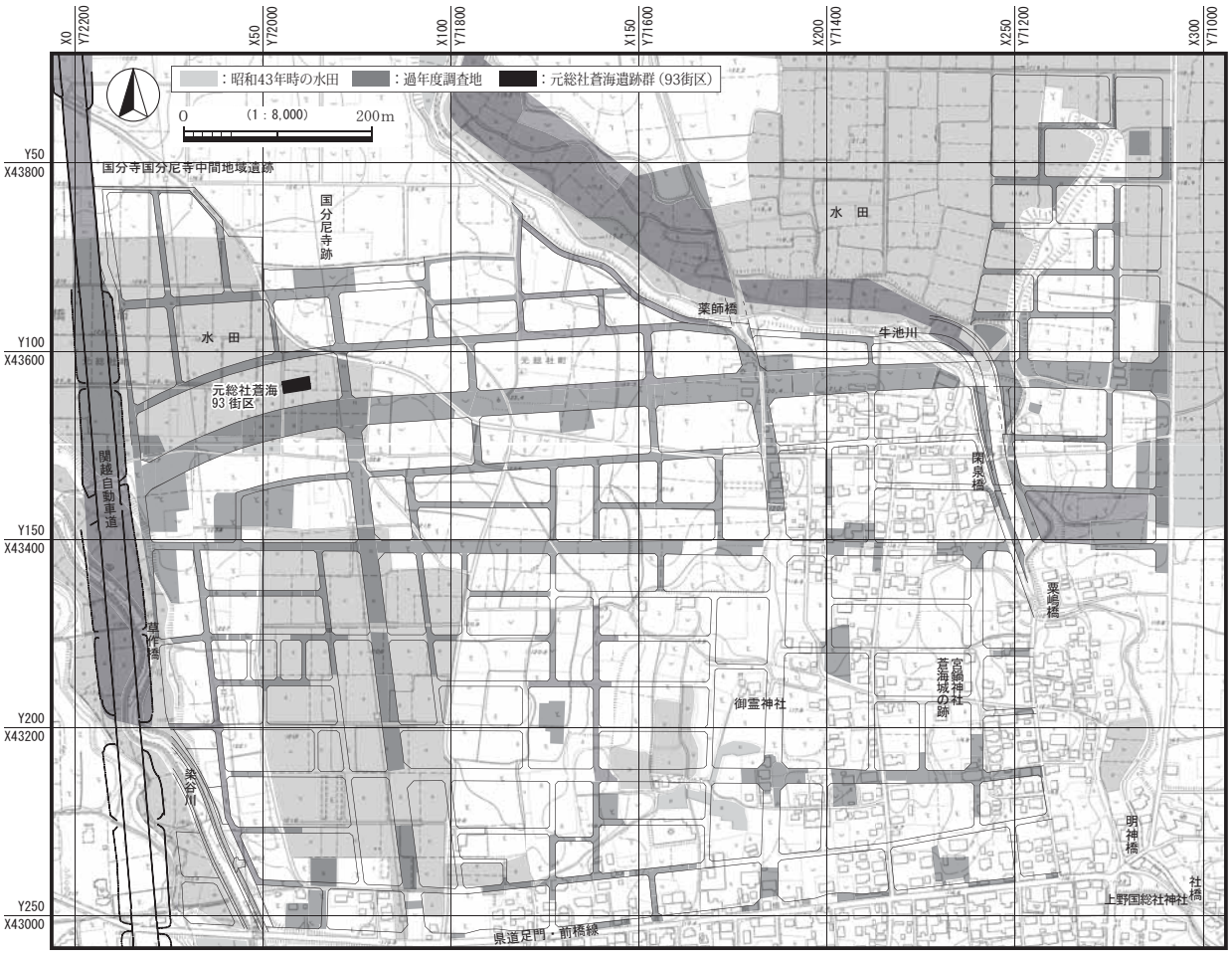


Fig. 1　調査区の位置と水田分布状況（前橋市現形図 昭和 43 年 1/2500 を改変）

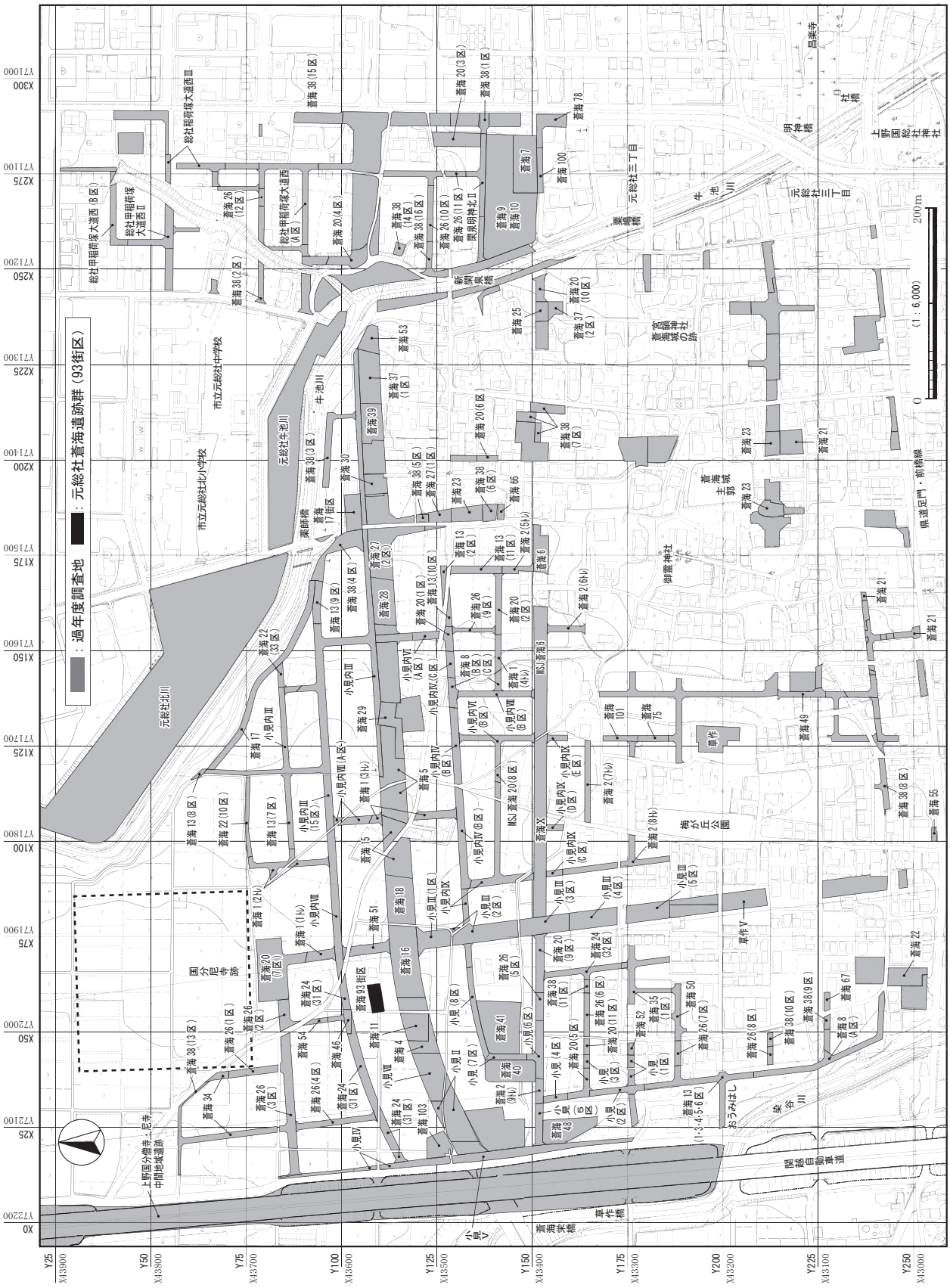


Fig. 2　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図（藤坂・中村 2016『元総社蒼海遺跡群（65）』掲載図を一部改変）

Ⅱ　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

本遺跡は、前橋市の南西部に広がる前橋台地（前橋・高崎台地）上に立地し、榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地末端部にも該当する。よって、元総社蒼海遺跡群の基盤層は全体として、北西（榛名山）から南東方向へと緩やかに傾斜している。井野川と広瀬川（旧利根川）に挟まれた広大な地域が前橋台地と呼ばれ、赤城火山と榛名火山の両山麓の間から流下した利根川が形成した扇状地性台地である。現利根川は 15 世紀代に変流して台地中央部を貫流することとなった。

前橋台地の下部には利根川扇状地が形成した厚さ 100 mの前橋砂礫層（～ 2.5 万年前頃）が堆積している。浅間板鼻褐色軽石群（As － BP Group、2.4 ～ 1.9 万年前）の下位に該当する 2.3 ～ 2.4 万年前頃には、黒斑山（くろふやま）の崩壊に伴う浅間応桑岩屑（がんせつ）なだれに起因した前橋泥流が、15 m前後の厚さで前橋砂礫層を覆う。前橋泥流の上部には前橋下部泥炭層が形成されており、泥流堆積による排水不良などが原因と言われている。1.6 万年前頃には、榛名火山の山体崩壊による陣場岩屑（がんせつ）なだれが発生し、榛名山南東麓に広大な相馬ヶ原扇状地を形成した。前橋泥流を覆ったこの岩屑（がんせつ）なだれによって、利根川の流路が赤城山西南麓、現広瀬川の辺りに固定されたと考えられている。その後、約 1.3 ～ 1.4 万年前に浅間板鼻黄色軽石（As － YP）が降下し、1.1 万年前頃には浅間総社軽石（As － Sj）が降灰する。同じ頃、高崎台地では井野川と烏川の間に井野川泥流が堆積している。

As － Sj が混入する前橋上部泥炭層の上には、粘質土・シルト・細砂の互層からなる総社砂層が、およそ２～５mの厚さで広範囲に堆積している。相馬ヶ原扇状地からは染谷川・牛池川・八幡川などが南東流し、これらによって供給されたようである。この総社砂層が本遺跡群の直接的基盤層（地山）で、硬質層はカマド構築材として多用される。総社砂層の上部には黒色土（黒ボク土）が堆積し、縄文時代の遺物包含層となっている。総社砂層の堆積終了時期、離水期の詳細は不明ながら、黒色土中の縄文時代の遺跡形成は前期後葉の諸磯式期以降に始まる。

主要引用・参考文献

早田　勉　1990 「第１章　群馬県の自然と風土」『群馬県史　通史編１』

日沖剛史　2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』１号　地域考古学研究会

吉田英嗣　2004 「浅間火山を起源とする泥流堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響」『地理学評論』77-8

吉田英嗣・須貝俊彦・坂口一「利根川・吾妻川合流点付近の河川地形発達に及ぼす前橋泥流イベントの影響」『地理学評論』78-10

Fig. 3　遺跡位置図　（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20 万分の１図を改変）

2．歴史的環境

元総社蒼海遺跡群（93 街区）は、上野国分尼寺の 130 m南に位置する。周辺には上野国分僧寺・尼寺中間地域をはじめ、元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路部分の発掘調査が格子状に実施されている。染谷川・牛池川・八幡川（滝川）流域の国分・元総社・総社・大渡地域は遺跡密集地であり、縄文時代から中近世まで連綿と集落や古墳、生産地、城館などが営まれ、特に古代以降は国府・国分二寺が置かれて上野の中心地となる。

縄文時代では、染谷川が大きく屈曲する左岸台地に、前期後葉・諸磯式期と中期後葉・加曾利Ｅ式期を主体とする２時期の大型環状集落が重複して存在している。両集落は上野国分僧寺・尼寺中間地域を主体にして、元総社蒼海遺跡群（４）・(13)・(24)・(48)、元総社小見遺跡～小見Ⅶ遺跡などに展開する。集落の平面サイズはともに長径 200 ～ 250 m程度と予測する。前期集落は南北に細長い形状と推測され、住居の時期は諸磯ｃ式に集中する。現在までに調査された住居軒数は前～中期合わせて数十軒程度だが、総軒数は 100 軒を超えるだろう。中期集落が勝坂併行期から始まっていることには注意しておきたい。また、諸磯式期と加曾利Ｅ式期の集落動態には、ともにその開拓性と増加傾向に共通点があり、社会的要請の共通事項を探る必要があろう。元総社蒼海遺跡群（101）には、幅狭く浅い谷地形に加曾利Ｂ式期主体の後期土坑群が存在し、集落を伴わない単独墓域の可

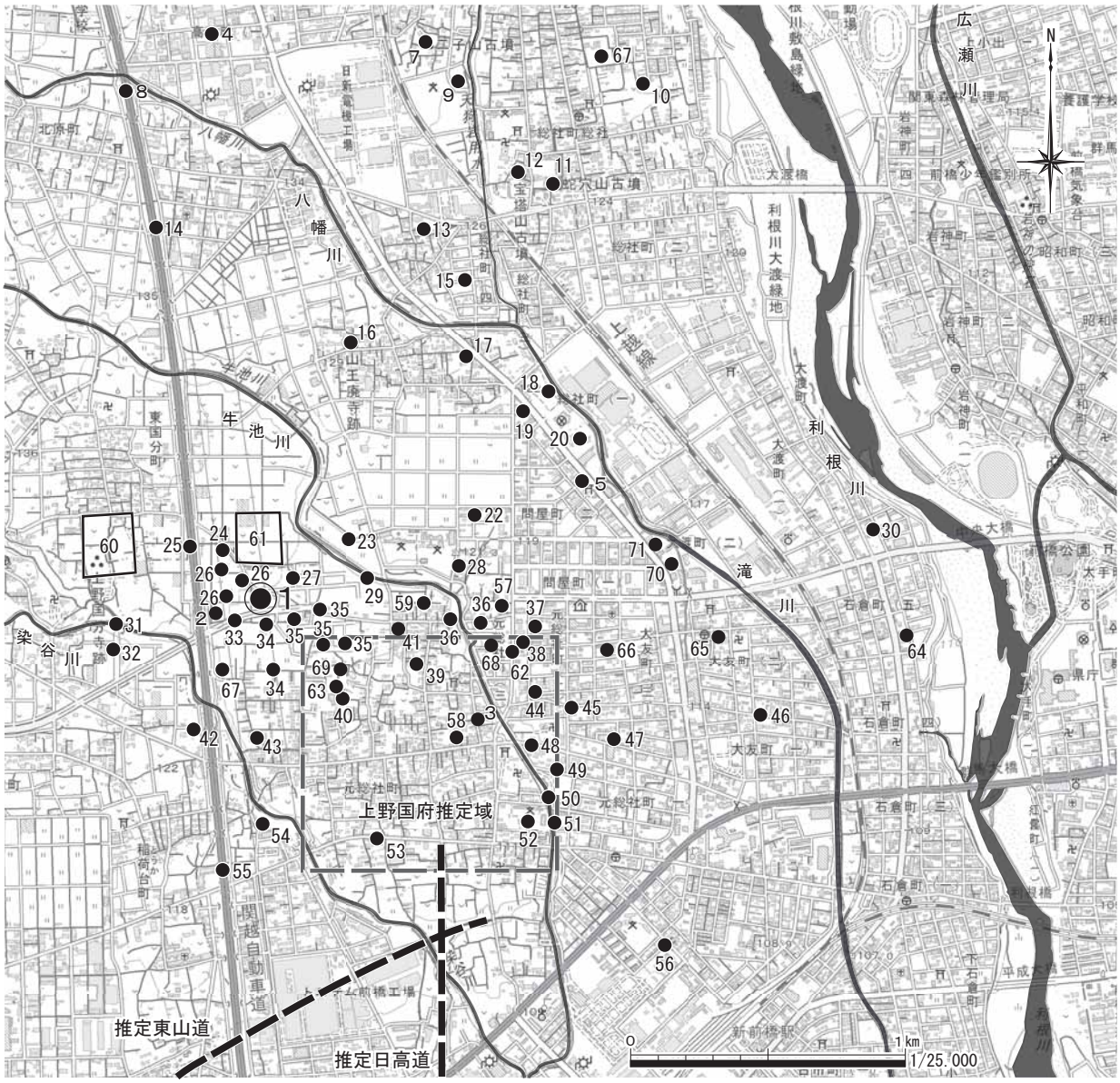


Fig. 4　周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25.000 分の１図を改変）

能性がある。本遺跡でも後期中葉～後葉の土器がわずか３点ながら遺構外から出土しており、蒼海（101）と合わせて考えれば、今後の周辺遺跡調査では黒色粘質土を掘り下げて、浅い谷地形に当該期の人々の活動を探索してゆく必要があるだろう。元総社明神遺跡Ⅷでは晩期終末～弥生初頭の土器が出土しており、元総社蒼海遺跡群（７）（９）（10）においては晩期前半の住居跡が確認されている。元総社蒼海遺跡群（48）からも晩期の遺物が出土している。

弥生時代には上野国分僧寺・尼寺中間地域で後期の集落が確認され、元総社明神遺跡では中期後半の土器が出土している。古墳時代前期の集落は大きく２地点にまとまる傾向があり、元総社小見Ⅱ遺跡・元総社蒼海遺跡群（40）・国分寺国分尼寺中間地域遺跡などの染谷川左岸と、元総社蒼海遺跡群（28）などの牛池川－小河原堰合流地点あたりの牛池川右岸側である。おそらく前者は、100 軒を超す集落となるだろう。周溝墓群は元総社蒼海遺跡群（56）（61）（62）（100）などの牛池川左岸に集中する。中期の住居は、両地域でごく少数確認されており、牛池川左岸では６世紀初頭～前半の集落が形成されている。前期以降の水田開発を示す事例としては、元総社牛池川遺跡･元総社北川遺跡の堰を伴う用水路や、Hr－FA 直下および Hr－FP 泥流直下の水田跡、FA 泥流･FP 泥流の上面を鋤き込む畠跡などを挙げられる。元総社明神遺跡でも、Hr－FA 下水田や As－C 直下の用水路群が調査されている。本遺跡では As－C 混畠、Hr－FA 混畠を検出している。

６世紀後半～７世紀前半の集落は元総社地域に広く展開している。利根川と八幡川の間の台地には総社古墳群が築造される。５世紀後半の遠見山古墳、６世紀の王山古墳・総社二子山古墳の後、７世紀代には家形石棺を伴

Tab. 1　周辺遺跡一覧表①

番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社蒼海遺跡群（93）街区	●		●	●	●	●
		古墳～古代畠。8･10 世紀住居。中世堀。					
2	元総社蒼海遺跡群（103）	●		●	●	●	
3	元総社蒼海遺跡群（65）			●	●	●	
4	柿木遺跡・Ⅱ遺跡				●		
5	稲荷山古墳	6 世紀後半。円墳。					
6	大小路山古墳			●			
7	総社二子山古墳	6 世紀後半。前方後円墳。全長 90 m。					
8	北原遺跡	●		●	●		
9	愛宕山古墳（方墳）	7 世紀前半。一辺 56 m。家形石棺。					
10	遠見山古墳	5 世紀後半。前方後円墳。全長 70 m。					
11	蛇穴山古墳（方墳）	7 世紀末頃。一辺 43 m。					
12	宝塔山古墳（方墳）	7 世紀中～後半。一辺 66 m。家形石棺					
13	村東遺跡			●	●	●	
14	国分境遺跡（事業団）			●	●	●	
	国分境Ⅱ遺跡			●	●	●	
	国分境Ⅲ遺跡			●	●	●	
15	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	●		●	●	●	
16	山王廃寺跡	7 世紀後半。「放光寺」。					
17	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡				●		
18	産業道路東遺跡	●					
19	産業道路西遺跡	●					
20	稲荷塚道東遺跡			●	●		
21	稲荷山古墳			●			
22	総社甲稲荷塚大道西遺跡				●	●	●
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡			●	●		●
23	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	●	●	●	●	●	●
24	元総社小見Ⅱ遺跡	●		●	●	●	
	元総社小見Ⅳ・Ⅴ遺跡	●		●	●	●	
	元総社小見Ⅵ・Ⅶ遺跡	●		●	●		
	元総社蒼海遺跡群（4）	●		●	●		
25	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文中期集落、配石。弥生集落、方形周溝墓。古墳～古代集落。中世屋敷。					

番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
26	元総社蒼海遺跡群（13）	●		●	●	●	
27	元総社小見内Ⅶ遺跡	●			●	●	
	元総社蒼海遺跡群（1）（5）				●	●	
28	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡			●	●		
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	●		●	●		
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡			●		●	
29	元総社小見内Ⅲ遺跡			●	●	●	
	元総社小見内Ⅵ遺跡				●	●	
	元総社蒼海遺跡群（12）			●	●	●	
30	王山古墳	6 世紀初頭。前方後円墳。全長 75 m。					
31	元総社西川遺跡			●	●		
32	上野国分寺参道遺跡			●	●		
33	元総社小見遺跡	●		●	●		
34	元総社小見Ⅲ遺跡	●		●	●	●	
	元総社草作Ⅴ遺跡	●		●	●	●	
35	元総社小見内Ⅳ遺跡				●	●	
	元総社小見内Ⅷ遺跡				●	●	
	元総社小見内Ⅸ・Ⅹ遺跡			●	●	●	
	元総社蒼海遺跡群（2）（6）			●	●	●	
	元総社蒼海遺跡群（11）			●	●	●	
36	総社閑泉明神北遺跡			●		●	
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡			●	●		
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡			●	●		
	元総社蒼海遺跡群（7）				●	●	
	元総社蒼海遺跡群（9）（10）			●	●	●	
37	閑泉樋遺跡				●		
38	閑泉樋南遺跡			●	●		
39	元総社宅地遺跡１～23トレンチ			●	●	●	●
40	草作遺跡			●	●	●	
41	元総社蒼海遺跡群（23）			●	●	●	
42	塚田村東遺跡				●		
43	元総社蒼海遺跡群（8）				●		
44	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡			●	●	●	

う方墳の愛宕山古墳・宝塔山古墳が相次いで造営され、７世紀末には蛇穴山古墳が築かれる。総社古墳群の南西に位置する山王廃寺（放光寺）も７世紀後半に建立されており、「上毛野氏」の強大な力がうかがえる。元総社蒼海遺跡群（９）（10）の長大な掘立柱建物跡も７世紀後半に帰属し、注目されよう。

上野国府の精確な成立時期や国庁・正倉等の実態・位置は不詳ながら、元総社地域に存在していたことは確実視されている。元総社小学校校庭遺跡の大型掘立柱建物、元総社蒼海遺跡群（99）および国府 28 トレンチの掘込地業建物、元総社寺田遺跡で出土した「國厨」「国」「曹司」などの墨書土器をはじめ、傍証となる事例は着実に積み重ねられている。元総社蒼海遺跡群（７）（９）（10）をはじめ、国府域を区画する大溝も各所で確認されている。また本年７月、鳥羽町において、東山道駅路（国府ルート）と考えられる幅員６ｍの道路遺構が確認され、話題になった。鳥羽遺跡には神社遺構や鍛冶工房群も存在し、国府に付随する重要集落とみられている。

律令期には国府の北西に国分僧寺と国分尼寺が造営される。国分尼寺周辺の元総社遺跡群や中間遺跡では、緑釉陶器や三彩・青磁等の高級陶器、飾り金具などの特殊な金属製品、硯、腰帯具などが出土しているが、本遺跡は国分尼寺から南へ 130 ｍという至近距離ながら、特徴的な遺構・遺物には恵まれなかった。

中世には上野国守護代の長尾氏が、国府跡地に蒼海城を築いた。これまでの調査で、主郭（詰曲輪）や二の郭周辺の巨大な空堀、井戸、建物跡などが多数調査されている。城郭主体部と離れた地点でも堀や大溝が見つかっている。本遺跡と元総社蒼海遺跡群（14）（16）のクランクする大溝は同一遺構であり、元総社小見Ⅱ遺跡の南北の堀と接続する可能性がある。元総社小見Ⅲ遺跡３区・５区や元総社蒼海遺跡群（75）の堀は、一連の外郭堀となる可能性がある。山崎 一（1978『群馬県古城塁址の研究』上巻）の縄張図を見ると、蒼海城の大手はおよそ南側と思われるが、台地続きとなる北西方向の守りが重要となるため、これらの堀は西方最外郭を構成する防禦施設の一部と推定する。染谷川左岸の元総社蒼海（７）（９）（10）には、古代の大溝による地割りを踏襲するようにして、東西方向の巨大な堀が走行する。これは八日市場城の北縁外郭堀と推測する。八日市場城は染谷川を西の濠とし、対岸は蒼海城となっていることから、八日市場城全体を蒼海城の東外郭と捉えることも可能かもしれない。周辺には厩橋城・石倉城（砦）・大友城・村上城などが林立している。

他方、溝や浅い堀で囲郭された屋敷も多数分布しているようであり、大渡道場遺跡では戦国期の埋納銭 572 枚が検出された。近世には秋元氏が総構（そうがまえ）構造の総社城を築き、慶長９（1604）年に天狗岩用水を開削している。秋元氏は慶長６（1601）年から同 15（1610）年までの間、八日市場城に在城し、蒼海城は廃城となったようである。

Tab. ２　周辺遺跡一覧表②

番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
45	堰越Ⅱ遺跡				●		
46	大友宅地添遺跡				●		
47	堰越遺跡				●		
48	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡			●	●		
49	元総社明神遺跡Ⅰ～13			●	●	●	
50	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ			●	●	●	
51	寺田遺跡				●		
52	元総社小学校校庭遺跡				●		
53	天神遺跡・Ⅱ遺跡				●		
54	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡			●	●		
55	鳥羽遺跡			●	●		
56	元総社稲葉遺跡	●			●		
57	元総社蒼海遺跡群（91）			●	●	●	
58	元総社蒼海遺跡群（95）			●	●	●	
59	元総社蒼海遺跡群（39）			●	●	●	
60	上野国分寺跡				●		
61	上野国分尼寺跡				●		
62	元総社蒼海遺跡群（75）				●	●	
63	元総社蒼海遺跡群（78）			●	●		
64	石倉城					●	
65	大友城					●	
66	村山城					●	
66	総社城						●
67	元総社蒼海遺跡群（48）	●		●	●		
68	元総社蒼海遺跡群（100）	周溝墓。古代集落。中世溝。					
69	元総社蒼海遺跡群（101）	古墳～古代集落。平安墓坑。中世屋敷。					
70	大渡道場遺跡	古代集落。FA 水田、FA 混畠。 中世屋敷。埋納銭（572 枚）					
71	大渡道場遺跡 No.2	古墳～古代集落。 C 混畠、FA 水田、FA 混畠。					

Ⅲ　調査の方法と経過

１．調査の方法

開発面積約 2300㎡のうち、当初の計画調査面積は最大 400㎡である。調査区の設定は、表土掘削によって遺構の有無を確認しながら行うものであったが、結果として 361㎡を調査対象とした。

表土掘削は 0.45㎥バックホーを用い、基本的には As－B 混土（基本層序Ⅵ層）直下面の基本層序Ⅶ層上面～As－C 混黒色土（基本層序Ⅷ・Ⅸ層）上面を遺構確認面とし、調査区東端から開始した。ただし、試掘調査時に確認されていた骨を伴う土坑については、調査前から As－B 混土層中および As－A 混土層中に掘り込まれていることが予測されていた。そこで、先ずは基本層序Ⅲ～Ⅳ層において当該土坑の有無を確認し、土坑の周辺のみを高く掘り残して、それ以外の範囲は下位の確認面まで掘り下げるという変則的な表土掘削となっている。

Ｗ－１号溝より東側については、Ⅶ層上面で As －Ｂ混遺構群を確認したが、竪穴住居と畠跡の検出は、Ⅶ層を人力掘削してⅨ・Ｘ層上面でおこなった。Ｗ－１号溝については、表土掘削と同時進行で遺構確認精査作業を行い、そのまま重機によって覆土の大半を慎重に掘削した。Ｗ－１号溝の西側については、当初からⅨ層上面もしくはＸ層上面まで重機掘削を行い、遺構確認した。各遺構については、移植ゴテ等によって覆土を人力掘削した。

測量基準となる公共座標は、周辺調査との整合性を保つために日本測地系および上野国分尼寺寺域確認調査ならびに元総社蒼海遺跡群で採用されたグリッドを使用した（Ｘ：44000.0000 ＝Ｙ０、Ｙ：－ 72200.0000 ＝Ｘ０）。平面測量は自動追尾トータルステーションを用い、断面測量は手実測した。遺構写真は 35mm 白黒・カラーリバーサルフィルムで撮影・記録し、1000 万画素相当のデジタルカメラで補助した。遺跡全景・遠景写真には、ドローンによる空撮を実施した。

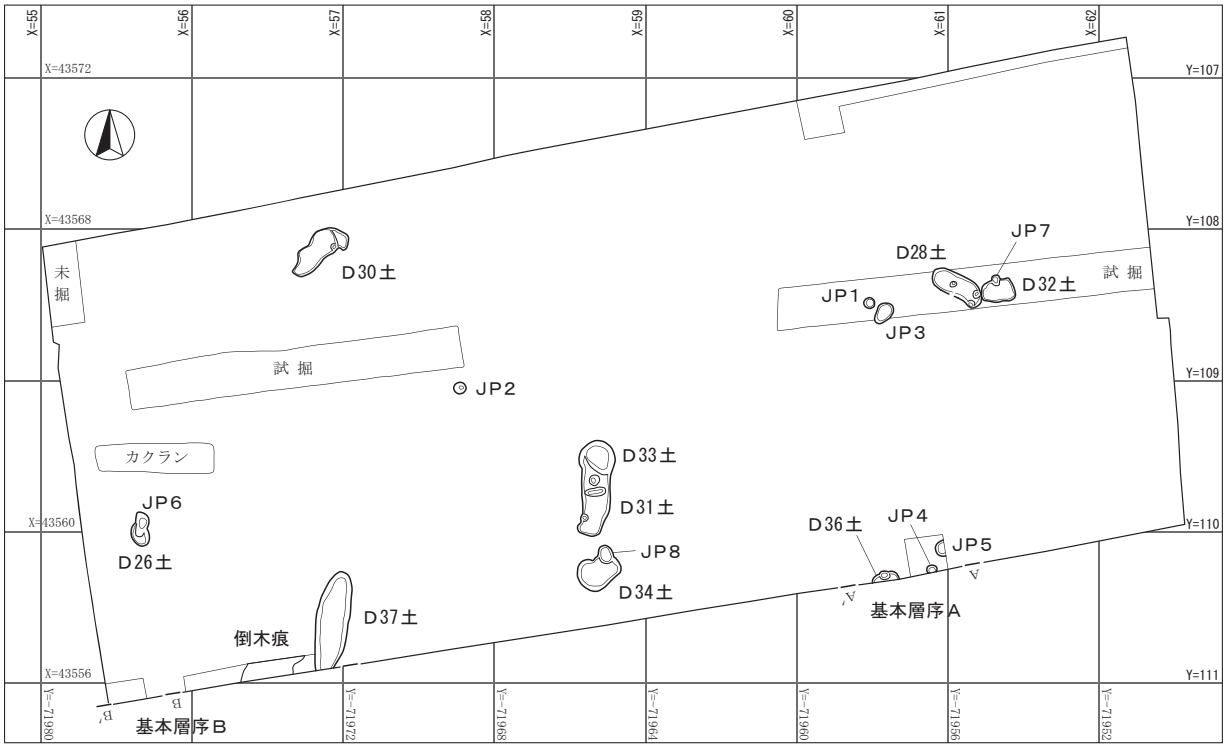
２．調査の経過

発掘調査は平成 27 年５月９日から平成 27 年６月 10 日まで実施した。以下に概要を記す。

５月　９日：現地調査区確認。挨拶周り。資器材準備。各種書類作成。　　10 日：資器材搬入。
11 日：重機・プレハブ・仮設トイレ搬入。駐車場用地除草作業。安全対策作業。
調査区の確定作業を兼ねて、前橋市教育委員会担当者立会いのもと、重機表土掘削開始。
12 日：遺構確認精査作業開始。　　13 日：Ｗ－１号溝等の重機掘削および調査。遺構確認精査作業。
14 日：重機表土掘削終了。遺構確認精査作業。　　16 日：Ｗ－１・ＳＧ－１調査。Ｄ－１～３、８の調査。
17 日：雨天作業中止。18 日：Ｄ－１～ 16、Ｔ－１・２、Ｗ－３、Ｂ混ピット群の調査。各遺構平面測量。
19 日：Ｄ－１～ 17、Ｔ－１～３、Ｗ－３、Ｂ混ピット群の調査。Ｄ－２の馬幼獣骨の取り上げ。
20 日：Ｔ－１～３、Ｂ混ピット群・土坑群の調査。５月 21 日：Ｗ－２、Ｂ混ピット群・土坑群の調査。
23・24 日：Ｈ－１・２の調査。Ｂ混遺構群の調査。ＦＡ混畠跡の検出。各遺構平面測量。
25 日：Ｈ－１～５の調査。現地にて４者（しまむら・ＭＴプラン・前橋市教委・当社担当者）による協議。
26 日：Ｈ－２～５の調査。　27 日：Ｈ－２～７の調査。Ｆ－１の調査。　28 日：Ｈ－５、Ｄ－ 19 の調査。
30・31 日：Ｈ－４・５・７～９・11 の調査。ＦＡ混土の掘り下げ、遺構確認。Ｂ混ピットの調査。
６月　１・２日：Ｈ－４・８・９・11、Ｄ－ 25 の調査。FA 混土（畠土）の面的掘り下げによる遺構確認作業。
３日：Ｈ－ 11、Ｈ－２・４の掘り方、Ｗ－４の調査。Ｎ－２～４の検出作業。
４日：Ｈ－２～５の掘り方調査。Ｎ－２～４の検出作業。各遺構平面測量。
６日：Ｈ－２・３掘り方調査。Ｎ－１～４のトレンチ調査。調査区中央部・南西部のＸ層人力掘削。
７日：縄文遺構群の調査。　　８日：空撮。Ｈ－ 11 掘り方、Ｎ－５、縄文遺構群調査。
９日：Ｎ－５、縄文遺構群および倒木痕の調査。各遺構平断面測量。
10 日：縄文遺構群の調査および各遺構平断面測量完了。前橋市教委による発掘調査終了検査。
プレハブ・器材等撤収。全作業工程完了。

Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図 ①

縄文時代遺構分布図



0 (1 : 200) 8 m

近世～近代遺構分布図

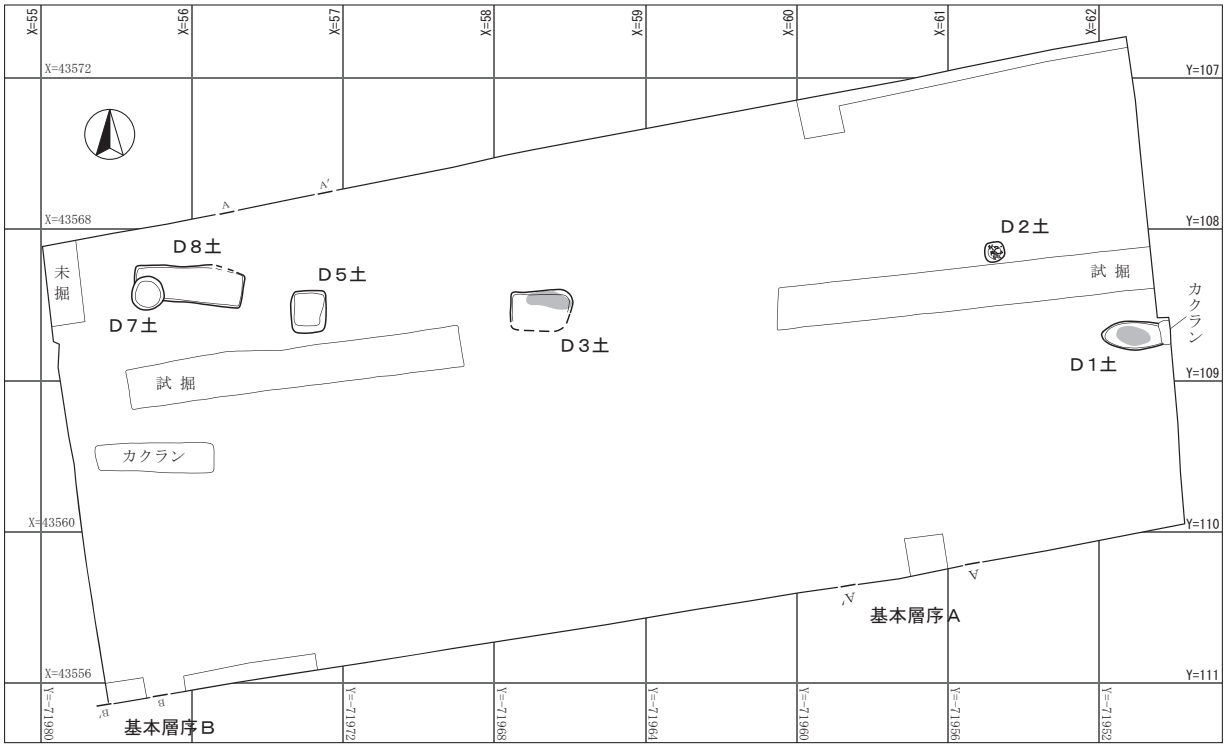


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図 ②

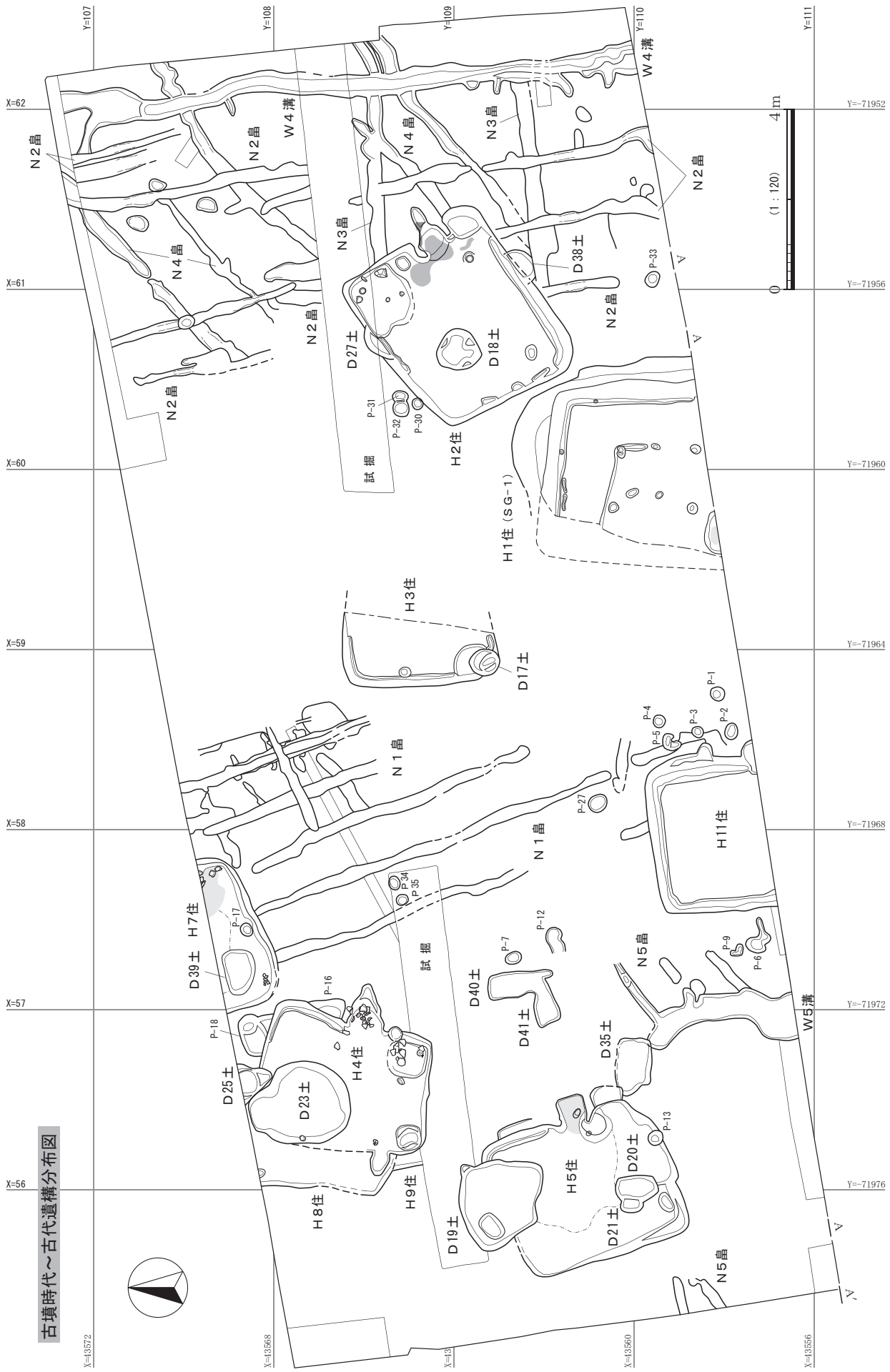


Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図 ③

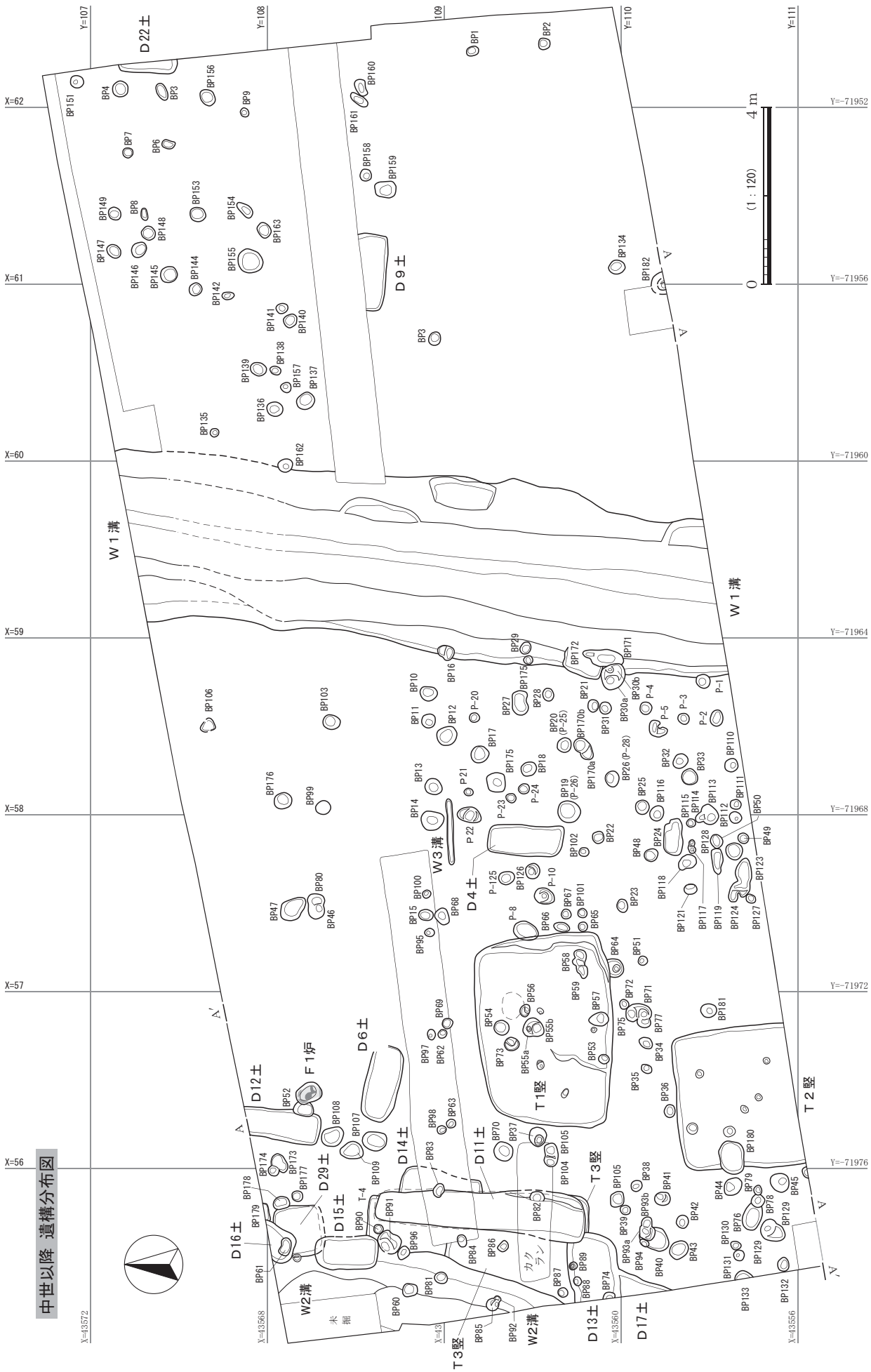


Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（93 街区）遺構全体図 ④

Ⅳ　標準堆積土層

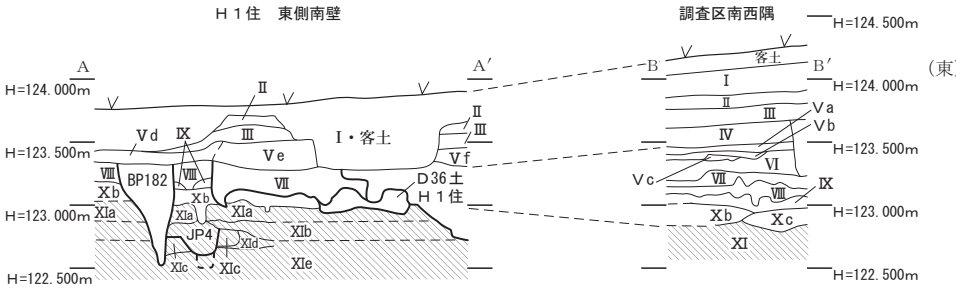
調査区一帯は、昭和 43 年頃の都市計画図では水田になっている。区画整理に伴って一部に客土が盛られているが、現在も本調査区の西側は低地として認識できる。

日沖（2015、前掲）が指摘している通り、染谷川・牛池川は元総社地区において南東流から南流（およそ南南東方向）へと変化する。等高線や昭和 43 年当時の水田分布状況がそれをよく示す。染谷川は国分寺西川と合流してほどなく、関越自動車道と交差する地点で南へ屈曲する。総社砂層の上部に堆積する黒色土（黒ボク土）には、粘性を帯びる場合と、乾燥して均質な細粒土壌の乾湿２層があり、本遺跡のＸ層は前者にあたる。おそらく本遺跡地直下あたりの総社砂層中あるいは下面に旧染谷川があり、その河谷地形をトレースした低地部に現染谷川攻撃面から溢れた水が流入し、本遺跡地一帯にごく浅い後背湿地を形成したものであろう。総社砂層上面の標高で見ると、蒼海（103）が 124.8 ～ 124.4 m、蒼海（１）－２トレンチ北部が 124.2 m、本遺跡は 122.9 m 前後を測り、本遺跡周辺は台地内陸部の低地域であることが理解できる。

Ⅰ・Ⅱ層は現代の水田耕作土である。均質なシルト質土のⅢ層も水田土壌と考えられる。Ⅳ層もややシルト質で、近世後期～近代の土坑群はⅣ層に掘り込まれている。遺構調査は実施しなかったが、調査区東端部の表土掘削時、30cm 間隔で並走する畝間痕跡をⅤ・Ⅵ層上面で検出しており（写真図版参照）、水田域の島畠を想定しておく。Ⅴ・Ⅵ層は As－B 混土で、H－１号住居窪地内に As－B ２次堆積層が堆積する。Ⅵ層は As－C を多量に含むため、古代遺物包含層と類似する。Ⅶ層は古代に該当し、畠跡の畝間覆土に近似することから、基本的には耕作土が主体をなすものと推測している。Ⅷ・Ⅸ層は Hr－FA を含まない As－C 混黒褐色土である。Ⅸ層はＮ－４・５号畠跡の畝間覆土に近似するため、Ⅷ・Ⅸ層の大半は古墳時代以降の畠耕作によって形成された可能性が高い。

前述したＸ層は縄文時代以降に堆積した粘質黒色土（黒ボク土）で、調査区全体に堆積する。本遺跡の南東 350m に位置する蒼海遺跡群（101）では、Ｘｂ層が粘質黒色土であり、Ｘａ層が乾燥した黒色土である。

ＸⅠ層以下は総社砂層である。上部には粘質シルトの薄い層や、粗粒～細粒シルトの硬化層が堆積している。H－４号住居跡を破壊するＤ－23 号土坑・Ｄ－25 号土坑や、H－５号住居跡を破壊するＤ－19 号土坑、H－７号住居跡覆土中位から掘り込まれるＤ－39 号土坑などは、これらの層をカマド構築材として利用するために掘削した遺構であろう。



基本層序　土層説明

Ⅰ．明 褐 色 土　しまりあり。表土水田耕作土。
Ⅱa. 明赤褐色土　硬化。鉄分沈着層。表土水田床土。
Ⅱb. 黒 褐 色 土　硬化。鉄分沈着層。表土水田床土。Ⅱc層は褐色。
Ⅲ．明褐灰色土　しまり強い。均質なシルト質土。As-A微量。As-B微量。
Ⅳ．明褐灰色土　しまり強い。ややシルト質。
As-A微量。As-B微量。As-C中量。Hr-FA微量。
Ⅴ．暗褐灰色土　しまり強い。As-B微量、As-C多量、Hr-FA少量。
Ⅴa. 褐　色　土　硬化。As-B微量。As-C少量。局部的な層。
Ⅴb. 褐　色　土　しまりあり。As-B微量。As-C少量。局部的な層。
Ⅴc. 黄 白 色 土　しまりあり。細粒シルトブロック。局部的な層。
Ⅴd. 暗 褐 色 土　しまり強い。As-B多量。As-C微量。
Ⅴe. 暗 褐 色 土　しまり強い。As-B少量。As-C多量。
Ⅴf. 暗 褐 色 土　しまりあり。As-B多量。As-C微量。Ｈ１住上部Ｂ混土。
Ⅴg. 桃色細粒火山灰　As-B上部ユニット。Ｈ１住内のみ。
Ⅴh. 黄褐～暗褐灰色テフラ　As-Bの二次堆積層。Ｈ１住内のみ。
Ⅵ．暗 褐 色 土　しまり強い。As-B少量、As-C中量～多量。
古代遺構覆土に近似する。時間的にⅤe・Ⅴd層と併行。
Ⅶ．褐　色　土　しまり非常に強い。As-C多量。Hr-FAブロック微量。
畠耕作土か。
Ⅷ．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C少量。C混土。
Ⅸ．黒 褐 色 土　しまりあり。As-C非常に多い。いわゆるC混黒。
Ⅹa. 黒　色　土　しまりややあり。台地部に存在する均質な黒ボク土。縄文包含層。
Ⅹb. 暗褐灰色～極暗褐色土　しまり強い。均質な粘質土。白色軽石微量。縄文包含層。
Ⅹc. 暗褐灰色～暗青灰色土　しまり強い。均質な粘質土。白色軽石微量。縄文包含層。
XIa. にぶい黄褐色～明褐色土　しまり強い。均質な粘質土。白色軽石微量。
XIb. 暗褐灰色～黒褐色土　しまり強い。粘性わずか。白色軽石微量。
XIc. 褐灰～灰白土　しまり強い。粘性ややあり。
XId. 暗 褐 色 土　しまり強い。粘性わずか。白色粘質シルトブロック少量。
XIe. 灰～褐灰色土　しまり強い。粘質シルト。シルトブロック多量。

D-36号土坑　土層説明

１．暗褐色土　しまり強い。白色粒石、シルト粒少量。

0　(1：60)　2 m

Fig. 9　標準堆積土層

Ⅴ　遺構と遺物

１．遺跡の概要

本遺跡は、染谷川と牛池川の中間線付近に位置し、国分尼寺の南約 130 mの地点である。両河川に挟まれた台地のなかには、いくつかの低地が点在しており、その一つに該当する。周辺や隣接地は元総社蒼海遺跡群として区画整理事業に伴う発掘調査が広範囲に及んでいる。本遺跡（93 街区）の主要な時期は、縄文時代中期・古墳時代以降・８世紀・10 世紀以降・中世・近世～近代となっている。以下、各時代ごとに概要と所見を記述し、個別遺構の計測値・覆土・出土遺物等については一覧表のほか、実測図や写真図版を参照していただきたい。

縄文時代

縄文時代では、土坑８基とピット９基を確認した。中期後葉の土器がＤ－31・34 号土坑から、後期中葉～後葉の土器・剥片類・打製石斧などが包含層や遺構外からわずかに出土したのみである。縄文時代の遺構を確認するため、竪穴壁面に見える落ち込みを手掛かりにして、基本層序Ⅷ・Ⅸ層をトレンチ状に人力掘削したものの、目立った成果はなかった。Ｄ－28 号土坑は整った楕円形を呈しているが、他は不整形で、いずれも性格不明である。Ｄ－37 号土坑は倒木痕の可能性がある。ただし、加曾利Ｂ式土器が出土したことには注意しておきたい。周辺では、当該期の集落を伴わずに、墓域のみが浅い谷地形から検出された事例もある。

古墳時代～古代（畠跡・溝）

畠の畝間（＝サク）遺構として、Ｎ－１～５号畠跡を検出した。全面的な掘削は行わず、プラン検出に重点を置き、土層観察のためトレンチ調査を実施した。Ｎ－１号畠跡は主体的に認識できた南北方向をＮ－１ｂ号とする。東西方向はＮ－１ｂ号畠より新しい畝間１条をＮ－１ａ号畠、最も古い畝間数条をＮ－１ｃ号畠とする。Ｎ－１ｂ号畠の主軸方位はＮ－20°－Ｗで、畝間間隔は 98 ～ 116cm、北半部ほど Hr－FA ブロックを明瞭に視認できた。畝間覆土中にのみ Hr－FA ブロックが多い理由としては、Ｎ－１ａ号畠への畝替えの際に、Hr－FA を大量に含む畝土（あるいは畝内部に残存していた FA 純層）を切り崩しながら、サク（畝間）を埋めて均した作業を想定している。Ｎ－１ｂ号畠跡は８世紀代のＨ－７号住居跡に切られており、それよりも古い時期の耕作痕である。

Ｎ－２～６号畠跡については、人力によってⅦ層を全体的に掘り下げて、明瞭に視認できるＸ層上面において検出した。Ｘ層上面では遺存状態が良くないため、畝間が１～２条しか確認できていない。断面形や覆土の状況、周辺の遺構分布状況から、単独の溝ではなく、畝間痕跡と判断した。

Ｎ－２号畠跡は覆土に Hr－FA ブロックを微量～少量含み、新旧複数回を想定した。試掘トレンチの北側に位置する西の２条と東の２条をＮ－２ａ号（畝間 106 ～ 120cm、Ｎ－15°－Ｗ）、試掘のおよそ南側の３条をＮ－２ｂ号（畝間 138 ～ 152cm、Ｎ－10°－Ｗ）、Ｗ－４号溝と並走する１条をＮ－２ｃ号（Ｎ－11°－Ｗ）とする。覆土と主軸方位の類似性から、これらは時間的に連続する可能性がある。Ｎ－２ａ号畠はＨ－２号住居跡の北東隅から約 90cm の地点で止まっており、同時存在していた可能性を残す。Ｎ－２ｂ号畠跡は８世紀前半のＨ－２号住居跡に切られているため、これよりも古い。Ｗ－４号溝については、砂粒などの水成堆積が認められず、Ｎ－２ｃ号と並走することから、畠の境界となるような幅広の畝間を想定しておく。先後関係としては、Ｎ－２ｃ→Ｎ－２ｂ→Ｎ－２ａと推定する。遺物は須恵器長頸瓶破片や瓦片、鉄滓などが出土している。ただし、出土層位は確認面の上部に堆積する包含層（Ⅶ層耕作土）中であり、８世紀以前の畝間に伴うとは断言できない。Ｓ字状口縁台付甕の体部小破片１点が、Ｎ－２ｃ号畠の畝間から出土した。

Ｎ－３号畠跡はほぼ東西方向に走行し、350cm 離れて２条が並走する。覆土には Hr－FA を含む。Ｎ－２ｂ号畠跡とＨ－２号住居跡に切られ、覆土に As－C を大量に含むＤ－38 号土坑を切る。時期は Hr－FA 以降～８世

紀前半以前となり、おそらくは６世紀後半～７世紀代と推測する。

Ｎ－４号畠跡は最も古い畝間で、覆土は Hr－FA を含まない As－C 混土である。５条が並走し、主軸方位はＮ－45°－Ｅで、北東−南西を示す。As－C 以降～ Hr－FA 以前の耕作痕であり、 Ｎ－２号畠からＳ字甕の小片が出土していること、西側の元総社小見Ⅱ遺跡と国分寺国分尼寺中間地域遺跡には４世紀代の拠点的前期集落が存在することを考慮して、古墳時代前期以降と考えておきたい。

Ｎ－５号畠跡は、Ｈ－11 号住居跡の西側と、調査区西壁で検出した。Ｎ－４号畠とは主軸方位も近似し（Ｎ－52°－Ｅ）、覆土に Hr－FA を含まないため、同時期の耕作痕であろう。南側で並走する３条の畝間は、不整形な幅広のＷ－５号溝と重複するが、本溝も耕作に関わる一連の遺構群として捉えておきたい。

古墳時代～古代（住居跡・土坑・ピット）

竪穴住居跡９軒、土坑 10 基、ピット 24 基を確認した。

住居跡は８世紀が４軒、10 世紀が３軒、10 世紀前半以前が２軒である。６・７・９世紀代の住居が存在せず、周辺遺跡の住居分布状況と合致する。

Ｈ－２号住居跡は８世紀代で、貯蔵穴前面に甕を再利用した転用器台を埋設する。床面付近からは石製紡錘車２点が出土した。カマドは総社砂層中の粘質シルトを利用し、左袖が明らかに大きく、半円形の抉りこみがある。壁面の被熱著しく、甕の懸け穴と予測する。竪穴北東隅の土坑１からは遺物が多数出土した。竪穴覆土中位から掘り込まれ、居住時には存在しない。土坑覆土には粘質シルトブロックと炭化物が多量に含まれ、床下の粘質土採取が目的であったと推定する。土坑１は竪穴壁を意識的に破壊していないものと推察されるから、元の居住者が採掘した可能性もある。土坑１出土遺物については、カマドや竪穴覆土下層出土遺物、転用器台と接合しており、床面～覆土下層に遺棄・廃棄されていた遺物とともに掘り返した後で、再度廃棄した行為を想定しておく。遺物の時期はやや混在しており、竪穴廃絶が８世紀前半、土坑掘削が８世紀後半の可能性もある。竪穴中央部のＤ－18 号土坑も同様の採掘土坑であろう。Ｈ－７号住居跡は遺物に乏しいが、８世紀後半以降としておく。カマド右袖補強材に平瓦片を再利用している。いわゆる凝灰質砂岩（総社砂層硬質層ブロック）を袖石としており、縁帯状の加工が認められる。Ｐ－17 は単独ピットと判断したが、出入口ピットの可能性が残る。床面西側にあるＤ－39 号土坑は、竪穴覆土中位から掘り込まれた採掘土坑と推定する。

Ｈ－５号住居跡は８世紀後半と考えられる。カマド煙道部は方形に掘り込まれ、右袖周辺に灰層を厚く盛り上げる。東壁の外側には棚状の浅い掘り込みを伴う。南壁はわずかながら張出しており、単独ピットＰ－13 は出入口に関係する可能性を残しておく。Ｄ－19・21 号土坑については、竪穴覆土上面から掘り込んで、総社砂層上部の粘質土と硬質層を採掘した土坑と判断した。

Ｈ－11 号住居跡は８世紀後半と推測するが、遺物は非常に少ない。中央部は浅い掘り方に貼床を施すものの、全体的には総社砂層中の硬質層上面を地床にしている。東カマドであるが、その北側の東壁には、カマド状の掘り込みが認められ、相同なプランの旧い竪穴住居が存在していたかもしれない。

Ｈ－１号住居跡は、覆土上半が As－B の２次堆積軽石層とユニット上部のピンク色細粒火山灰によって埋没する。上部細粒火山灰も乱れているが、下部ほどではない。西側はＷ－１号溝で破壊される。当初は As－B で埋没した窪地と認識してＳＧ－１としていた。やや斜めに立ち上がる竪穴壁の外側は緩やかに傾斜し、その外縁に周堤を想定する。窪地上面には畝状の高まりが２条以上認められ、窪地内で耕作を行っていた可能性がある。４本主柱穴で、Ｌ字状の段差を伴う。南西隅の落ち込みには灰層が堆積しており、隅カマドの焚口か、あるいは貯蔵穴であろう。床面からは馬歯が検出されており、馬の遺骸を遺棄したらしい。僅かな遺物は 10 世紀前半を示すが、As －B の堆積を考慮して、竪穴の時期は 10 世紀前半以降としておく。

Ｈ－３号住居跡は 10 世紀前半で、西壁に出入口ピットを伴う。Ｄ－17 号土坑・Ｗ－１号溝に切られる。

Ｈ－４号住居跡は 10 世紀前半と考えられる。カマド・貯蔵穴は東西２基ずつあり、東が新しく、西が旧い。新カマドと貯蔵穴からは多数の瓦片が出土し、カマドの構築材・補強材として再利用されたものであろう。元総社遺跡群内では、完形の瓦数点を貯蔵穴の蓋に転用している事例もあるから、その可能性もある。貯蔵穴からは「林」が刻書された平瓦が１点出土した。カマドの北側にＰ－16 が位置しており、テラス状に見えることから、棚状施設の可能性もある。Ｈ－８・９号住居跡はともにＨ－４号住居跡に切られている。主軸が近似することから、８世紀までは遡らないだろう。Ｄ－23・25 号土坑は、床下の粘質土を採取した採掘土坑であろう。新旧はＨ８・９住→Ｄ 25 土→Ｈ４住→Ｄ 23 土である。

土坑のうち、Ｄ－18・19・21・23・25・39 号土坑は、埋没過程にある竪穴住居を掘り込んで、床下にある総社砂層の粘質土を採掘した土坑と判断した。Ｄ－19・23 号土坑には、竪穴住居の貼床下を袋状に掘り込んだ痕跡があり、これを証明する。また、Ｄ－14 号土坑には硬質層を掘り込んだ小土坑が伴い、カマドの袖石材を採掘したものと推測する。土坑底面からは、角柱状に加工された硬質層ブロックが３点出土した。Ｈ－３号住居跡を切るＤ－17 号土坑は柱穴状で、羽釜の口縁部片が出土している。Ｈ－２号住居に切られる土坑が２基ある。Ｄ－27 号土坑は覆土に Hr－FA を含まず、Ｎ－４号畠と同時期頃であろう。Ｄ－38 号土坑は覆土下層に As－C を、上層には Hr－FA ブロックを多量に含む。Ｄ－35・40・41 号土坑はいずれも浅く、性格不明である。

ピットについては 26 基確認したが、建物跡や柱穴列を見出すことはできなかった。浅いものが多く、耕作に伴う可能性もある。Ｐ－13・17 は住居の出入口施設の可能性があるものの、調査時には有効な断面観察ができず、特定には至らなかった。Ｐ－16 はＨ－４号住居の棚状施設と見なすことが可能である。覆土にやや違いがみられ、断定は躊躇する。ただし、カマド内壁から北側へと瓦片が折れて出土していることは、ここが屋内空間であったことを示しているかもしれない。

中世

大溝２条、小溝１条、竪穴状遺構４基、ピット 176 基、掘立柱建物４棟、柱穴列３条、土坑 12 基を確認した。

Ｗ－１号溝は上幅４ｍ弱、底面幅 30cm、深さ約 1.6 ｍの薬研堀である。覆土中位には粘質シルトブロックが東側から大量に投棄されており、土塁を切り崩して埋め戻したものと推測する。この堀は元総社蒼海遺跡群（４）（11）（16）（24）で調査された溝と同一である。

Ｗ－２号溝は湾曲部にあたるらしい。最深部は不明だが、深い堀ではないだろう。この溝の東側には土坑群が展開しており、重複が著しい。溝と重複する場合は土坑の方が新しい。Ｄ－11 号土坑は断面フラスコ状の長方形土坑で、一括埋戻し覆土である。特徴的な形状から、食糧貯蔵が想定される。フラスコ状ではないが、Ｄ－12 号土坑も同様な性格と推測する。Ｄ－６・13・14・15・16 と、Ｄ－４・９は長軸 140 ～ 180cm、短軸 70cm 前後～ 110cm という規格的な土坑群である。遺物はほぼ皆無ながら、Ｗ－２号溝周辺の土坑群は墓坑の可能性もある。浅く短いＷ－３号溝はＤ－４号土坑に伴うものと推測する。Ｆ－１号炉跡から人骨は検出できず、火葬跡とは判断できない。Ｔ－１・２号竪穴状遺構は、不規則な小ピットを伴う浅い竪穴で、性格不明である。Ｔ－３・４号竪穴状遺構は全体像が不明ながら、Ｔ－１・２号竪穴と同時期頃に構築された竪穴群と理解しておく。

多数のピットのうち、掘立柱建物を４棟想定した。Ｂ－１号建物跡はやや大きく、52㎡ある。本建物と小規模なＢ－２・３号建物跡とは、主軸方位と、やや長い柱間（2.4 ｍ前後）が共通する。いずれもＷ－１号溝とは主軸方位が異なり、竪穴群と近い時期を想定しておく。Ｗ－１号溝との直接的新旧関係は不明である。Ｂ－４号建物跡はＷ－１号溝とは共存できないが、近い時期であろう。

ＳＡ－１号柱穴列はＷ－１号溝（堀）に伴う柵列であると考えられる。１間×２間の建物が一体的に付随し、番所的な施設だろうか。ＳＡ－２号は堀と直交する３基のピット群である。ＳＡ－３号は柱間１ｍ程度で直線的に並び、Ｄ－42 号土坑に伴う可能性もある。 （→ 19 頁）

Tab. 3　遺構一覧表（1）住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑①

住居跡一覧表　〔H－6・10号住居跡は欠番〕　単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	遺物	所見	時期
H－1号住居跡（外周テラス部・窪地部：SG－1）	X 59・60 Y 109・110	竪穴長方形、外周部不整楕円	N－180° （S－0°）	竪穴部分〈4.15〉×（4.12）×0.52 外周部分〈4.85〉×〈4.70〉×0.68	推定南壁	南西隅	土師器甕、須恵器坏、平瓦片、馬歯	覆土上～中層にAs－Bの2次堆積。竪穴の外周は窪地状に緩傾斜。4本主柱穴。主柱に囲まれた範囲の床面は段差状に低くなる。ほぼ地床で全面硬化。	10世紀前半以降。
H－2号住居跡	X 60・61 Y 108・109	隅丸長方形（平行四辺形状）	N－56°－E	4.40×3.65 ×0.50	東壁	南東隅	土師器甕・坏、須恵器蓋・坏、転用硯（須恵器高台付坏）、石製紡錘車	カマド左側に浅い小ピット。カマド前に甕口縁部片を埋設した転用器台。下層埋没後、床下粘質シルト採取のため土坑1とD18土が掘削される。	8世紀（前半～）後半
H－3号住居跡	X 58・59 Y 108	（隅丸方形）横長か	N－86°－E	3.50×〈1.77〉 ×0.28	推定東壁	南西隅	須恵器坏・碗、羽釜 鉄鎌（左利き用）	W1溝により東半部消滅。西壁直下に出入口ピット。北側に断面V字状の掘り方。	10世紀前半
H－4号住居跡	X 56 Y 108・109	不整隅丸長方形（やや台形状）	N－95°～104°－E	3.95×（3.21） ×0.32	新：東壁一 旧：西壁一	南東隅 南西隅	土師器甕、須恵器坏・碗、瓦（文字瓦）、刀子、石製品	カマド・貯蔵穴は新旧2基あり、東が新しい。瓦片多数出土。「林」刻書の文字平瓦。埋没後は粘質土採掘坑のD23土によって破壊。	10世紀前半
H－5号住居跡	X 55・56 Y 109	不整隅丸方形	N－72°－E	3.95×3.30 ×0.38	東壁 煙道方形	不明	土師器坏・甕、須恵器坏・碗・甕、刀子	東壁外側にカマドを挟んで棚状のテラス。D19～21土は竪穴埋没中の粘質土採掘坑。	8世紀後半
H－7号住居跡	X 57 Y 107	（隅丸方形）	N－72°－E	3.50×〈1.33〉 ×0.50	東壁	不明	須恵器蓋・坏、平瓦、カマド袖石（砂質凝灰岩）	カマド右袖補強材に平瓦転用。竪穴南西隅に瓦片集中。D39土は竪穴埋没途中の粘質土採掘坑。	8世紀後半
H－8号住居跡	X 56 Y 108・109	不整隅丸方形	N－103°－E	（3.60）×（2.90） ×0.21	不明 東壁か	不明	須恵器坏、瓦片	H4住・D25土に切られ、H9住を切る。平面形はやや平行四辺形状。	10世紀前半以前
H－9号住居跡	X 56 Y 108	不明	（N－81°－W）	〈0.7〉×〈0.3〉 ×0.15前後	不明	不明	須恵器坏、土師器小片	H4・8住や試掘で切られ、わずかに遺存する。	10世紀前半以前
H－11号住居跡	X 57・58 Y 110	方形	N－85°－E	〈2.55〉×3.55 ×0.66	東壁	不明	須恵器坏、土師器小片	中央部以外は地床。床は全面硬化。	8世紀後半

竪穴状遺構一覧表　単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	長軸×短軸×深さ	遺物	所見	時期
T－1号竪穴状遺構	X 56・57 Y 109	不整隅丸長方形	N－89°－E	4.22×3.05×0.5～0.23	土師器片、須恵器片	東壁に幅の狭いテラス状の段差。中央部に段差あり。地床でやや凹凸あり。一部硬化。	中世以降
T－2号竪穴状遺構	X 56 Y 110	隅丸方形	N－84°－E	4.40×3.65×0.50	土師器片、須恵器片	平坦な地床で、全面が硬化顕著。T1竪穴とは性格が異なる可能性あり。Ⅵ層より古い。	中世以降
T－3号竪穴状遺構	X 55 Y 108・109	隅丸方形	N－1°－E	3.50×〈2.47〉×0.10	土師器片、須恵器片	D11土・W2溝より古い。T4竪穴とは同一遺構の可能性あり。平坦な地床。	中世以降
T－4号竪穴状遺構	X 55 Y 108	方形	N－1°－E	〈1.90〉×〈1.30〉×0.08	土師器片	D11土・D15土・W2溝より古い。T3竪穴とは同一遺構の可能性あり。平坦な地床。	中世以降

掘立柱建物跡・柱穴列一覧表　単位：m

遺構名	グリッド	構造・形状	主軸方位	棟方向	梁間×桁行	平均柱間	所見	時期
B－1号掘立柱建物跡	X 55-58 Y 108・109	側柱建物長方形	N－86°－E	東西棟	4.1×11.7(12.3) 1（2）間×5間＋東下屋	桁行平均2.339 ≒7.72尺	主屋。柱穴18基。東梁間は2間。東下屋桁行0.6m。南西隅に梁間0.8mの張出。中央に束柱。 総面積52.3㎡、身舎48㎡。	中世以降
B－2号掘立柱建物跡	X 55-57 Y 109	側柱建物長方形	N－86°－E	東西棟	2.2×5.85・6.05 1間×2間＋西下屋	桁行平均2.282 ≒7.53尺	付属建物。柱穴8基。身舎桁行長4.4～4.7m。 総面積13.1㎡。	中世以降
B－3号掘立柱建物跡	X 56・57 Y 109・110	側柱建物平行四辺形	N－4°－W	南北棟	3.4×4.8・4.7 1間×2（1）間	桁行平均2.365 ≒7.8尺	付属建物。柱穴5基。面積16.1㎡	中世以降
B－4号掘立柱建物跡	X 58 Y 109・110	側柱建物長方形	N－5°－E	南北棟	3.0・3.2×5.9・5.8 1間×3間	桁行平均1.95 ≒6.43尺	付属建物。面積18.1㎡。主軸方位はW1溝と同一。BP16から棒状鉄製品（紡錘車の軸か）	中世以降
SA－1号柱穴列	X 58 Y 107-111	直線状	N－5°－E	南北軸	4間：長さ10.6m以上	2.66m ≒8.773尺	W1溝の西側、2m前後離れた位置を南北方向に並走する。堀の外側に巡らした柵列と推測。1間×2間の建物が付随する。柵列と一体化した番所・詰所的な建物か。	中世以降
SA－1号付属建物	X 57・58 Y 108	側柱建物	N－85°－W	東西棟	2.68・2.5×4.1 1間×2間	桁行平均2.05 ≒6.76尺		
SA－2号柱穴列	X 60 Y 108	直線状	N－88°－E	東西	長さ3.6m 2間	1.80m ≒5.94尺	W1溝とほぼ直交する。	中世以降
SA－3号柱穴列	X 62 Y 106-107	直線状	N－6°－E	南北	長さ3.0m 3間	1.00m ≒3.3尺	D42号土坑に伴う可能性あり。	中世以降

土坑一覧表①　単位：m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D－1号土坑	X 62 Y 108	N－89°－E	楕円形	浅皿状	〈1.66〉×0.76 ×0.17	シルト質土	微小炭化物集中	Ⅲ層に構築。D3土に類似。	近世後期～近代
D－2号土坑	X 61 Y 108	N－89°－E	不整円形	椀状	0.52×0.52 ×0.15	As－A混土	馬幼獣全身骨格	出産直後か死産の仔馬埋葬土坑	近世後期～近代
D－3号土坑	X 58 Y 108	N－90°－	不整隅丸長方形	浅皿状	1.64×〈0.79〉 ×0.18	As－A混 シルト質土	微小炭化物集中	Ⅲ層に構築。D1土に類似。	近世後期～近代
D－4号土坑	X 57 Y 109	N－5°－E	不整隅丸長方形	浅皿状	1.67×0.70 ×0.07	As－B混土		W3溝が伴う可能性あり。	中世以降
D－5号土坑	X 56 Y 108	N－0°－	隅丸方形	箱形	1.12×0.94 ×0.57	As－A混土	瀬戸美濃産磁器薄手酒杯（コバルト染付）	H4住を破壊する。	明治期

Tab. 4　遺構一覧表（２）土坑②・炉跡

土坑一覧表②　　単位：m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D－６号土坑	X 56 Y 108	N－75°－W	隅丸長方形	浅皿状	1.72 × 0.76 × 0.15	As－B 混土	土師器片	D５土に切られる。	中世以降
D－７号土坑	X 55 Y 108	—	略円形	逆台形	0.87 × 0.86 × 0.38	As －B 混 シルト質土	肥前磁器・蕎麦猪口（大橋Ⅳ期：1680-1780）、産地不明陶器土瓶蓋	覆土と掘り方の間にわずかな隙間あり。掘り方土の厚さ１～２cm。埋桶遺構と推測。	18 世紀代 As-A 降下前
D－８号土坑	X 55・56 Y 108	N－83°－W	長方形	箱形	2.89 × 1.06 × 0.31	As－B 混土	瀬戸美濃陶器・香炉片、在地産土師質焙烙片	H４・８・９住を切る。	近世 As-A 降下前
D－９号土坑	X 60・61 Y 108	N－87°－W	長方形	箱形	1.72 × 〈0.70〉 × 0.24	As－B 混土	土師器片	N２・４畠を切る。	中世以降
D－10 号土坑	X 55 Y 110	N－23°－E	（方形）	浅皿状	〈1.28〉× 〈0.54〉 × 0.10	As－B 混土		D 13 土に切られる。	中世以降
D－11 号土坑	X 55 Y 109・110	N－5°－E	隅丸長々方形	フラスコ状～箱形	4.74 × 0.66 ～ 1.10 × 0.54	As－B 混土 一括埋戻し	土師器・須恵器片	T３竪・D 14 土を切る。	中世以降
D－12 号土坑	X 56 Y 107・108	N－10°－W	隅丸長方形	箱形	〈1.77〉× 0.74 × 0.44	As－B 混土	土師器・須恵器片	D 23 土→D 12 土→D８土	中世以降
D－13 号土坑	X 55 Y 109	N－86°－E	隅丸長方形	浅皿条	〈1.52〉× 1.12 × 0.15	As－B 混土		D 10 土→D 13 土→D 11 土	中世以降
D－14 号土坑	X 55 Y 108・109	N－11°－E	不整隅丸長方形	浅皿状	1.86 × 〈0.66〉 × 0.14	As－B 混土		D 11 土に切られる。	中世以降
D－15 号土坑	X 55 Y 108	N－0°－	隅丸長方形	逆台形	1.42 × 0.75 × 0.23	As－B 混土		W２溝→D 15 土→D７土	中世以降
D－16 号土坑	X 55 Y 108	N－32°－E	不整隅丸方形	逆台形	〈0.94〉× 0.73 × 0.21	As－B 混土		D 29 土を切る。	中世以降
D－17 号土坑	X 58 Y 109	N－5°－W	略円形	逆台形	0.69 × 0.60 × 0.46	As－C 混土	羽釜口縁部片	H３住を切る。	10 世紀
D－18 号土坑	X 60 Y 108・109	N－2°－E	不整円形	逆台形	1.02 × 0.91 × 0.36	As－C 混土	須恵器・土師器片	H２住覆土中位から掘り込む。	８世紀後半以降
D－19 号土坑	X 55・56 Y 109	N－26°－W	不整形	逆台形 袋状	2.03 × 2.0 × 0.54	As－C 混土	土師器片、総社砂層粘質土と硬質層ブロックの採掘土坑	H５住埋没後に掘削された総社砂層粘質土と硬質層ブロックの採掘土坑	10 世紀代と推測
D－20 号土坑	X 55・56 Y 110	N－1°－E	不整隅丸長方形	逆台形	0.96 × 0.60 × 0.23	２基重複する。ともに As－C 混土		H５住が半分程度埋没した段階で掘削された粘質土採掘土坑。	９～ 10 世紀代と推測
D－21 号土坑	X 55 Y 110	N－1°－E	不整隅丸長方形	逆台形	0.52 × 0.40 × 0.20		土師器・須恵器片		
D－22 号土坑	X 62 Y 107	N－90°－	隅丸長方形	逆台形	1.32 × 〈0.31〉 × 0.21	As－B 混土		N４畠と切る。東壁。	中世以降
D－23 号土坑	X 56 Y 108	N－17°－W	不整楕円形	逆台形状 袋状	2.22 × 1.91 × 0.45	As－C 混砂質土・粘質土	羽釜・須恵器片	H４住が半分程度埋没した段階で掘削された粘質土採掘土坑。	10 世紀
D－24 号土坑	X 60 Y 108	N－40°－E	不整隅丸方形	逆台形	×　×	As－B 混土			中世以降
D－25 号土坑	X 56/ Y 107	N－9°－E	不整形	擂鉢状	0.94 × 0.7 × 0.67	As－C 混粘質土		H８住→D 25 土→H４住	10 世紀
D－26 号土坑	X 55 Y 110	N－30°－W	楕円形	逆台形	0.64 × 0.46 × 0.15	極暗褐色粘質土		ＪＰ６と重複。	縄文時代
D－27 号土坑	X 60 Y 108	—	円形か	逆台形状	0.94 × 0.29 × 0.22	As－C 多量		H２住に切られる。	古墳時代前期
D－28 号土坑	X 60・61 Y 108	N－63°－W	不整楕円形	浅皿状	1.49 × 0.57 × 0.20	暗褐色粘質土		中央に深さ 15cm の小ピット。陥穴形態に類似するが浅い。	縄文時代
D－29 号土坑	X 55 Y 108	N－0°－	隅丸正方形	浅皿状	1.16 × 1.14 × 0.09	As－B 混土		D８・15・16 土に切られる。	中世以降
D－30 号土坑	X 56 Y 108	N－44°－E	不整楕円形	逆台形	1.69 × 0.71 × 0.23 以上	黒褐色粘質土		H４住掘り方面で検出。	縄文時代
D－31 号土坑	X 58 Y 109	N－2°－W	不整楕円形	箱形	2.31 × 0.75 × 0.36	黒褐色粘質土	中期後葉土器片１	D 33 土と重複。	縄文中期後葉
D－32 号土坑	X 61 Y 108	N－74°－E	不整隅丸方形	逆台形	0.88 × 0.60 × 0.08	黒褐色粘質土		ＪＰ７と重複。	縄文時代
D－33 号土坑	X 58 Y 109	N－52°－W	不整楕円形	椀状	0.72 × 0.51 × 0.43	黒褐色粘質土		D 31 土と重複。	縄文中期と推定
D－34 号土坑	X 58 Y 110	N－52°－E	不整隅丸方形	逆台形	1.12 × 0.90 × 0.23	黒褐色粘質土		ＪＰ８と重複。	縄文中期後葉
D－35 号土坑	X 56 Y 109・110	N－85°－W	不整隅丸方形	浅皿状	1.27 × (0.80) × 0.10	As－C 混褐色土		N５畠→D 35 土→H５住	８世紀以前
D－36 号土坑	X 60 Y 110	N－85°－W	不整隅丸方形	浅皿状	0.71 × 〈0.26〉 × 0.15	暗褐色土		H１住に切られる。基本層序Ａトレンチ内。	縄文時代か
D－37 号土坑	X 56・57 Y 110	N－12°－E	長楕円形	逆台形	2.7 × 0.87 × 0.34	黒褐色粘質土		N５畠に切られる。倒木痕か。	縄文時代
D－38 号土坑	X 61 Y 109	N－74°－E	略円形	椀状	0.84 × 0.42 × 0.47	下層 As-C 多量、上層 Hr-FA 多量		H１住・N２畠に切られる。	古墳時代前期以降
D－39 号土坑	X 57 Y 107	N－75°－E	不整楕円形	〈浅皿状〉	1.01 × 0.69 × 0.11 以上	As-C 混土・粘質シルトブロック		H７住の下層が埋没した段階で掘り込まれた粘質土採掘土坑。	８世紀～10 世紀代
D－40 号土坑	X 57 Y 109	N－8°－W	不整隅丸方形	逆台形	1.27 × 0.58 × 0.10	As－C 混褐色土		D 41 土と重複。T１竪穴に切られる。	古代
D－41 号土坑	X 57 Y 109	N－68°－E	不整隅丸方形状	浅皿状	(1.04) × 0.56 × 0.05	As－C 混褐色土		D 40 土と重複。T１竪穴に切られる。	古代
遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
F－１号炉跡	X 56 Y 108	N－35°－W	楕円形	椀状	1.72 × 〈0.70〉× 0.24	As－B 混土 灰・焼土多量	微小炭化物多量	骨片は認められず、火葬跡ではない。	中世以降

Tab. 5　遺構一覧表（3）溝・ピット①

溝一覧表　単位：m

遺構名	グリッド	走向方位	断面形	上端幅×下端幅×深さ	覆土	遺物	所見	時期
W－1号溝	X 58-60 Y 107-110	N－5°－E	V字状 薬研形	4.16～3.63×0.25～0.35 ×1.75～1.65	As－B混土、粘質土ブロック、粘質シルトブロック	土師器片、須恵器片 瓦片	壁面に数か所のテラス状の掘り込みあり。覆土中位に粘質シルトブロックが東側から大量に投棄された層あり。堀の東側に土塁を想定。	中世以降
W－2号溝	X 55 Y 108-110	N－14°－E	逆台形	〈1.90〉×下端幅不明 ×0.47以上	As－B混土	土師器片、須恵器片	調査区西壁で一部確認。溝の湾曲部・屈曲部にあたる。テラス状平坦面あり。	中世以降
W－3号溝	X 57・58 Y 108	N－87°－E	U字状	0.14～0.09×0.08 長さ1.47	As－B混土		短く、浅い溝。D4土に伴う境界溝の可能性あり。	中世以降
W－4号溝	X 61・62 Y 107-110	N－6°－W	逆台形状 皿状	0.75～0.39×1.30～0.37 ×0.27～0.08	As－C混 黒色土		最上層はAs－B混で削平。下層は黒色C混土。上層はHr-FA含む。	古墳前期以降
W－5号溝	X 56 Y 110	N－4°－W	浅皿状	1.05～0.48×0.26～0.90 ×0.05～0.17	As－C混 黒色土		N5畠に伴う。	古墳前期以降

ピット一覧表①　単位：cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP- 1	X 62、Y 109	略円形	15	中世以降
BP- 2	X 62、Y 109	略円形	19	中世以降
BP- 3	X 62, Y 107	楕円形	3	中世以降
BP- 4	X 62, Y 107	略円形	16	中世以降
BP- 5	X 60、Y 108	楕円形	10	中世以降
BP- 6	X 61、Y 107	略円形	6	中世以降
BP- 7	X 61、Y 107	不整楕円形	5	中世以降
BP- 8	X 61、Y 107	楕円形	4	中世以降
BP- 9	X 61, Y 107	略円形	15	中世以降
BP-10	X 58、Y 108	楕円形	55	中世以降
BP-11	X 58、Y 108	略円形	42	中世以降
BP-12	X 58、Y 109	略円形	46	中世以降
BP-13	X 58、Y 108	略円形	25	中世以降
BP-14	X 57、Y 108	不整円形	54	中世以降
BP-15	X 57、Y 108	楕円形	17	中世以降
BP-16	X 58、Y 109	不整楕円形	37	中世以降
BP-17	X 58、Y 109	円形	25	中世以降
BP-18	X 58、Y 109	円形	63	中世以降
BP-19	X 58、Y 109	略円形	24	中世以降
BP-20 (P-25)	X 58、Y 109	略円形	28	中世以降
BP-21	X 58、Y 109	円形	10	中世以降
BP-22	X 57、Y 109	円形	14	中世以降
BP-23	X 57、Y 110	略円形	35	中世以降
BP-24	X 57、Y 110	不整隅丸長方形	13	中世以降
BP-25	X 58、Y 110	円形	15	中世以降
BP-26 (P-28)	X 58、Y 109	略円形	31	中世以降
BP-27	X 58、Y 109	不整楕円形	11	中世以降
BP-28	X 58、Y 109	略円形	28	中世以降
BP-29	X 58、Y 109	略円形	45	中世以降
BP-30a	X 58、Y 109	円形	50	中世以降
BP-30b	X 58、Y 109	楕円形	41	中世以降
BP-31	X 58、Y 109	円形	48	中世以降
BP-32	X 58、Y 110	円形	49	中世以降
BP-33	X 58、Y 110	円形	8	中世以降
BP-34	X 56、Y 110	不整楕円形	8	中世以降
BP-35	X 56、Y 110	不整楕円形	40	中世以降
BP-36	X 56、Y 110	楕円形	9	中世以降
BP-37	X 56、Y 109	略円形	46	中世以降
BP-38	X 55、Y 110	円形	31	中世以降
BP-39	X 55、Y 110	円形	20	中世以降
BP-40	X 55、Y 110	不整円形	23	中世以降
BP-41	X 55、Y 110	略円形	34	中世以降
BP-42	X 55、Y 110	略円形	11	中世以降
BP-43	X 55、Y 110	略円形	19	中世以降
BP-44	X 55、Y 110	楕円形	51	中世以降
BP-45	X 55、Y 110	略円形	36	中世以降
BP-46	X 57、Y 108	略円形	49	中世以降
BP-47	X 57、Y 108	不整形	8	中世以降
BP-48	X 57、Y 110	円形	24	中世以降
BP-49	X 57、Y 110	円形	16	中世以降
BP-50	X 57、Y 110	円形	55	中世以降
BP-51	X 57、Y 110	円形	15	中世以降
BP-52	X 56、Y 108	不整楕円形	54	中世以降
BP-53	X 56、Y 109	円形	20	中世以降
BP-54	X 56、Y 109	円形	51	中世以降

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP-55a	X 56、Y 109	略円形	56	中世以降
BP-55b	X 56、Y 109	楕円形	43	中世以降
BP-56	X 56、Y 109	楕円形	53	中世以降
BP-57	X 56、Y 109	楕円形	55	中世以降
BP-58	X 57、Y 109	不整円形	28	中世以降
BP-59	X 57、Y 109	不整楕円形	27	中世以降
BP-60	X 55、Y 108	隅丸方形	50	中世以降
BP-61	X 55、Y 108	不整楕円形	35	中世以降
BP-62	X 56、Y 108	略円形	41	中世以降
BP-63	X 56、Y 109	円形	34	中世以降
BP-64	X 57、Y 109	円形	14	中世以降
BP-65	X 57、Y 109	円形	12	中世以降
BP-66	X 57、Y 109	楕円形	4	中世以降
BP-67	X 57、Y 109	円形	11	中世以降
BP-68	X 57、Y 108	不整楕円形	42	中世以降
BP-69	X 56、Y 109	円形	44	中世以降
BP-70	X 56、Y 109	略円形	24	中世以降
BP-71	X 56、Y 110	略円形	17	中世以降
BP-72	X 56、Y 110	8	16	中世以降
BP-73	X 56、Y 109	円形	43	中世以降
BP-74	X 55、Y 109	円形	31	中世以降
BP-75	X 56、Y 110	楕円形	20	中世以降
BP-76	X 55、Y 110	楕円形	5	中世以降
BP-77	X 56、Y 110	略円形	8	中世以降
BP-78	X 55、Y 110	円形	20	中世以降
BP-79	X 55、Y 110	楕円形	12	中世以降
BP-80	X 57、Y 108	略円形	47	中世以降
BP-81	X 55、Y 108	円形	8	中世以降
BP-82	X 55、Y 109	円形	27	中世以降
BP-83	X 55、Y 108	不整楕円形	57	中世以降
BP-84	X 55、Y 109	略円形	65	中世以降
BP-85	X 55、Y 109	円形	49	中世以降
BP-86	X 55、Y 109	不整円形	20	中世以降
BP-87	X 55、Y 109	円形	28	中世以降
BP-88	X 55、Y 109	円形	19	中世以降
BP-89	X 55、Y 109	円形	10	中世以降
BP-90	X 55、Y 108	円形	30	中世以降
BP-91	X 55、Y 108	不整楕円形	17	中世以降
BP-92	X 55、Y 109	円形	28	中世以降
BP-93a	X 55、Y 110	略円形	82	中世以降
BP-93b	X 55、Y 110	楕円形	63	中世以降
BP-94	X 55、Y 110	円形	40	中世以降
BP-95	X 57、Y 108	略円形	27	中世以降
BP-96	X 55、Y 108	楕円形	8	中世以降
BP-97	X 56、Y 108	楕円形	37	中世以降
BP-98	X 56、Y 108	略円形	24	中世以降
BP-99	X 58、Y 108	円形プラン	－	中世以降
BP-100	X 57、Y 108	略円形	26	中世以降
BP-101	X 57、Y 109	円形	13	中世以降
BP-102	X 57、Y 109	円形	16	中世以降
BP-103	X 58、Y 108	略円形	24	中世以降
BP-104	X 56、Y 109	略円形	60	中世以降
BP-105	X 56、Y 109	略円形	65	中世以降
BP-106	X 58、Y 105	楕円形	20	中世以降
BP-107	X 56、Y 108	不整円形	37	中世以降
BP-108	X 56、Y 108	不整楕円形	50	中世以降
BP-109	X 56、Y 108	不整楕円形	46	中世以降
BP-110	X 58、Y 110	円形	52	中世以降

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP-111	X 58、Y 110	円形	33	中世以降
BP-112	X 57、Y 110	円形	51	中世以降
BP-113	X 57、Y 110	楕円形	37	中世以降
BP-114	X 57、Y 110	楕円形	23	中世以降
BP-115	X 57、Y 110	円形	21	中世以降
BP-116	X 58、Y 110	円形	33	中世以降
BP-117	X 57、Y 110	不整円形	17	中世以降
BP-118	X 57、Y 110	不整楕円形	48	中世以降
BP-119	X 57、Y 110	不整楕円形	27	中世以降
BP-120	欠番			
BP-121	X 57、Y 110	楕円形	44	中世以降
BP-122	欠番			
BP-123	X 57、Y 110	不整楕円形	30	中世以降
BP-124	X 57、Y 110	楕円形	24	中世以降
BP-125	X 57、Y 109	略円形	10	中世以降
BP-126	X 57、Y 109	円形	21	中世以降
BP-127	X 57、Y 110	略円形	8	中世以降
BP-128	X 57、Y 110	略円形	28	中世以降
BP-129	X 55、Y 110	楕円形	46	中世以降
BP-130	X 55、Y 110	略円形	12	中世以降
BP-131	X 55、Y 110	円形	35	中世以降
BP-132	X 55、Y 110	楕円形	5	中世以降
BP-133	X 55、Y 110	略円形	15	中世以降
BP-134	X 61、Y 109	略円形	15	中世以降
BP-135	X 60、Y 107	円形	8	中世以降
BP-136	X 60、Y 108	円形	15	中世以降
BP-137	X 60、Y 108	楕円形	17	中世以降
BP-138	X 60、Y 108	楕円形	10	中世以降
BP-139	X 60、Y 107	略円形	26	中世以降
BP-140	X 60、Y 108	略円形	10	中世以降
BP-141	X 60、Y 108	略円形	14	中世以降
BP-142	X 60、Y 107	楕円形	10	中世以降
BP-143	欠番			
BP-144	X 60、Y 107	円形	17	中世以降
BP-145	X 61、Y 107	円形	15	中世以降
BP-146	X 61、Y 107	略円形	16	中世以降
BP-147	X 61、Y 107	楕円形	16	中世以降
BP-148	欠番			
BP-149	X 61、Y 107	略円形	16	中世以降
BP-150	欠番			
BP-151	X 62、Y 106	略円形	18	中世以降
BP-152	欠番			
BP-153	X 61、Y 107	略円形	15	中世以降
BP-154	X 61、Y 107	不整楕円形	15	中世以降
BP-155	X 61、Y 107	円形	12	中世以降
BP-156	X 62, Y 107	略円形	20	中世以降
BP-157	X 60、Y 108	略円形	25	中世以降
BP-158	X 61、Y 108	不整円形	19	中世以降
BP-159	X 61、Y 108	隅丸方形	15	中世以降
BP-160	X 62、Y 108	不整楕円形	17	中世以降
BP-161	X 62、Y 108	楕円形	12	中世以降
BP-162	X 60、Y 108	円形	23	中世以降
BP-163	X 61、Y 107	不整円形	16	中世以降
BP-164	欠番			
BP-165	欠番			
BP-166	欠番			
BP-167	欠番			
BP-168	欠番			

Tab. 6　遺構一覧表（4）ピット②

ピット一覧表②　単位：cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP-169	欠番			
BP170a	X 58、Y 109	円形	23	中世以降
BP170b	X 58、Y 109	円形	30	中世以降
BP-171	X 58、Y 109	長楕円形	42	中世以降
BP-172	X 58、Y 109	方形	20	中世以降
BP-173	X 56、Y 108	楕円形	33	中世以降
BP-174	X 55、Y 108	略円形	38	中世以降
BP-175	X 58、Y 109	略円形	18	中世以降
BP-176	X 58、Y 108	円形	30	中世以降
BP-177	X 55、Y 108	円形	18	中世以降
BP-178	X 55、Y 108	隅丸方形状	17	中世以降
BP-179	X 55、Y 108	隅丸方形	9	中世以降
BP-180	X 56、Y 110	隅丸方形	20	中世以降
BP-181	X 56、Y 110	円形	54	中世以降
BP-182	X 61、Y 110	円形	62	中世以降
P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
JP- 1	X 60、Y 108	円形	18	縄文時代
JP- 2	X 57、Y 109	円形	30	縄文時代
JP- 3	X 60、Y 108	不整楕円形	27	縄文時代
JP- 4	X 60、Y 110	円形	15	縄文時代

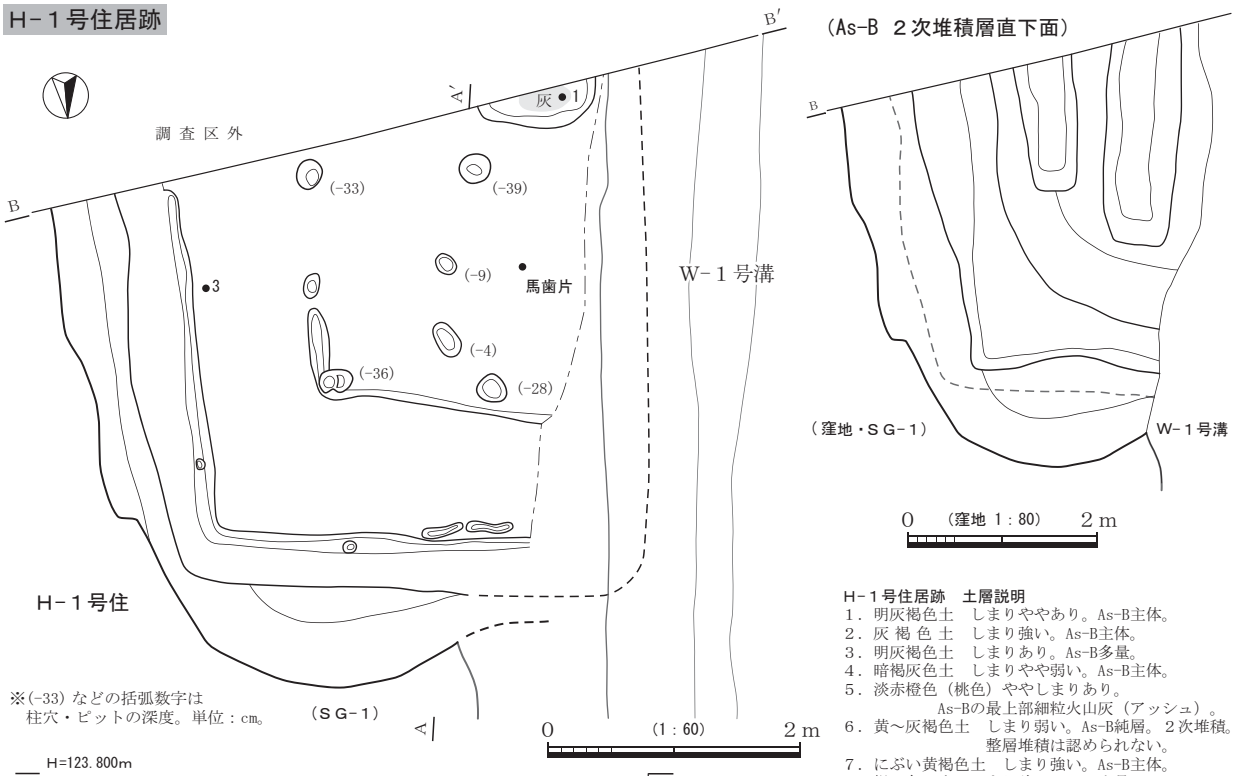
JP- 5	X 60、Y 110	円形	16	縄文時代
JP- 6	X 55、Y 109	不整楕円形	52	縄文時代
JP- 7	X 61、Y 108	不整形	10	縄文時代
JP- 8	X 58、Y 110	楕円形	27	縄文時代
P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
P- 1	X 58、Y 110	円形	28	中世以降
P- 2	X 58、Y 110	楕円形	10	古墳～古代
P- 3	X 58、Y 110	略円形	11	古墳～古代
P- 4	X 58、Y 110	円形	18	古墳～古代
P- 5	X 58、Y 110	不整形	12	古墳～古代
P- 6	X 57、Y 110	不整形	4	古墳～古代
P- 7	X 57、Y 109	楕円形	16	古墳～古代
P- 8	X 57、Y 109	楕円形	10	中世以降
P- 9	X 57、Y 110	不整形	10	古墳～古代
P-10	X 57、Y 110	楕円形	12	古墳～古代
P-11	欠番			
P-12	X 57、Y 110	不整形	6	古墳～古代
P-12	欠番			
P-13	X 56、Y 110	円形	13	古代
P-14	欠番			
P-15	欠番			

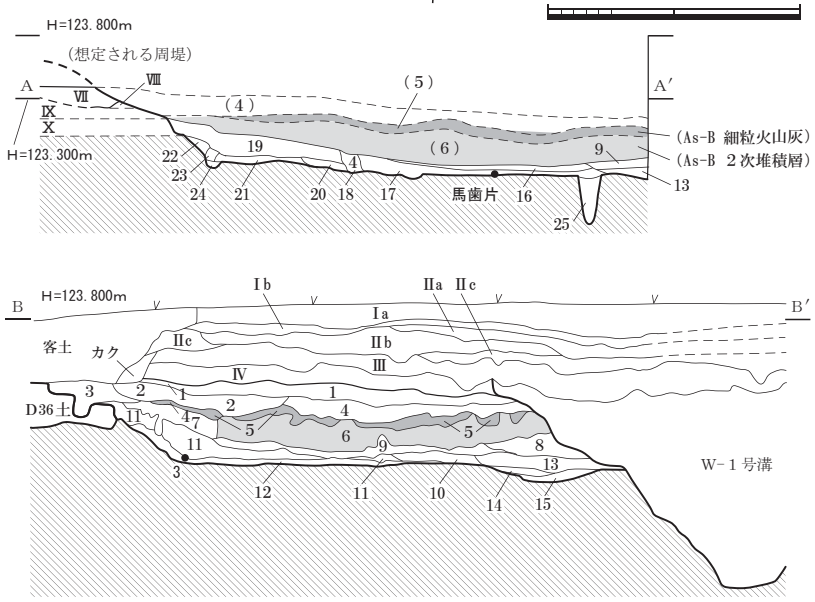
P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
P-16	X 57、Y 108	隅丸方形	19	古代
P-17	X 57、Y 108	円形	61	古代
P-18	X 56、Y 107	楕円形状	41	古代
P-19	欠番			
P-20	X 58、Y 109	円形	20	古墳～古代
P-21	X 58、Y 109	円形	13	古墳～古代
P-22	X 57、Y 109	楕円形	58	古墳～古代
P-23	X 58、Y 109	円形	13	中世以降
P-24	X 58、Y 109	円形	16	古墳～古代
P-25	BP-20			中世以降
P-26	BP-19			中世以降
P-27	X 58、Y 109	円形	13	古墳～古代
P-28	BP-26			中世以降
P-29	欠番			
P-30	X 60、Y 108	円形	15	古墳～古代
P-31	X 60、Y 108	楕円形	22	古墳～古代
P-32	X 60、Y 108	円形	23	古墳～古代
P-33	X 61、Y 110	楕円形	14	古墳～古代
P-34	X 57、Y 108	楕円形	16	古墳～古代
P-35	X 57、Y 108	円形	15	古墳～古代

近世～近代

土坑６基がほぼ直線上に並んでおり、地境や太畦周辺に構築されたものであろう。近世のＤ－７号土坑は埋桶遺構と推測され、覆土と薄い掘り方土の間にわずかな間隙があった。Ｄ－８号土坑の主軸方位は境界線とほぼ並行しているものと推測する。近世後期～近代のＤ－１・３号土坑は微小炭化物が集中し、Ⅳ層中に掘り込まれている。Ｄ－５号土坑からは明治期と推測される瀬戸美濃産の小型端反碗が出土した。Ｄ－２号土坑もⅣ層に掘り込まれており、馬の幼獣を埋葬した土坑である。サイズや埋葬姿勢から、死産あるいは出産直後と推測する。Ⅳ章で既述したが、調査区東側で近世～近代頃の南北方向の畠跡畝間群を検出した。畠跡でもあるＷ－４号溝の土層断面を見ると、Ⅳ層（As－Ａ混土）がⅤ・Ⅵ層を掘り込んで畝間を形成していることが明瞭である。畝間間隔が 30cm と密なため、検出面では２～３時期を含む。

H－１号住居跡

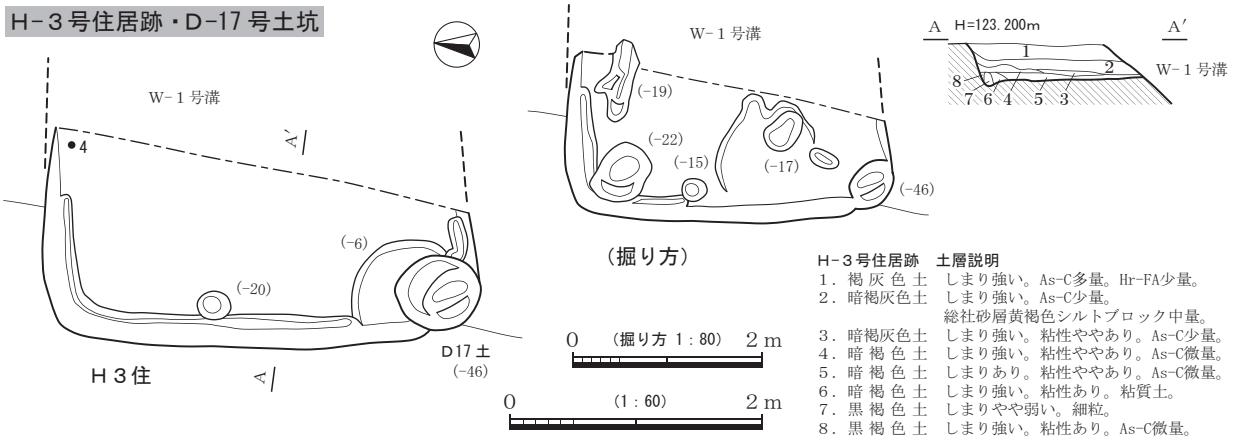




H－１号住居跡　土層説明

1．明灰褐色土　しまりややあり。As-B主体。
2．灰 褐 色 土　しまり強い。As-B主体。
3．明灰褐色土　しまりあり。As-B多量。
4．暗褐灰色土　しまりやや弱い。As-B主体。
5．淡赤橙色（桃色）ややしまりあり。
　　As-Bの最上部細粒火山灰（アッシュ）。
6．黄～灰褐色土　しまり弱い。As-B純層。２次堆積。
　　整層堆積は認められない。
7．にぶい黄褐色土　しまり強い。As-B主体。
8．褐　色　土　しまり強い。As-C少量。
9．暗褐灰色土　しまり強い。As-C少量。
10．褐　色　土　しまり強い。As-C少量。炭微量。
11．褐　色　土　しまり強い。As-C少量。
　　シルト粒ブロック少量。
12．褐灰～暗褐灰色土　しまりあり。As-C、灰少量。
13．褐　色　土　しまり強い。As-C少量。Hr-FA微量。
14．暗 褐 色 土　しまりあり。灰少量。As-C微量。
　　焼土微量。全体に細粒。
15．褐　色　土　しまり強い。As-C少量。
16．黒 褐 色 土　しまり強い。As-C中量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒多量。
17．褐～灰褐色土　しまり強い。As-C中量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒多量。
18．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒中量。
19．暗～黒褐色土　しまり強い。As-C多量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒多量。
20．灰 褐 色 土　しまり強い。As-C多量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒多量。
21．褐　色　土　しまり強い。As-C多量。炭化物少量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒多量。
22．黒 褐 色 土　しまりあり。As-C少量。
　　総社砂層黄褐色シルト粒少量。
23．褐　色　土　しまり強い。粘性ややあり。
　　As-C、シルト粒微量。壁の崩れ。
24．褐　色　土　しまりややあり。粘性ややあり。
　　As-C少量。シルト質。周溝。
25．褐　色　土　しまりあり。粘性弱い。主柱穴。
　　総社砂層黄褐色シルト粒中量。

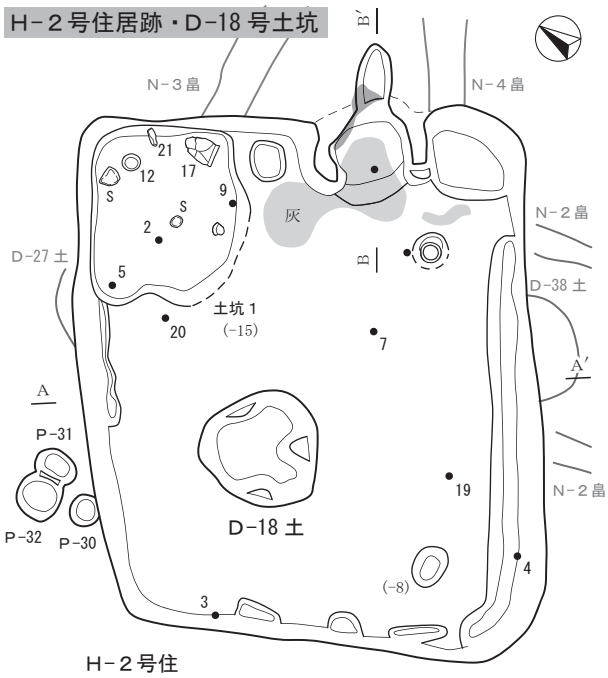
H－３号住居跡・D－17 号土坑

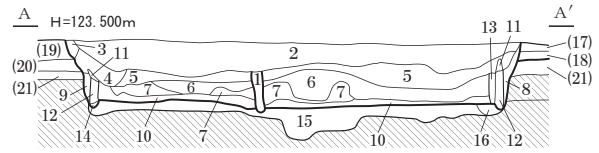


H－３号住居跡　土層説明

1．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
2．暗褐灰色土　しまり強い。As-C少量。
　　総社砂層黄褐色シルトブロック中量。
3．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C少量。
4．暗 褐 色 土　しまり強い。粘性ややあり。As-C微量。
5．暗 褐 色 土　しまりあり。粘性ややあり。As-C微量。
6．暗 褐 色 土　しまり強い。粘性あり。粘質土。
7．黒 褐 色 土　しまりやや弱い。細粒。
8．黒 褐 色 土　しまり強い。粘性あり。As-C微量。

Fig.10　遺構図（1）　H－１・３号住居跡 / D－17 号土坑





0 (1：60) 2 m

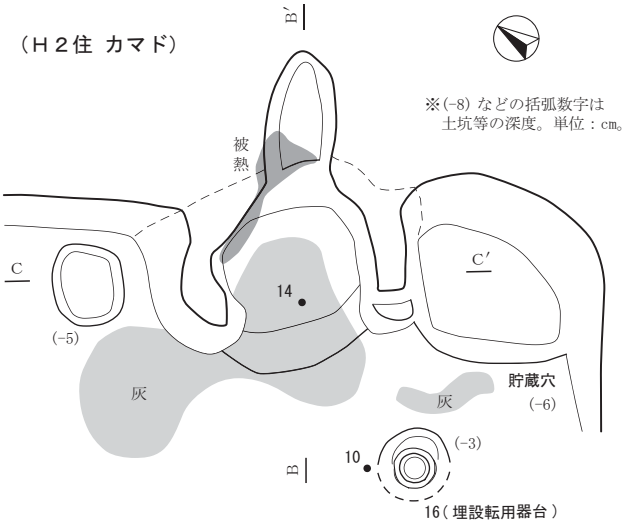
H－２号住居跡　土層説明（A－A′）

1．暗褐色土　しまりややあり。As-C中量。D17土覆土。竪穴埋没途中の土坑。
2．褐 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
3．褐 色 土　しまりあり。As-C中量。Hr-FA少量。全体に細粒。
4．暗褐色土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
5．暗褐色土　しまりあり。As-C中量。Hr-FA、粘質土ブロック微量。埋戻し土。
6．褐 色 土　しまり強い。As-C中量。Hr-FA少量。粘質土ブロック多量。埋戻土。
7．暗褐色土　しまりあり。As-C中量。Hr-FA少量。ややシルト質。埋戻し土。
8．褐 色 土　しまりあり～強い。As-C微量。壁体と壁面の間の埋土。
9．褐 色 土　しまりあり。As-C微量。壁体と壁面の間の埋土。
10. 暗褐灰色土～暗褐色土　しまりあり。As-C少量。粗粒シルト質。
11. 黒褐色土　しまり弱い。As-C少量。壁体芯材の腐食土と推測。
12. 黒褐色土　しまり弱い。As-C少量。壁体芯材の腐食土と推測。
13. 褐 色 土　しまり強い。As-C微量。壁体外面の塗り壁土と推測。
14. 明褐色土　しまりややあり。粘性あり。粘質シルト。
15. 褐灰色土　しまり非常に強い。一部硬化。貼床。
　　総社砂層黄褐色シルトブロック多量。
16. 暗褐灰色土　しまり非常に強い。周溝掘り方もしくは旧周溝。貼床。
　　総社砂層黄褐色シルトブロック中量。
17. 暗褐色土　しまり強い。Hr-FAブロック中量。As-C中量。D38土。
18. 黒 色 土　しまり強い。As-C非常に多い。D38土。
19. 黒褐色土　しまり強い。As-C中量。Hr-FA少量。古墳～古代包含層。
20. 黒 色 土　しまりあり。As-C多量。古墳時代包含層。
21. 暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。白色軽石微量。縄文時代包含層。

H－２号住居跡 カマド　土層説明（B－B′，C－C′）

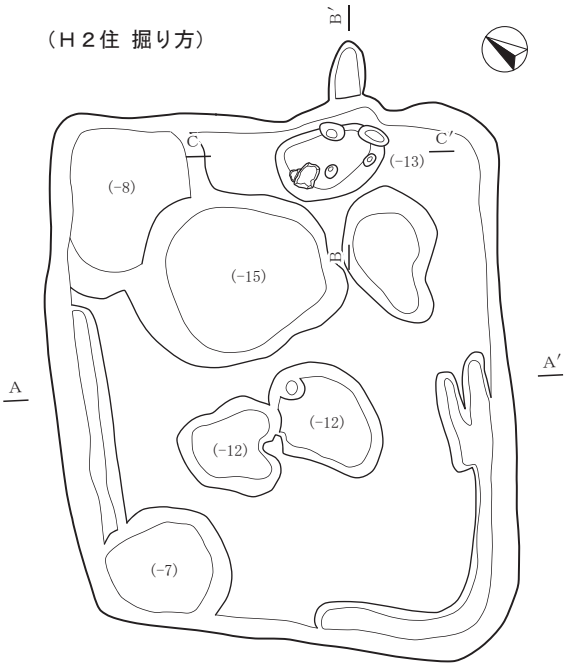
1．褐灰色土　しまり強い。As-C少量。Hr-FA軽石微量。焼土微量。
2．褐灰色土　しまり強い。As-C微量。焼土ブロック多量。
3．褐灰色土　しまりやや強い。焼土主体。粘質シルト粒多量。
4．暗褐色土　しまり弱い。As-C微量。炭化物微量。
5．暗褐色土　しまり弱い。As-C微量。炭化物微量。
6．暗赤褐色土　しまり弱い。焼土粒主体。
7．暗褐色土　しまりやや強い。粘性あり。焼土微量。粘質シルト粒多量。
8．灰白色土　しまり強い。粘性あり。粘質土主体。
9．褐灰色土　しまりあり。焼土、炭化物少量。
10. 褐灰色土　しまりあり。粘性ややあり。As-C少量。焼土微量。
11. 褐灰色土　しまりあり。粘性ややあり。As-C・焼土・炭化物少量。
12. にぶい赤黄褐色土　天井の崩れ。シルトブロック主体。焼土多量。
13. 黒褐～暗褐灰色土　軟弱。灰層。
14. 明黄褐色土　硬化。シルトブロック主体の貼床。
15. 暗褐色土　しまり非常に強い。上面硬化。As-C微量。粘質土ブロック主体。
　　貼床。
16. 暗褐灰色土　しまり強い。灰中量。緻密質シルトブロック少量。貼床。
17. 明褐灰色土　しまり非常に強い。As-C中量。粘質シルト主体のカマド袖。
18. 暗褐灰色土　しまり非常に強い。粘性わずか。As-C微量。
　　粘質土ブロック主体のカマド袖。
19. 明褐灰色土～灰白　しまり非常に強い。粘質土・シルト主体の貼床。

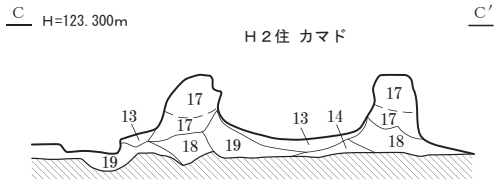
（Ｈ２住 カマド）

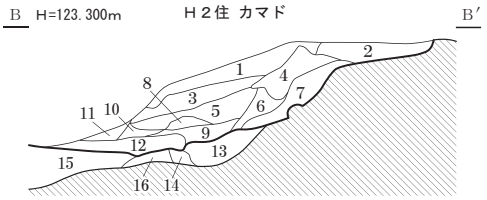


※(－8) などの括弧数字は
土坑等の深度。単位：cm。

（Ｈ２住 掘り方）



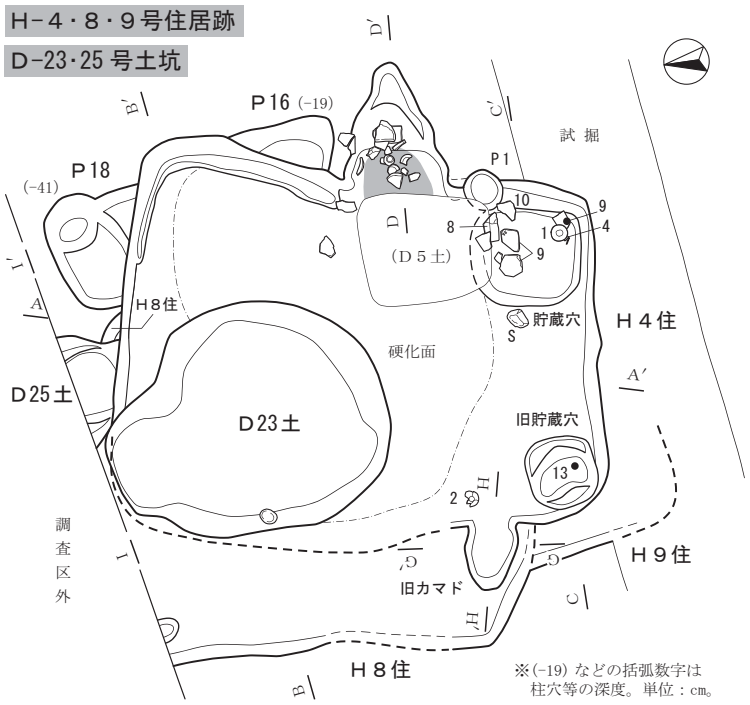




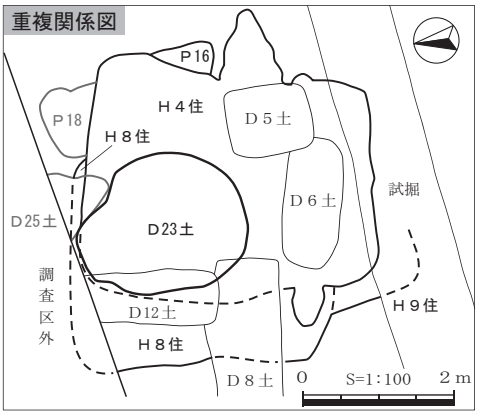
0 (カマド 1：30) 1 m

Fig. 11　遺構図（２）　Ｈ－２号住居跡 / Ｄ－18 号土坑

H－4・8・9号住居跡
D－23・25号土坑



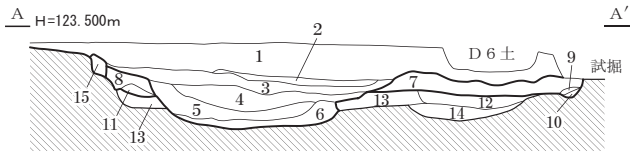
※(-19) などの括弧数字は柱穴等の深度。単位：cm。

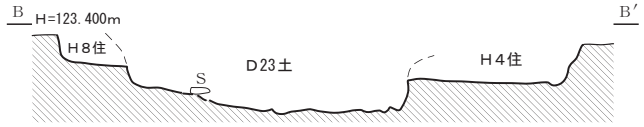


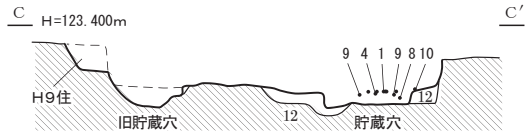
新旧関係：H９・P18→H８→D25→H４・P16→D23→
→D５・6・8・12

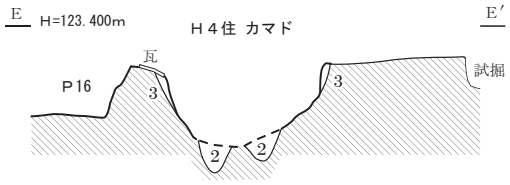
H－4号住居跡・H－8号住居跡・D－23号土坑　土層説明

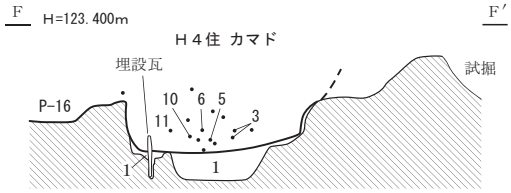
1．褐灰色土　しまり強い。粘性わずか。As-C多量。
Hr-FA・軽石少量。焼土少量。灰微量。(D23土)
2．暗褐色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C多量。
Hr-FA少量。Hr-FA軽石微量。(D23土)
3．褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C少量。
Hr-FA粒少量。Hr-FA軽石微量。(D23土)
4．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C微量。
焼土少量。(D23土)
5．暗褐色土　しまりやや強い。粘性ややあり。
総社砂層粒子微量。砂質土多量。(D23土)
6．明灰褐色土　しまり強い。粘性あり。As-C少量。(D23土)
総社砂層粒・ブロック(φ5～30mm)多量。
7．褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C少量。砂質土少量。
総社砂層粒(φ5～10mm)少量。
8．暗褐色土　しまりやや強い。粘性ややあり。As-C少量。焼土微量。
総社砂層粒(φ5～10mm)微量。砂質土多量。
9．黒褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C少量。
総社砂層粒(φ5mm以下)・砂質土少量。
10．黒褐色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C微量。
総社砂層粒(φ5mm以下)少量。
11．褐灰色土　しまり強い。粘性あり。As-C少量。砂質土多量。
総社砂層黄褐色粒・ブロック(φ5～20mm)多量。
総社砂層粘質土ブロック(φ5～10cm)少量。
12．黒褐色土　硬化～しまり強い。粘性ややあり。貼床。
As-C微量。粘質土ブロック(φ5～10cm)少量。
13．暗褐灰色土　しまり非常に強い。一部硬化。粘性ややあり。
As-C少量。Hr-FA微量。
総社砂層黄褐色粒・ブロック(φ5～30mm)少量。
総社砂層粘質土ブロック(φ1～2cm)少量。貼床。
14．褐灰色土　しまりあり。粘性ややあり。As-C中量。
総社砂層粘質土ブロック(φ2～3cm)少量。掘り方
15．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As-C少量。焼土少量。
炭化物微量。砂質土多量。(H８住)

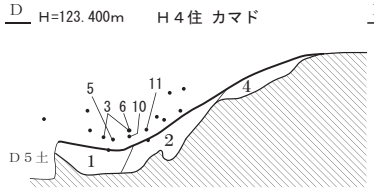






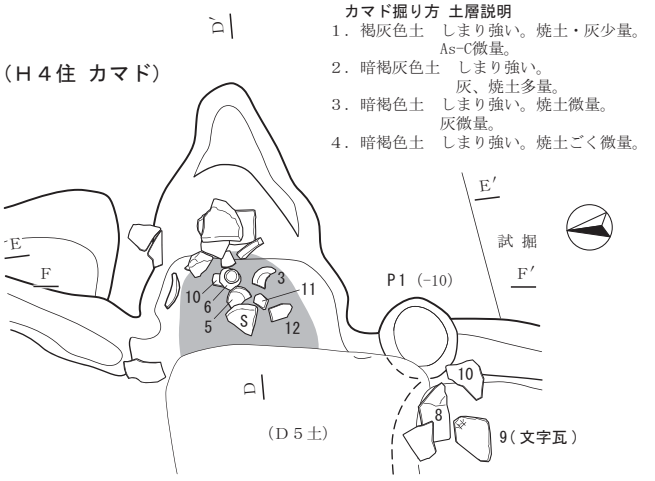






H－4号住居跡
旧カマド土層説明（G－G′）
1．褐色土　しまり強い。
焼土・灰微量。As-C微量。

H－4号住（E－E′・F－F′）
カマド掘り方 土層説明
1．褐灰色土　しまり強い。焼土・灰少量。
As-C微量。
2．暗褐灰色土　しまり強い。
灰、焼土多量。
3．暗褐色土　しまり強い。焼土微量。
灰微量。
4．暗褐色土　しまり強い。焼土ごく微量。



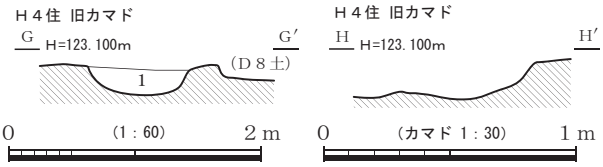
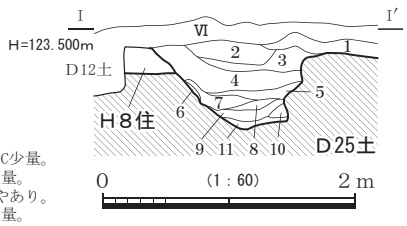


Fig. 12　遺構図（3）　H－4・8・9号住居跡 / D－23・25号土坑

H−4・8・9号住居跡
D−23・25号土坑



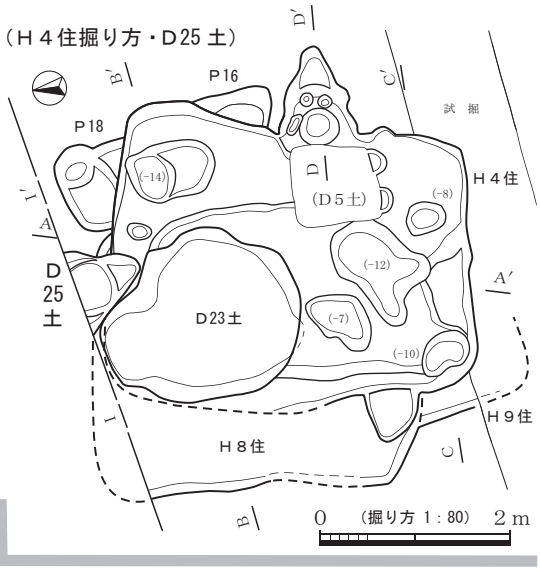
D−25号土坑　土層説明（I−I′）

1．褐灰色土　しまりやや強い。
　As−C少量。Hr−FA軽石微量。
2．褐灰色土　しまりやや強い。As−C少量。
　Hr−FA粒少量、軽石微量。焼土微量。
3．褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。
　As−C多量。Hr−FA粒多量、軽石微量。
　総社砂層粒（φ1mm以下）微量。
4．褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。
　As−C少量。Hr−FA粒少量、軽石微量。
　総社砂層粒（φ１mm以下）多量。
5．褐灰色土　しまり強い。粘性あり。
　粘質シルト粒（φ1〜5mm）少量。
　総社砂層粒少量。As−C微量。
6．褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。
　As−C微量。Hr−FA粒少量、軽石微量。
　総社砂層粒少量。
7．暗褐灰色土　しまり強い。粘性あり。
　As−C少量。Hr−FA軽石微量。
　総社砂層粒（φ１mm以下）少量。
8．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。
　As−C少量。FA軽石微量。
　総社砂層粒（φ１mm以下）少量。
9．暗褐灰色土　しまり強い。粘性あり。
　As−C少量。Hr−FA粒（φ２mm以下）少量。
　粘質シルト粒多量。総社砂層粒少量。
10．暗褐灰色土　しまり強い。粘性あり。
　As−C微量。粘質シルト粒（φ2mm以下）微量。
11．黒褐灰色土　しまり強い。粘性あり。
　As−C少量。総社砂層粒（φ3mm以下）少量。

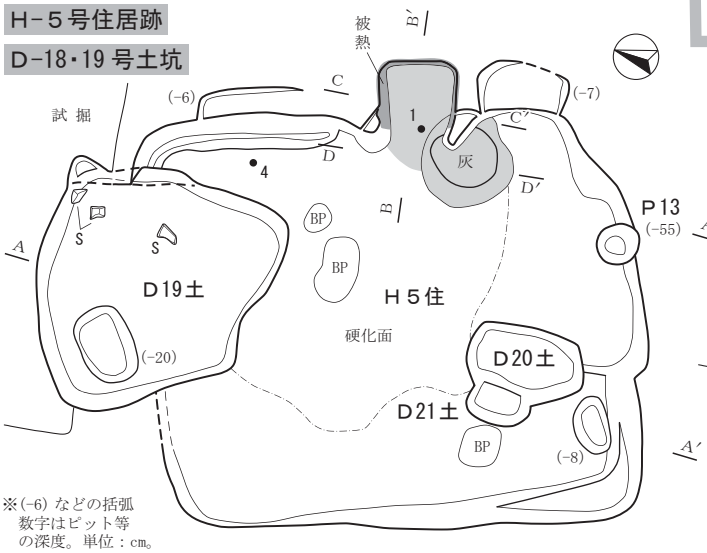
H−８号住居跡　土層説明（I−I′）

1．暗褐色土　しまりやや強い。As−C中量。

（H４住掘り方・D25土）

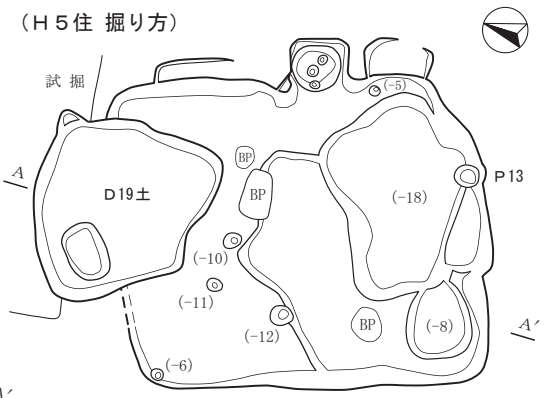


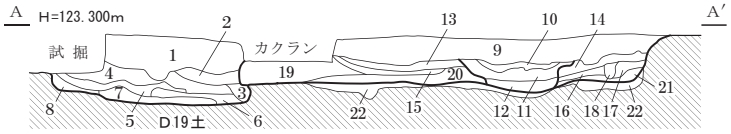
H−５号住居跡
D−18・19号土坑



※(−6) などの括弧
数字はピット等
の深度。単位：cm。

（H５住 掘り方）

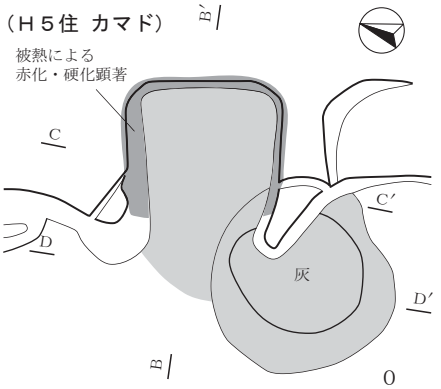




H−５号住居跡　土層説明（A−A′）
１〜８層：D19土、10〜12層：D20土

1．暗褐色土　しまり強い。As−C多量。Hr−FA少量。
　総社砂層シルト粒中量。
2．褐 色 土　しまり強い。As−C中量。総社砂層シルト粒少量。
3．灰褐色土　しまりあり。As−C微量。シルト質土微量。
4．褐 色 土　しまり強い。As−C中量。粘質土ブロック少量。
　総社砂層シルト粒微量。
5．暗灰褐色土　しまりあり。As−C混黒色土ブロック多量。
6．明褐色土　しまり強い。As−C微量。粘質土ブロック主体。
7．褐 色 土　しまり強い。As−C微量。粘質土ブロック多量。
　総社砂層粘土ブロック微量。
8．褐灰〜明灰褐色土　しまり強い。総社砂層最上層の明色粘質
　土ブロック少量。（以上、D19土）
9．褐 色 土　しまり強い。As−C多量。Hr−FA少量。
10．褐 色 土　しまり強い。粘性わずか。As−C少量。（D20土）
11．極暗褐色土　しまり強い。As−C中量。（D20土）
12．暗褐色土　しまりあり。As−C、シルト粒微量。（D20土）
13．灰褐色土　しまり強い。粘性わずか。As−C少量。Hr−FA微量。
14．褐 色 土　しまり強い。As−C少量。粘質土ブロック中量。
15．灰褐色土　しまりあり。As−C微量。粗粒シルト質。水成。
16．明灰褐色土　しまり強い。明色粘土ブロック多量。
17．灰褐色土　しまり強い。As−Cごく微量。
　粘土・粘質土ブロック中量。
18．褐 色 土　しまりややあり。As−C少量。ピット状。
19．褐 色 土　しまり強い。As−C多量。
20．黒褐色土　しまり強い。As−C少量〜中量。
　砂質土少量。粘質土ブロック少量。
21．極暗褐色土　しまり強い。粘質土ブロック主体。
22．明褐灰色土　硬化。シルトブロック多量。貼床。

（H５住 カマド）



H−５号住居跡 カマド 土層説明
（B−B′，C−C′，D−D′）

1．黒褐色土
　しまりあり。As−C微量。
　焼土多量、灰多量。
2．黒褐色土
　しまりあり。As−C微量。
　焼土少量。灰主体。
3．明赤褐色土
　しまりあり。焼土多量。
4．黒褐色土
　しまりあり。As−C微量。
　灰多量。焼土少量。
5．明褐色土
　しまりあり。粘性ややあり。
　As−C微量。焼土少量。
　粘質シルトブロック少量。

0　（カマド 1：30）　1m　　0　（1：60）　2m　　0　（掘り方 1：80）　2m

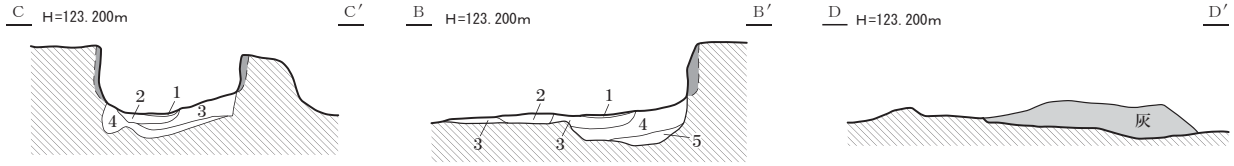
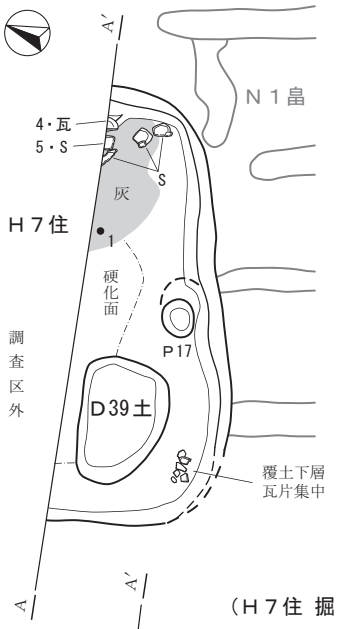


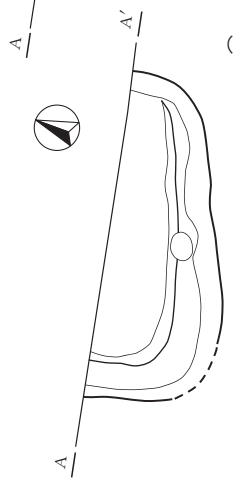
Fig.13　遺構図（４）　H−４・８・９号住居跡 / D−23・25号土坑、
H−５号住居跡 / D−19〜21号土坑

H-7号住居跡



H-7号住居跡　土層説明

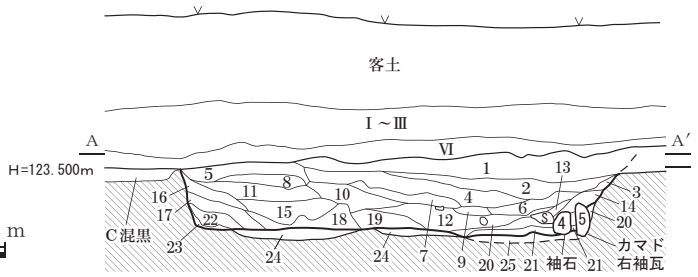
1．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒(φ8mm以下)、軽石少量。焼土、炭化物微量。総社砂層粒(φ1cm以下)少量。
2．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C多量。Hr-FA粒・ブロック(φ2cm以下)、軽石微量。焼土微量。
3．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA粒(φ3mm以下)少量、軽石微量。総社砂層粒少量。
4．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。Hr-FA粒、軽石微量。焼土、炭化物微量。総社砂層粒(φ5mm以下)少量。
5．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒、FA軽石少量。焼土少量。黒色土粒(φ5～10mm)少量。
6．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA粒少量、軽石微量。粘質シルトブロック(φ1～2cm)微量。
7．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C微量。Hr-FA軽石微量。炭化物少量。
8．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C多量。Hr-FA粒少量、軽石微量。
9．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C微量。焼土微量。
10．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒(φ1cm以下)、軽石少量。総社砂層粒(φ1cm以下)微量。
11．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒(φ5mm以下)微量、軽石(φ2cm以下)少量。総社砂層粒微量。
12．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA(φ1cm以下)少量、軽石(φ8mm以下)。総社砂層粒微量。
13．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。粘質シルトブロック(φ5cm前後)、総社砂層ブロック(φ約2cm前後)微量。
14．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C微量。Hr-FA粒(φ1cm)、軽石微量。焼土少量。
15．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒多量、軽石少量。総社砂層粒(φ5mm以下)少量。
16．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA粒(φ1cm以下)、軽石微量。
17．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA粒(φ1cm以下)、軽石微量。
18．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C多量。Hr-FA粒少量。総社砂層粒(φ1cm以下)微量。
19．暗褐灰色土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA軽石微量。炭化物微量。粘質シルトブロック(φ1～3cm)多量。
20．灰黄褐色土　しまり非常に強い。粘性弱い。As-C微量。焼土多量。右袖。
21．黒　色　土　しまりやや弱い。粘性弱い。灰主体。焼土微量。
22．暗褐灰色土　しまりやや強い。粘性弱い。As-C少量。粘質シルトブロック(φ2～3cm)少量。総社砂層粒微量。
23．暗褐灰色土　しまりやや強い。粘性弱い。As-C少量。粘質シルトブロック(φ2cm前後)微量。壁際堆積土。
24．暗褐灰色土　しまり非常に強い。粘性弱い。As-C微量。炭化物微量。粘質シルトブロック(φ2～10cm)多量。貼床、掘り方。
25．灰 褐 色 土　しまりあり。As-C微量。粘質シルトブロック(φ1～2cm)少量。貼床、掘り方。



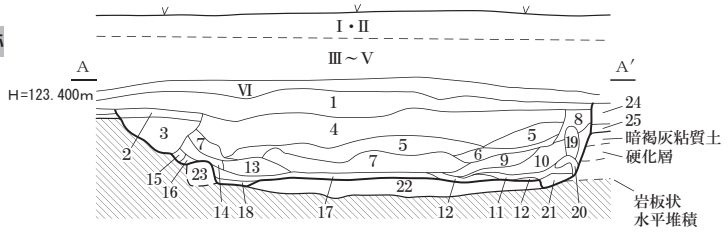
（H７住 掘り方）

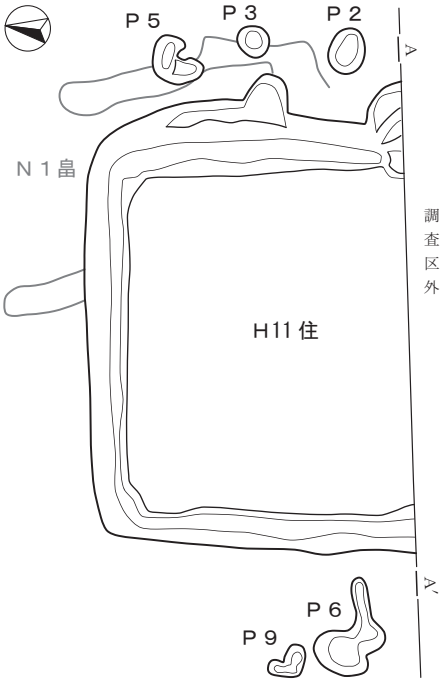
0　（掘り方 1：80）　2 m

0　（1：60）　2 m

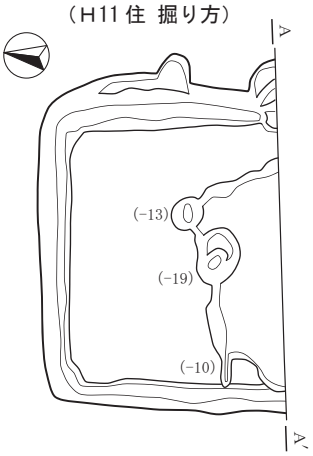


H-11号住居跡





（H11住 掘り方）



H-11号住居跡　土層説明

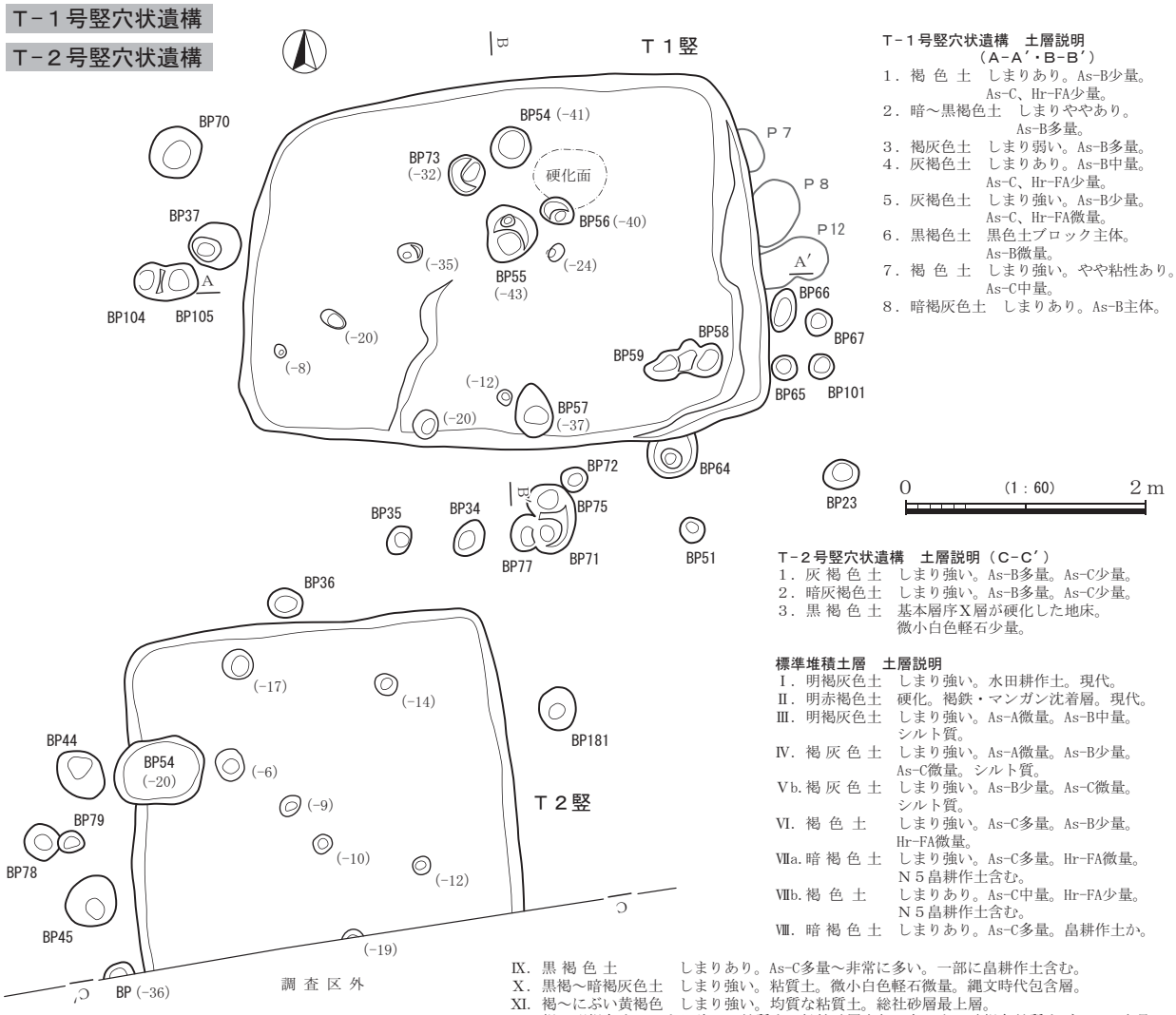
1．褐　色　土　しまり強い。As-C中量。Hr-FA微量。
2．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C少量。ピット。
3．褐　色　土　しまり強い。As-C中量。ピット。
4．褐　色　土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA微量。緻密。
5．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C中量。地山粒少量。
6．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。総社砂層粒少量。粗粒シルト質。
7．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。地山粒少量。
8．褐　色　土　しまり非常に強い。As-C中量。
9．極暗褐色土　しまりあり。As-C中量。粗粒シルト質。
10．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。粗粒シルト質。
11．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C少量。粗粒シルト質。
12．褐 灰 色 土　しまりあり。As-C中量。灰微量。
13．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C中量。総社砂層ブロック微量。
14．褐 灰 色 土　しまり強い。As-C中量。灰微量。
15．暗 褐 色 土　しまり強い。粘質土ブロック中量。
16．黒 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。カマド。
17．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C微量。Hr-FA微量。粘質土ブロック多量。
18．暗褐灰色土　しまりあり。灰中量。
19．極暗褐色土　しまりややあり。As-C微量。壁体痕。
20．黒 褐 色 土　しまり弱い。As-C微量。腐食した壁体痕。
21．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C中量。総社砂層シルト中量。粗粒シルト質。
22．黄褐色～褐色土　硬化。貼床。硬いシルトブロック主体。
23．明褐灰色～灰白色土　硬化。カマド袖。総社砂層シルト主体。
24．褐　色　土　しまり強い。As-C中量。Ｎ５畠の耕作土か。
25．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C中量。Ｎ５畠の耕作土か。

0　（1：60）　2 m　　0　（掘り方 1：80）　2 m

Fig.14　遺構図（５）　Ｈ－７・11号住居跡

Fig.15　遺構図（6）　Ｂ－１～４号掘立柱建物跡／ＳＡ－１～３号柱穴列

T－１号竪穴状遺構
T－２号竪穴状遺構



T－１号竪穴状遺構　土層説明
（A－A′・B－B′）

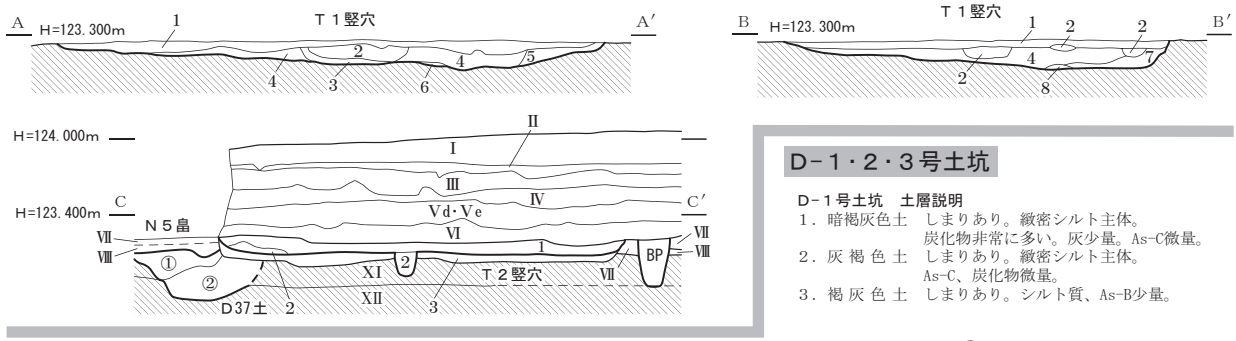
1．褐 色 土　しまりあり。As-B少量。As-C、Hr-FA少量。
2．暗～黒褐色土　しまりややあり。As-B多量。
3．褐灰色土　しまり弱い。As-B多量。
4．灰褐色土　しまりあり。As-B中量。As-C、Hr-FA少量。
5．灰褐色土　しまり強い。As-B少量。As-C、Hr-FA微量。
6．黒褐色土　黒色土ブロック主体。As-B微量。
7．褐 色 土　しまり強い。やや粘性あり。As-C中量。
8．暗褐灰色土　しまりあり。As-B主体。

T－２号竪穴状遺構　土層説明（C－C′）

1．灰 褐 色 土　しまり強い。As-B多量。As-C少量。
2．暗灰褐色土　しまり強い。As-B多量。As-C少量。
3．黒 褐 色 土　基本層序Ｘ層が硬化した地床。微小白色軽石少量。

標準堆積土層　土層説明

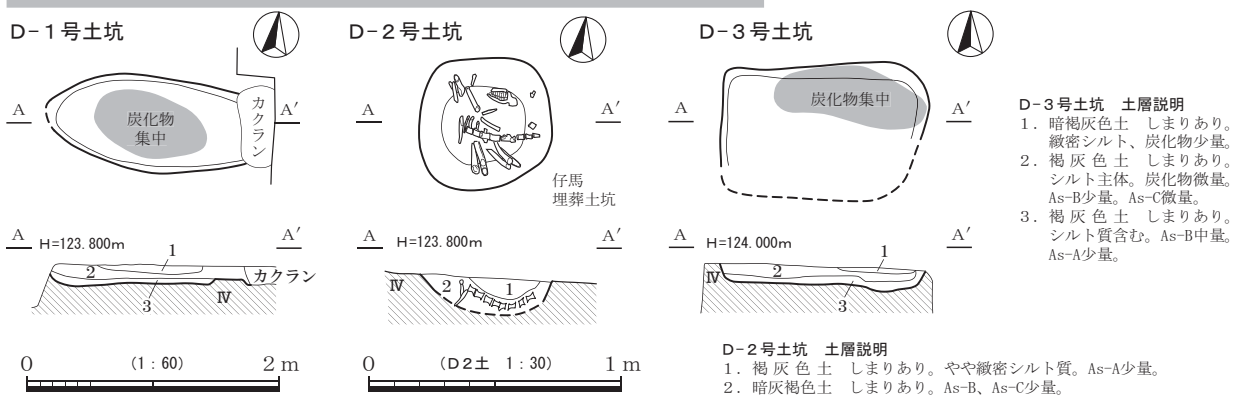
Ⅰ．明褐灰色土　しまり強い。水田耕作土。現代。
Ⅱ．明赤褐色土　硬化。褐鉄・マンガン沈着層。現代。
Ⅲ．明褐灰色土　しまり強い。As-A微量。As-B中量。シルト質。
Ⅳ．褐 灰 色 土　しまり強い。As-A微量。As-B少量。As-C微量。シルト質。
Ⅴb．褐 灰 色 土　しまり強い。As-B少量。As-C微量。シルト質。
Ⅵ．褐 色 土　しまり強い。As-C多量。As-B少量。Hr-FA微量。
Ⅶa．暗 褐 色 土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA微量。Ｎ５畠耕作土含む。
Ⅶb．褐 色 土　しまりあり。As-C中量。Hr-FA少量。Ｎ５畠耕作土含む。
Ⅷ．暗 褐 色 土　しまりあり。As-C多量。畠耕作土か。
Ⅸ．黒 褐 色 土　しまりあり。As-C多量～非常に多い。一部に畠耕作土含む。
Ⅹ．黒褐～暗褐灰色土　しまり強い。粘質土。微小白色軽石微量。縄文時代包含層。
Ⅺ．褐～にぶい黄褐色　しまり強い。均質な粘質土。総社砂層最上層。
Ⅻ．褐～明褐色土　しまり強い。粘質土。総社砂層上部。角の丸い暗褐色粘質土ブロック中量。



D－１・２・３号土坑

D－１号土坑　土層説明

1．暗褐灰色土　しまりあり。緻密シルト主体。炭化物非常に多い。灰少量。As-C微量。
2．灰 褐 色 土　しまりあり。緻密シルト主体。As-C、炭化物微量。
3．褐 灰 色 土　しまりあり。シルト質、As-B少量。



D－３号土坑　土層説明

1．暗褐灰色土　しまりあり。緻密シルト、炭化物少量。
2．褐 灰 色 土　しまりあり。シルト主体。炭化物微量。As-B少量。As-C微量。
3．褐 灰 色 土　しまりあり。シルト質含む。As-B中量。As-A少量。

D－２号土坑　土層説明

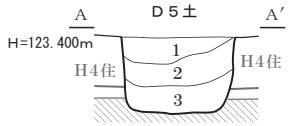
1．褐 灰 色 土　しまりあり。やや緻密シルト質。As-A少量。
2．暗灰褐色土　しまりあり。As-B、As-C少量。

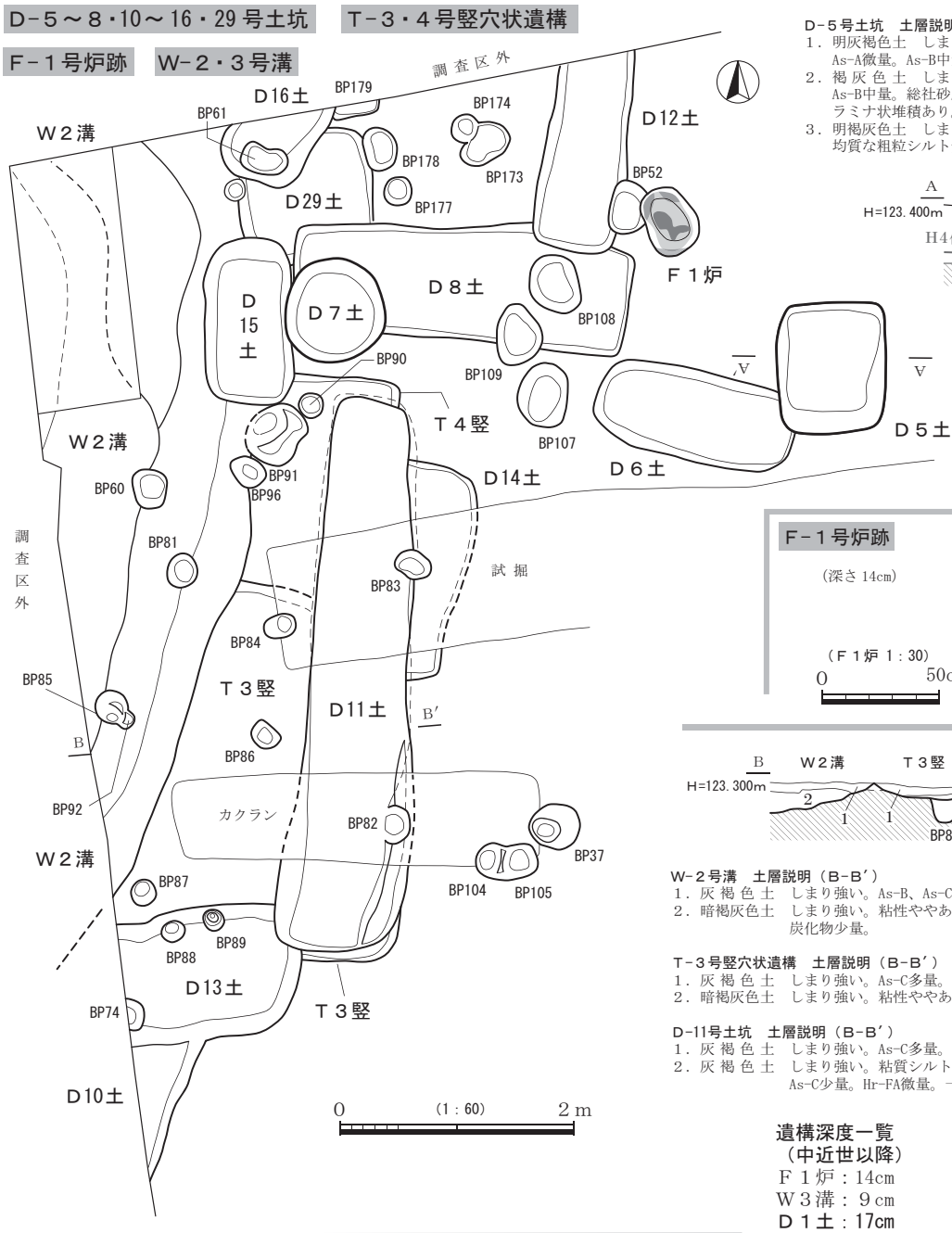
Fig.16　遺構図（７）　T－１・２号竪穴状遺構 / D－１・２・３号土坑

D−5～8・10～16・29号土坑　T−3・4号竪穴状遺構

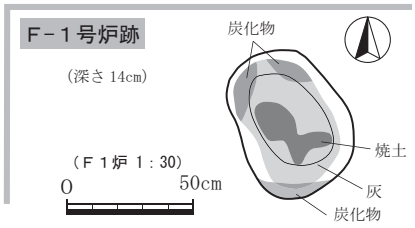
F−1号炉跡　W−2・3号溝

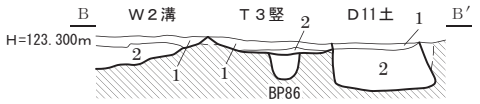
D−5号土坑　土層説明（近代）
1．明灰褐色土　しまりあり。シルト質土。
As−A微量。As−B中量。As−C少量。炭化物微量。
2．褐灰色土　しまりややあり。水分あり。
As−B中量。総社砂層シルトブロック少量。
ラミナ状堆積あり。
3．明褐灰色土　しまりややあり。水分あり。
均質な粗粒シルト質土。





F−1号炉跡





W−2号溝　土層説明（B−B′）
1．灰褐色土　しまり強い。As−B、As−C多量。Hr−FA微量。灰微量。
2．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As−C中量。As−B少量。
炭化物少量。

T−3号竪穴状遺構　土層説明（B−B′）
1．灰褐色土　しまり強い。As−C多量。Hr−FA微量。炭化物微量。
2．暗褐灰色土　しまり強い。粘性ややあり。As−C中量。

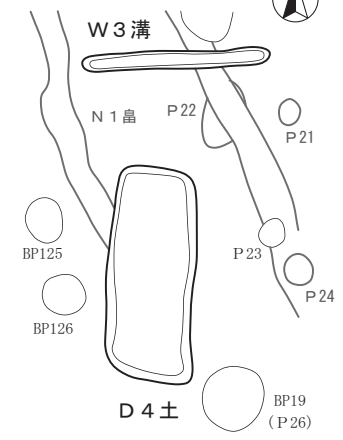
D−11号土坑　土層説明（B−B′）
1．灰褐色土　しまり強い。As−C多量。As−B少量。Hr−FA微量。
2．灰褐色土　しまり強い。粘質シルトブロック（φ2～5cm）多量。
As−C少量。Hr−FA微量。一括埋戻し土。

遺構深度一覧
（中近世以降）

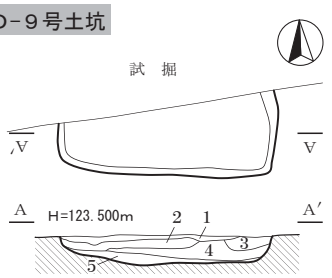
F１炉：14cm	D９土：24cm
W３溝：９cm	D10土：10cm
D１土：17cm	D11土：54cm
D２土：15cm	D12土：44cm
D３土：18cm	D13土：15cm
D４土：７cm	D14土：14cm
D５土：57cm	D15土：23cm
D６土：15cm	D16土：21cm
D７土：38cm	D22土：21cm
D８土：31cm	D24土：20cm
	D29土：９cm

（ゴシック：近世～近代）

D−4号土坑　W−3号溝



D−9号土坑



D−9号土坑　土層説明
1．褐色土　しまり強い。As−B中量。As−C少量。
2．黒褐色土　しまりあり。As−B中量。As−C少量。
3．灰褐色土　As−B中量。As−C少量。
4．褐灰色土　しまりあり。As−B中量。細砂シルト質。
5．暗褐色土　しまり強い。As−B少量。As−C多量。

D−20号土坑　土層説明
1．明灰褐色土　しまりあり。As−B中量。As−C少量。

D−22号土坑

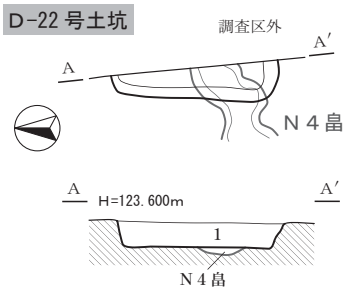


Fig.17　遺構図（8）　T−3・4竪穴状遺構 / D−4～16・22・29号土坑 / F−1号炉跡 / W−2・3号溝

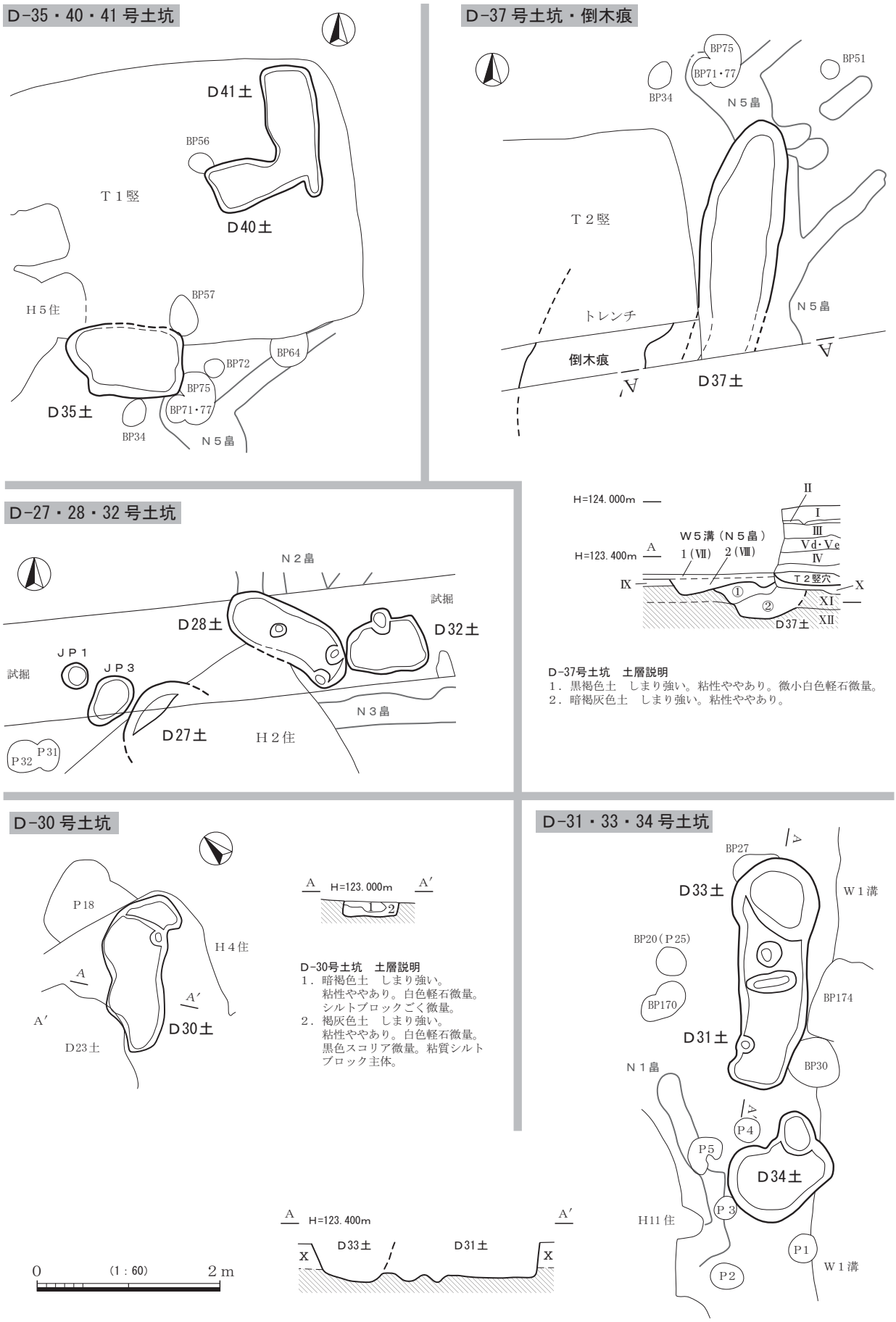
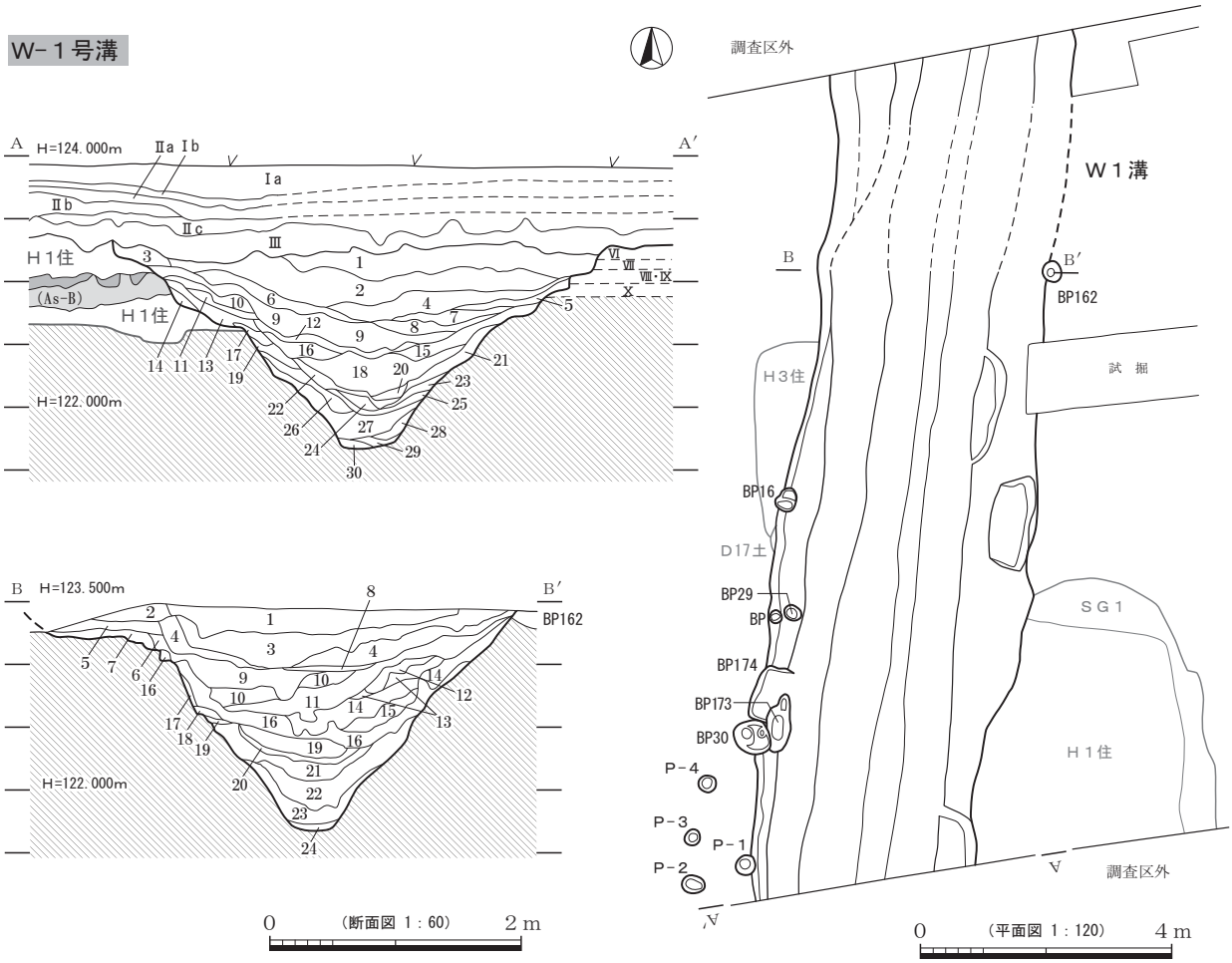


Fig. 18　遺構図（9）　D－27・28・30～35・37・40・41号土坑



W－１号溝　土層説明（A－A′）

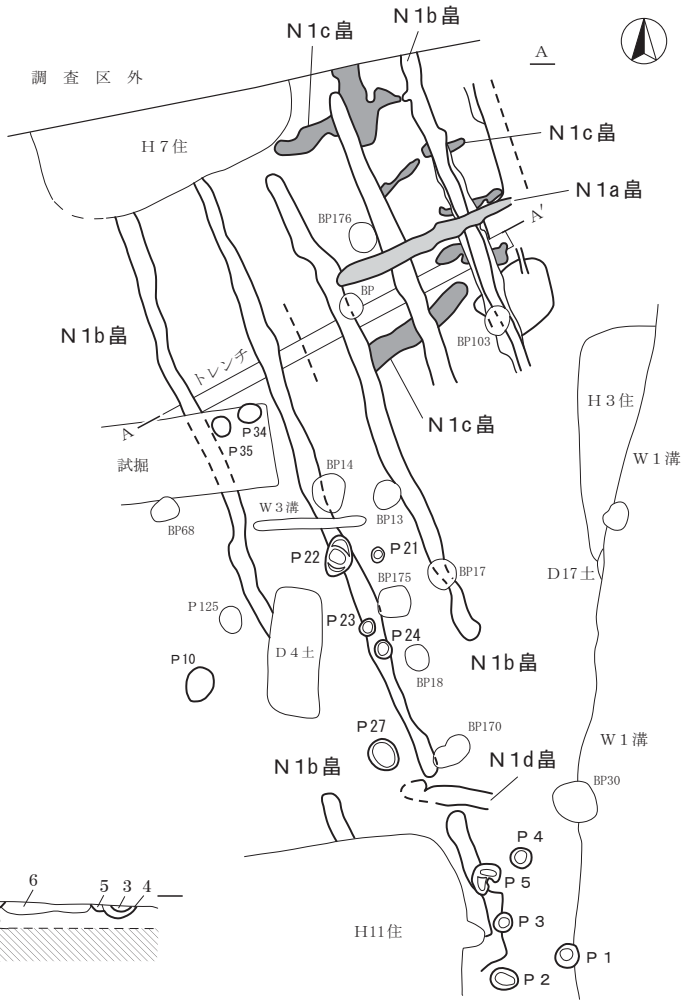
1．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C多量。Hr-FA(φ0.5～1cm)少量。
2．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA(φ0.5～1cm)少量。
3．褐 灰 色 土　しまり弱い。粘性弱い。As-B多量。As-C少量。
4．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性やや強い。Hr-FAブロック(φ1～3cm)多量 。
5．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性弱い。As-C少量。Hr-FA(φ1～5mm)少量。
6．黒 褐 色 土　しまり強い。粘性やや強い。Hr-FA(φ0.5～1cm)微量。
7．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性強い。As-C微量。Hr-FA(φ0.5～1cm)少量。
8．黒 褐 色 土　しまり強い。粘性強い。総社砂層ブロック(φ1～3cm)少量。
Hr-FA(φ0.5～1cm)微量。
9．明褐灰色土　粘質土主体。粘性強い。総社砂層ブロック(φ2～15cm)大量。
10．暗 褐 色 土　しまりやや強い。As-B、As-C少量。総社砂層粒(φ0.5～1cm)微量。
11．灰黄褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。As-B、As-C少量。
総社砂層ブロック(φ0.5～3cm)微量。
12．黒 褐 色 土　軟弱。As-B主体。総社砂層ブロック(φ0.1～5cm)微量。
13．黒 褐 色 土　しまりなし。As-B主体。As-C微量。
14．灰黄褐色土　しまりやや強い。As-B多量。As-C微量。
15．暗 褐 色 土　しまり強い。粘性強い。総社砂層粒(φ0.5～1cm)少量。
16．黒 褐 色 土　しまりない。As-B主体。As-C少量。
17．暗 褐 色 土　しまりやや強い。粘性やや強い。As-B多量。As-C微量。
18．灰黄褐色土　しまり強い。粘性強い。粘質土ブロック主体。
19．暗 褐 色 土　しまりやや強い。As-B多量。As-C少量。
20．黄 褐 色 土　しまり強い。総社砂層主体。
21．暗 褐 色 土　しまりやや強い。粘性強い。As-B微量。As-C少量。
Hr-FA(φ0.3～0.5cm)少量。
22．暗 褐 色 土　しまりやや強い。As-B多量。As-C少量。
総社砂層ブロックφ0.3～1cm微量。
23．暗 褐 色 土　しまりやや強い。粘性強い。As-B微量。As-C多量。
総社砂層ブロックφ0.1～0.5cm多量。
24．暗 褐 色 土　しまり強い。粘性やや強い。As-B、As-C微量。
総社砂層ブロックφ0.2～3cm少量。
25．灰黄褐色土　しまり強い。粘性強い。As-B、As-C少量。
総社砂層ブロックφ0.5～1cm多量。
26．暗 褐 色 土　しまり弱い。粘性やや強い。As-B多量。As-C微量。
総社砂層ブロックφ0.5～1cm少量。
27．灰黄褐色土　しまり弱い。As-B多量。As-C微量。
総社砂層ブロックφ0.5～1cm多量。
28．灰 褐 色 土　しまり弱い。粘性やや強い。As-B多量。
総社砂層ブロック0.5～3cm多量。
29．暗 褐 色 土　しまりなし。As-B多量。As-C微量。
総社砂層ブロックφ0.1～0.5少量。
30．暗 褐 色 土　しまりなし。As-B主体。Ｈ１住窪地覆土の崩れ。

W－１号溝　土層説明（B－B′）

1．明灰褐色土　しまり強い。As-B中量。As-C少量。
2．明灰褐色土　しまり強い。As-B中量。As-C微量。
3．褐　色　土　しまり強い。As-C中量。As-B、総社砂層粒少量。
4．褐　色　土　しまり強い。As-B少量。As-C中量。総社砂層粒中量。
5．明 褐 色 土　しまり強い。As-B中量。As-C、Hr-FA微量。
6．褐　色　土　しまり強い。As-B、As-C微量。
7．褐　色　土　しまり強い。As-B中量。As-C少量。
8．褐　色　土　しまりあり。As-B微量。As-C少量。総社砂層シルト粒多量。
9．黒 褐 色 土　しまり強い。As-B中量。As-C少量。
黒色粘質土ブロック中量。総社砂層シルト粒少量。
10．褐色～明褐色土　しまり強い。As-B中量。総社砂層シルトブロック少量。
褐色～黒褐色粘質土ブロック主体。
11．褐色～明褐色土　しまり非常に強い。褐色粘質土ブロック、総社砂層シルトブロック、As-C＋FA混土、As-B混土の４種混土。
12．暗 褐 色 土　しまりあり。As-B多量。As-C少量。総社砂層シルト粒少量。
13．暗 褐 色 土　しまりあり。As-B中量。総社シルトブロック多量。
14．褐　色　土　しまりあり。As-B多量。As-C少量。総社砂層シルト粒少量。
15．褐　色　土　しまりあり。As-B中量。
16．黒 褐 色 土　しまり非常に強い。As-B少量。As-C微量。
黒色粘質土ブロック主体。総社砂層シルト粒微量。
17．暗灰褐色土　しまりあり。As-C少量。総社砂層シルト粒少量。
18．黒 褐 色 土　しまりあり。As-B中量。As-C少量。総社砂層シルト粒少量。
19．明褐～褐色土　しまり非常に強い。As-B少量。
斑状の総社砂層シルトブロックが主体。
20．暗～黒褐色土　しまり強い。As-C混黒色土と褐色粘質土の混土。
21．褐　色　土　しまり非常に強い。総社シルト粒多量。As-B少量。
As-Bブロック少量。褐色粘質土主体。
22．褐　色　土　しまり非常に強い。褐色粘質土・As-B混土・シルト粒主体土・シルトブロックと粘質土の混土が、互層状堆積。
23．明褐灰色土　しまり強い。斑状の総社砂層シルト粒ブロックが主体。
暗褐色総社シルト粒を多量に互層状に含む。
24．暗褐灰色土　しまりあり。均質な粗粒シルト、自然堆積。
極細砂を少量含む。

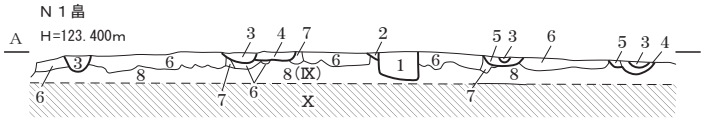
Fig.19　遺構図（10）　Ｗ－１号溝

N－１号畠跡



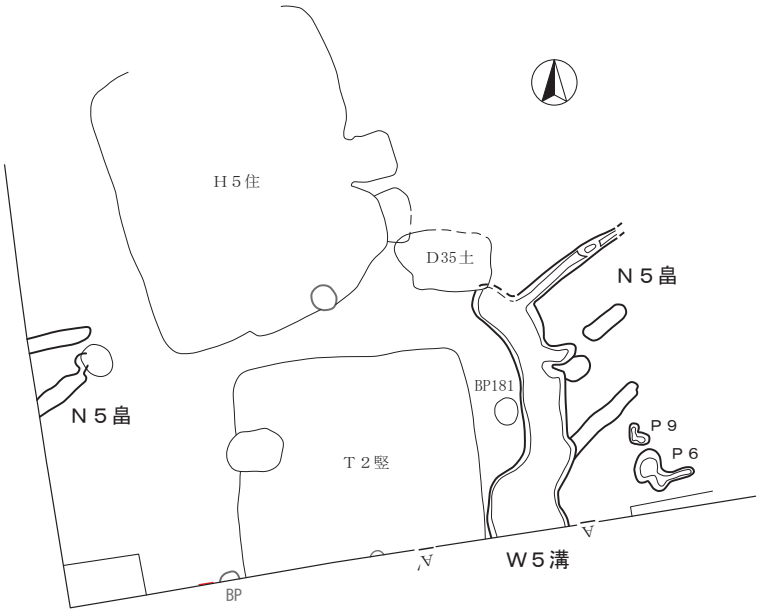
N－１号畠跡　土層説明

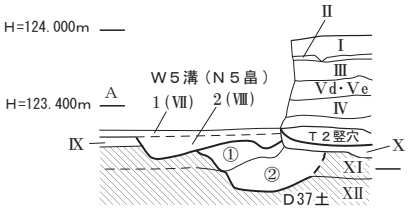
1．褐灰色土　しまりやや弱い。As-B多量。As-C中量。
　　Hr-FA軽石中量。As-B混ピット。
2．褐灰色土　しまりやや弱い。As-C微量。畠耕作土。
3．暗褐色土　しまりやや弱い。As-C少量。
　　Hr-FA粒多量、軽石少量。畠耕作土。
4．褐 色 土　しまりやや弱い。As-C中量。Hr-FA粒少量。
5．暗褐色土　しまりやや弱い。As-C中量。
　　総社砂層シルト粒少量。畠耕作土。
6．暗褐色土　しまりやや弱い。As-C多量。
　　総社砂層シルト粒中量。畠耕作土か。
7．暗褐色土　しまりやや弱い。As-C少量。
　　総社砂層シルト粒微量。畠耕作土か。
8．黒褐色土　しまりやや弱い。As-C少量。基本層序Ⅸ層。



0　（断面図 1：60）　2 m　　0　（1：100）　4 m

N－５号畠跡





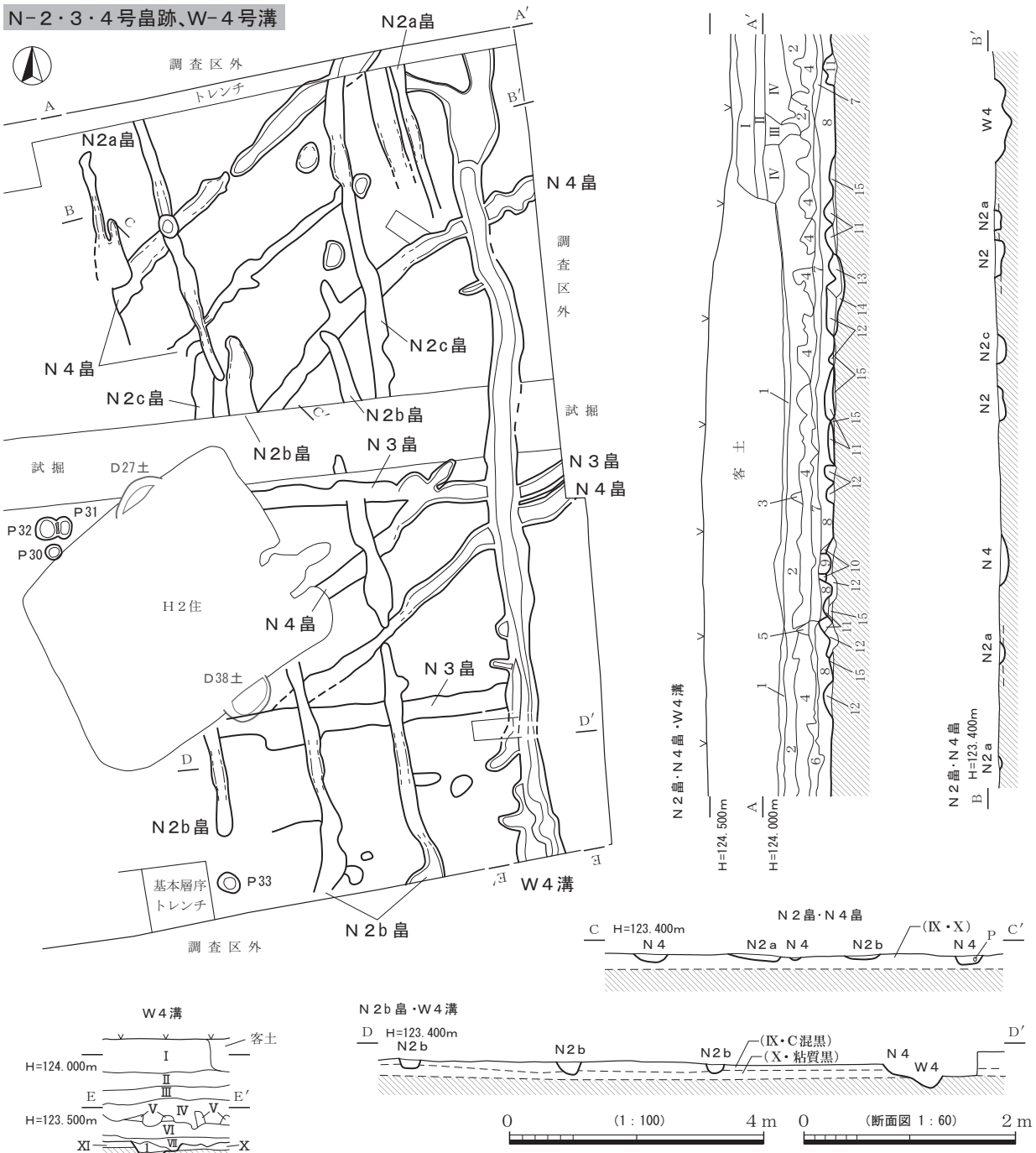
N－５号畠跡　土層説明

1．褐色土　しまりやや強い。As-C中量。
　　Hr-FA少量。Ⅶa層類似。
2．褐色土　しまり強い。As-C少量。
　　Ⅷ層類似。

0　（1：100）　4 m

0　（断面図 1：60）　2 m

Fig.20　遺構図（11）　Ｎ－１・５号畠跡



W-4号溝　土層説明（E-E′）

Ⅰ．明褐～褐灰色土　しまり強い。As-A、As-B微量。耕作土。
Ⅱ．明褐色土　しまり強い。As-A、As-B微量。耕作土。
Ⅲ．褐 色 土　しまりあり～強い。As-A、As-B微量。シルト質。
Ⅳ．明褐～明灰褐色土　しまり強い。As-A、As-B微量。畠痕跡明瞭。シルト質。
Ⅴ．暗褐色土　しまりややあり～あり。As-B中量。
Ⅵ．褐 色 土　しまり強い。As-B微量。As-C少量。Hr-FA微量。
Ⅶ．暗褐色土　しまりあり。As-C中量。
Ⅷ．極暗褐色土　しまり強い。As-C中量。
Ⅸ．黒 色 土　しまりあり。As-C非常に多い。
Ⅹ．暗褐～にぶい黄褐色土　しまり強い。均質な粘質土。縄文包含層。
1．極暗褐色土　しまりあり。As-C中量。
2．褐　色　土　しまり強い～あり。シルト粒微量。As-Cごく微量。

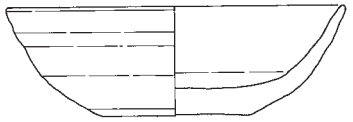
N-2・3・4号畠跡　土層説明（A-A′～D-D′）

1．明褐灰色土　しまり強い。粘性なし。As-B、As-C、焼土微量。
2．明褐灰色土　しまり強い。粘性なし。As-B、As-C少量。Hr-FA粒・軽石少量。焼土微量。
3．暗褐灰色土　しまり強い。粘性なし。As-B少量。
4．黒　色　土　しまり弱い。粘性なし。As-B中量。
5．暗褐灰色土　しまり強い。粘性なし。As-C少量、As-B微量。
6．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性なし。As-C少量。Hr-FA粒・軽石微量。Ⅶ層相当。
7．暗褐灰色土　しまり強い。粘性なし。As-C少量。Hr-FA軽石微量。Ⅶ層相当。
8．暗褐灰色土　しまり強い。粘性なし。Hr-FA灰・軽石微量。N-2。
9．黄 褐 色 土　しまりあり。粘性なし。Hr-FA主体。
10．暗 褐 色 土　しまりあり。粘性なし。As-C少量。
11．黒　色　土　しまりあり。粘性なし。As-C多量。Ⅷ層相当。
12．黒　色　土　しまりあり。粘性なし。As-C多量。Ⅸ層相当。
13．黒　色　土　しまりあり。粘性なし。As-C中量。N-4。
14．褐 灰 色 土　しまり強い。粘性なし。As-C多量。N-4。
15．黒褐灰色土　しまり強い。粘性あり。Ⅹ層。

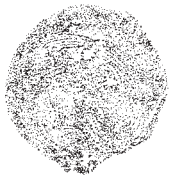
N-2a．暗褐色土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒（φ5～10mm）多量、軽石少量。
N-2b．暗褐色土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒（φ0.5～1mm）少量、軽石少量。
N-2c．褐灰色土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒（φ1～2mm）少量、軽石少量。
N-3a．褐灰色土　しまり強い。As-C中量。Hr-FA粒、軽石微量。
N-3b．褐灰色土　しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒、軽石微量。
N-4 ．黒褐色土　しまり強い。As-C多量。

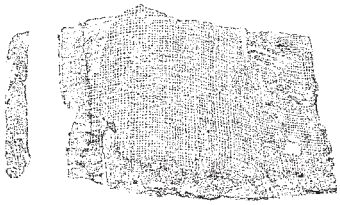
Fig.21　遺構図（12）　N－2～4号畠跡／W－4号溝

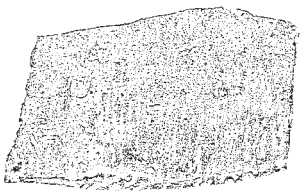
Ｈ－１号住居跡

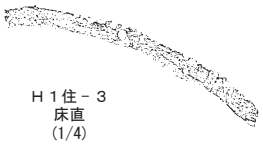


Ｈ１住－１
(1/3)



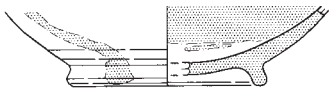






Ｈ１住－３
床直
(1/4)

灰釉

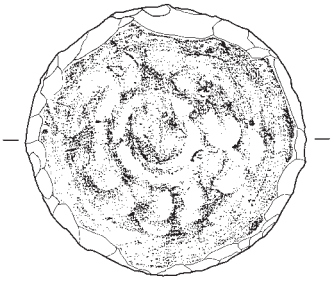


Ｈ１住－２
(1/3)

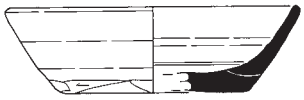
Ｈ－２号住居跡①

Ｈ２住－１
(1/3)

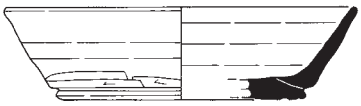
Ｈ２住－２
土坑１
(1/3)



還元焔

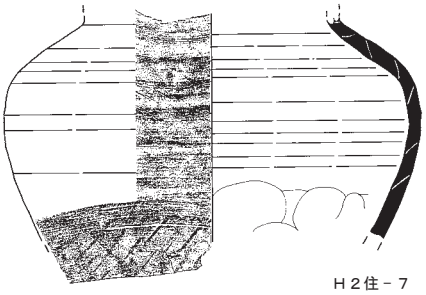


Ｈ２住－３
下層
(1/3)

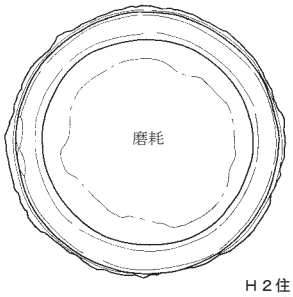


Ｈ２住－４
下層 (1/3)

Ｈ２住－６
土坑１
(1/3)

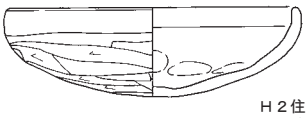


Ｈ２住－７
下層
(1/4)

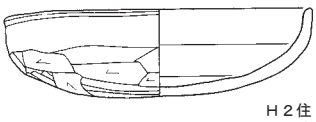


磨耗

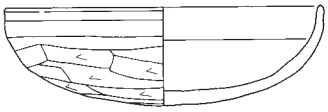
Ｈ２住－５
土坑１
(1/3)



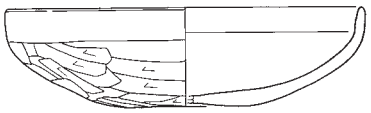
Ｈ２住－８
土坑１
(1/3)



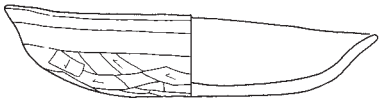
Ｈ２住－９
土坑１
(1/3)



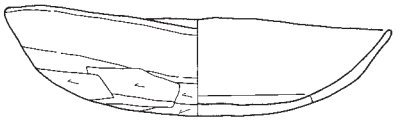
Ｈ２住－10
下層
(1/3)



Ｈ２住－11
貯蔵穴
(1/3)



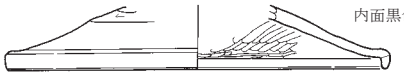
Ｈ２住－12
土坑１
(1/3)



Ｈ２住－13
カマド・土坑１
(1/3)

Ｈ２住－14
カマド (1/3)

内面黒色処理



Ｈ２住－15
(1/3)

0　（１：３）　10cm　　0　（１：４）　10cm

Fig. 22　遺物図（１）　Ｈ－１号住居跡 / Ｈ－２号住居跡①

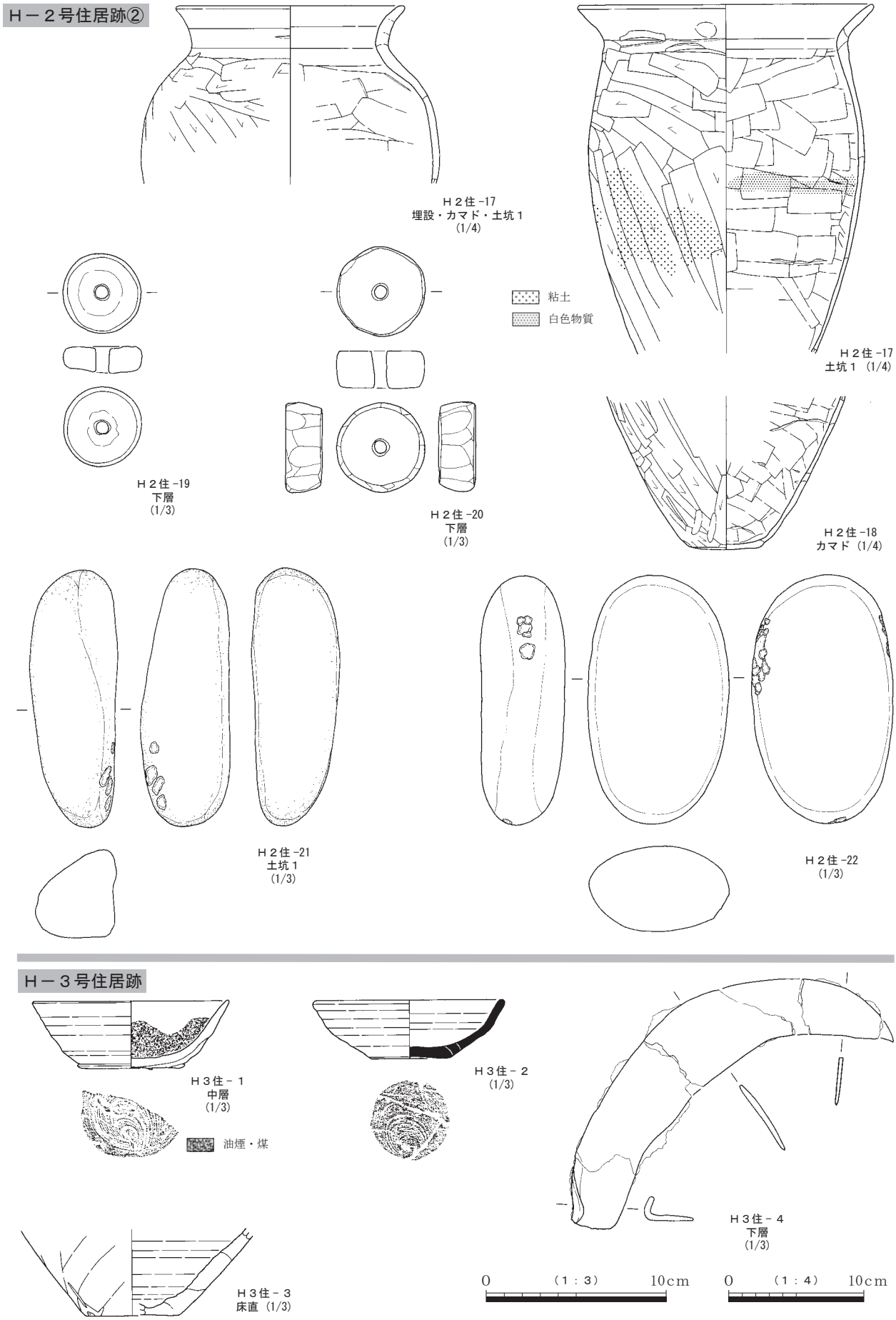


Fig. 23　遺物図（２）　Ｈ－２号住居跡②／Ｈ－３号住居跡

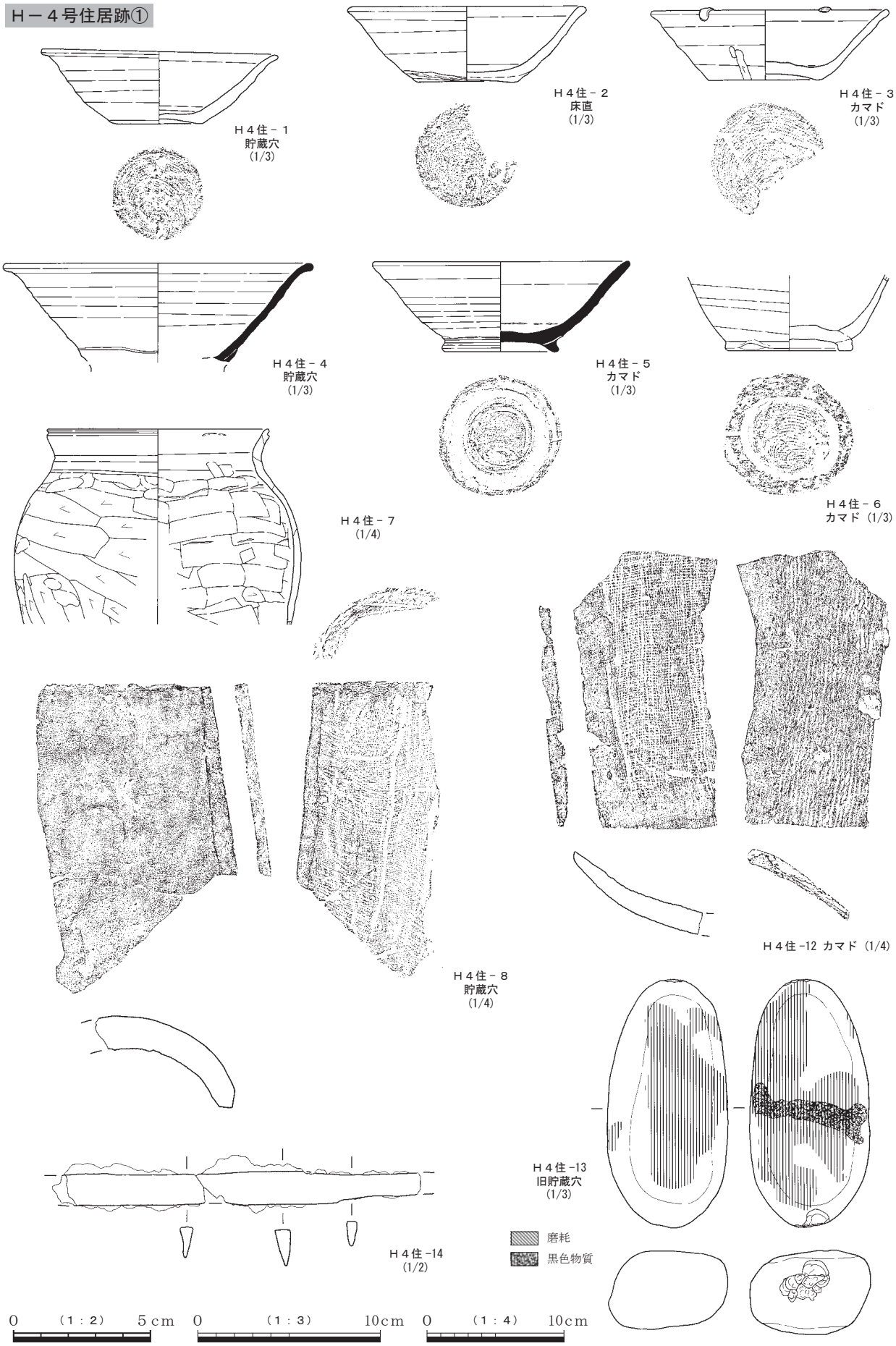


Fig. 24　遺物図（３）　Ｈ－４号住居跡①

Fig.25　遺物図（４）　Ｈ－４号住居跡②

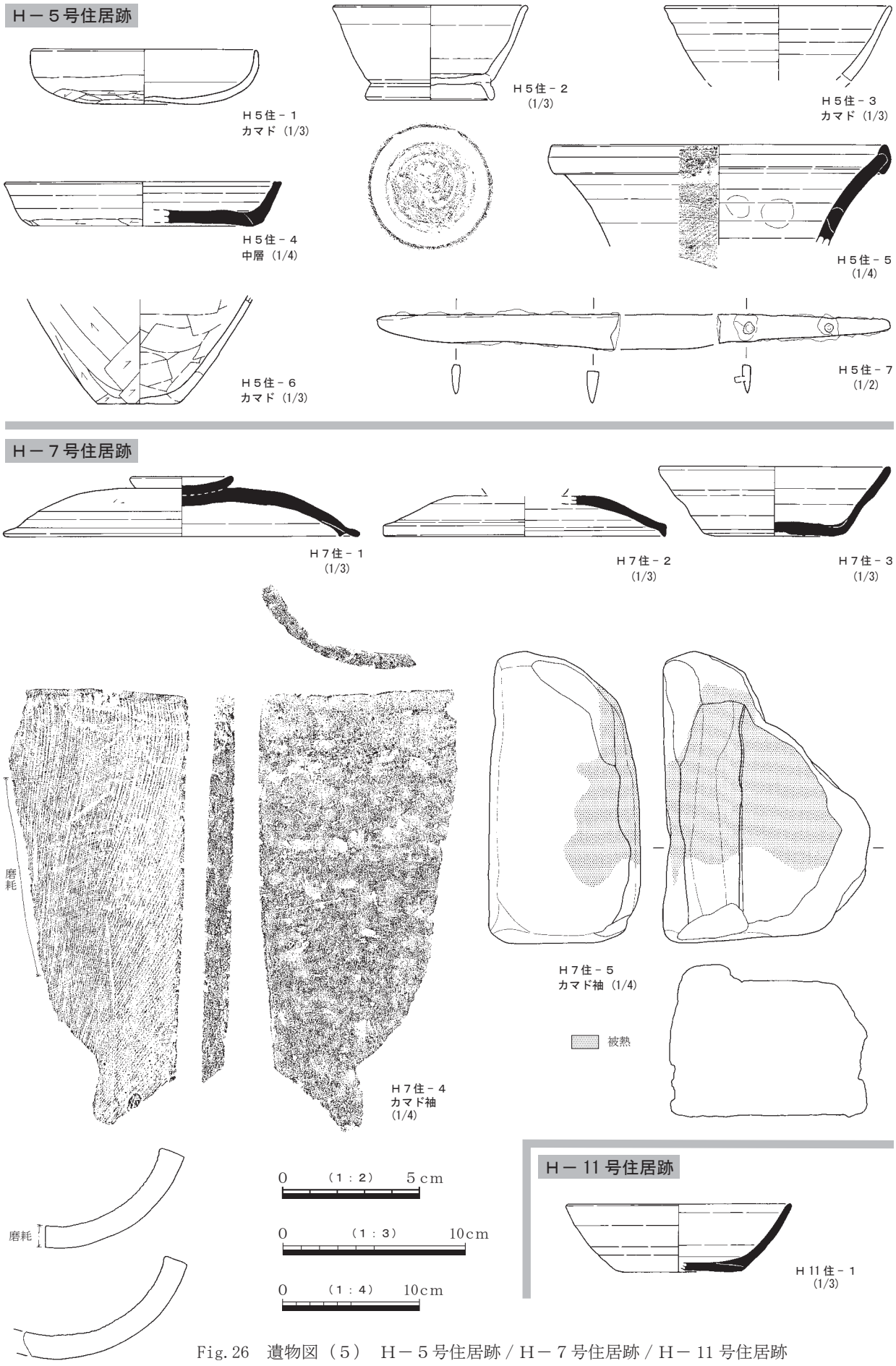


Fig. 26　遺物図（５）　Ｈ－５号住居跡 / Ｈ－７号住居跡 / Ｈ－11 号住居跡

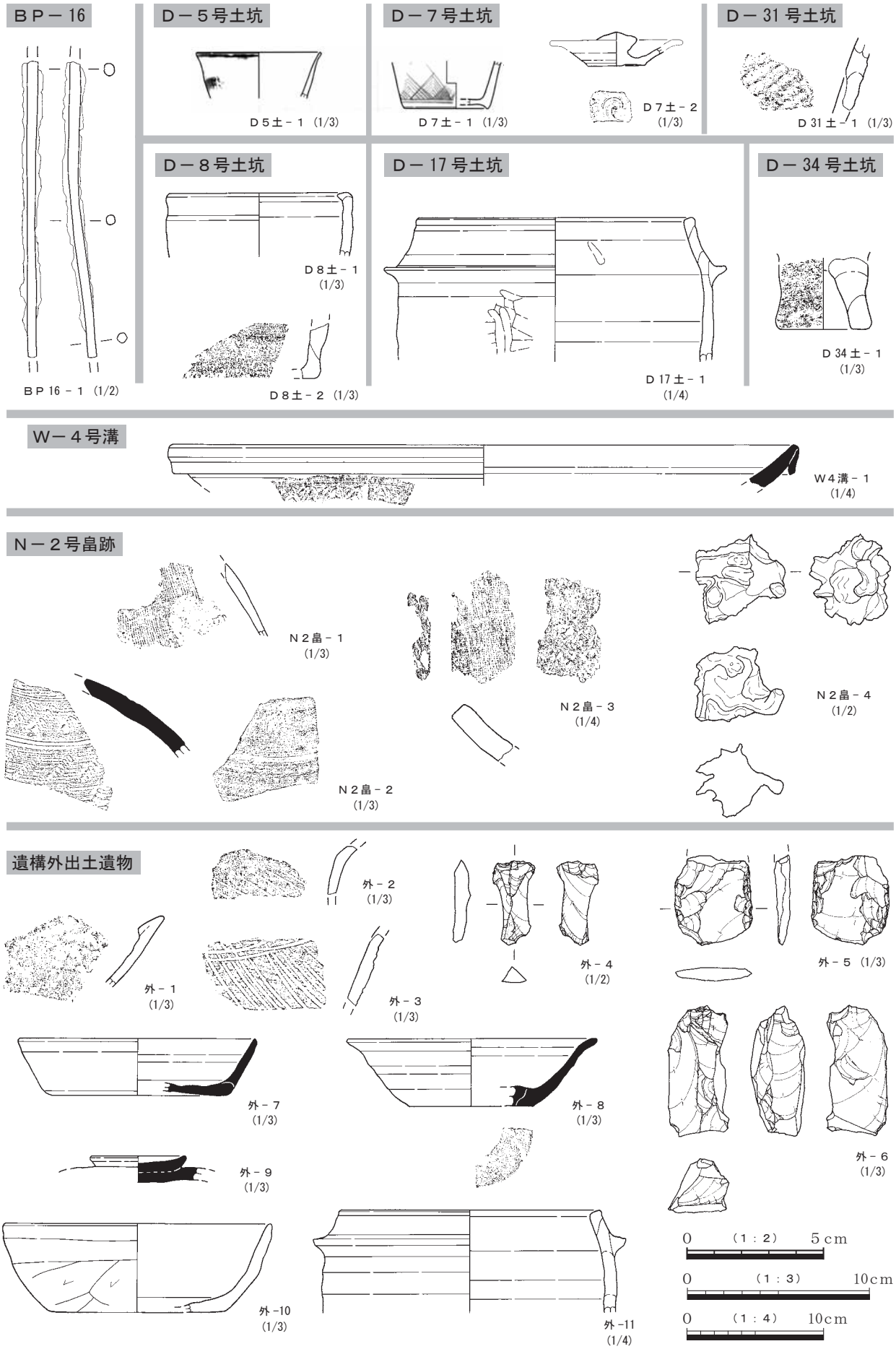


Fig.27　遺物図（６）　土坑・ピット・溝・畠跡出土遺物 / 遺構外出土遺物

Tab. 7　出土遺物観察表（1）

H－1号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 坏	口径（13.2） 器高　4.3 底径　5.8	①酸化焔　②にぶい褐色 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括、 カマド掘り 方	
2	灰釉陶器 碗	器高　[3.1] 底径　7.4	①還元焔　②灰白 ③白色粒　④1/5	外面：轆轤整形。釉漬け掛け。 内面：轆轤整形。釉漬け掛け。	覆土一括	
3	瓦 平瓦	厚さ　1.6	①酸化焔　②灰色 ③砂粒・石英・黒色粒 ④狭端部左側破片	凹面：布目圧痕。端部篦ナデ。 凸面：縄叩き後、ナデ。 側面：篦ナデ。　狭端部：篦ナデ。	覆土下層	

H－2号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 蓋	口径（11.3） 器高　[1.5]	①還元焔　②灰 ③白色粒・石英　④破片	外面：轆轤整形後、篦ケズリ。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
2	須恵器 蓋	口径（12.2） 器高　[1.8]	①還元焔　②灰 ③白色粒・黒色粒 ④1/2	外面：轆轤成形後、摘み貼付。 内面：轆轤整形。返り貼付。 摘み貼付時の指頭痕。	土坑1	
3	須恵器 坏	口径（11.4） 底径　(6.8) 器高　3.4	①還元焔　②灰白 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④1/5	外面：轆轤整形後、体下部回転篦ケズリ。 底部回転篦ケズリ後、回転ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
4	須恵器 削出高台坏	口径（13.8） 底径　(9.0) 器高　3.7	①還元焔　②灰白 ③白色粒・黒色鉱物 ④1/3	外面：轆轤整形後、体下部回転篦ケズリ。 底部回転篦ケズリ後、ナデ。丸棒状 工具による沈線で高台状に作出。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
5	須恵器 (高台付坏) 転用硯	口径　－ 底径　10.0 器高　[1.4]	①還元焔　②灰～褐灰 ③白色粒・石英 ④完形（転用硯）/ 底部破片（高台坏）	外面：轆轤整形。底部回転篦切り後、高台 貼付し、回転ナデ。中央部磨耗、平滑。 内面：轆轤整形後、見込みに指頭圧痕多数。	土坑1	磨耗部光沢 あり。体部 打ち欠き。
6	須恵器 盤脚部か	底径　11.1 器高　[1.6]	①還元焔　②灰黄 ③白色粒・砂粒　④破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	土坑1	
7	須恵器 壺	器高［11.8］	①還元焔　②灰黄 ③黒色粒・白色粒　④胴部破片	外面：轆轤整形後、胴下部格子目叩き。 内面：轆轤整形後、胴下部円形当て具痕。	覆土下層	
8	土師器 坏	口径（11.3） 器高　3.6	①酸化焔　②橙　③黒色粒・角閃石・ 白色粒・石英　④2/3	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。指頭痕。	覆土下層	
9	土師器 坏	口径　11.9 器高　3.5	①酸化焔　②橙 ③白色粒・黒色粒・石英　④完形	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	土坑1	
10	土師器 坏	口径　12.4 器高　3.9	①酸化焔　②橙 ③黒色粒・白色粒・角閃石　④完形	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	覆土下層	
11	土師器 坏	口径［13.8］ 器高　3.9	①酸化焔　②橙 ③黒色粒・白色粒・角閃石　④1/3	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	貯蔵穴	
12	土師器 坏	口径　14.6 器高　3.6 底径　5.0	①酸化焔　②明赤褐色 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④完形	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。底部指頭痕。	土坑1	
13	土師器 坏	口径　15.0 器高　4.4	①酸化焔　②橙 ③黒色粒・白色粒・角閃石　④略完形	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	カマド 土坑1	
14	土師器 坏	口径　15.0 器高　4.9 底径　4.9	①酸化焔　②橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④1/2	外面：口縁部ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ後、疎らなミガキ。	カマド	
15	土師器 蓋	口径（14.8） 器高　[2.5]	①酸化焔　②外：にぶい橙　内：黒褐色 ③白色粒・黒色粒　④破片	外面：轆轤整形。天井部回転篦ケズリ。 内面：轆轤整形。回転ナデ後、ミガキ。	覆土一括	内面黒色処 理
16	土師器 甕	口径（16.5） 器高［13.2］	①酸化焔　②橙 ③白色粒・角閃石・片岩 ④1/4	外面:口縁～頸部ナデ。胴部斜位篦ケズリ後、 肩部横位篦ケズリ。 内面：口縁～頸部ナデ。胴部篦ナデ。	埋設転用器 台。カマド、 土坑1	
17	土師器 甕	口径（21.6） 器高［25.7］	①酸化焔　②橙 ③黒色粒・白色粒 ④1/3	外面：口縁～頸部ナデ。胴上部横位篦ケズ リ後、胴下部縦位篦ケズリ。胴部中 位、広範囲に粘土固着。 内面：口縁～頸部ナデ。胴部横位篦ナデ。 胴部中位に帯状に白色物質付着。	土坑1	
18	土師器 甕	底径　5.0 器高［11.3］	①酸化焔　②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④底部破片	外面：胴部篦ケズリ。底部ナデ。 内面：胴～底部篦ナデ。	カマド	
番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴			出土層位	備考
19	石製品 紡錘車	扁平自然礫を円形に加工。周縁は磨耗顕著、平滑。上下面はやや磨耗。中央に径５㎜の穿孔。滑石製。 直径 4.4 ～ 4.3　厚さ 1.4　重量 47.8g			覆土下層	
20	石製品 紡錘車	全面加工、研磨。上下面、平滑。周縁部は平滑面が連続して多面体状、あるいは蓮華座状。中央 に径 4.5 ～ 6.0㎜の穿孔。多孔質安山岩製。　直径 4.9　厚さ 2.1　重量 56.1g			覆土下層	
21	石製品 砥石・薦石	断面三角形状の棒状自然礫を素材とし、端部周辺以外の３面全体に磨耗痕が認められる。安山岩 製。薦編石として使用か。完形。　長さ 14.1　幅 4.85　厚さ 4.95　重量 462.1g			土坑1	
22	石製品 叩き石	楕円形自然礫を使用し、全体に弱い磨耗。側縁部に顕著な敲打痕。完形。安山岩製。縄文石器か 古代石製品か、判断に躊躇する。　長さ 13.6　幅 7.8　厚さ 4.65　重量 719.8g			覆土一括	

Tab. 8　出土遺物観察表（2）

H－3号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 碗	口径（10.7） 底径　5.2 器高　3.7	①酸化焔　②にぶい橙 ③白色粒 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後、わずかな高台貼付。 内面：轆轤整形。	覆土中層	内面全体に煤・油煙付着。
2	須恵器 坏	口径（10.2） 底径　2.1 器高　3.2	①還元焔気味　②灰 ③白色粒・角閃石・黒色粒 ④ 2/3	外面：轆轤整形後、底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土中層	
3	羽釜	底径　(6.7) 器高　[6.4]	①酸化焔　②にぶい黄橙 ③砂粒・石英・角閃石　④底部破片	外面：輪積み。轆轤整形後、斜位篦ナデ。底部篦ケズリ後、ナデ。内面：轆轤整形。	覆土中層	
4	鉄製品 鎌	端部に柄部装着用の折り返し。刃先欠失。左利き用。 長さ（20.3）　最大幅 4.3　厚さ 0.5　重量 92.4g			覆土下層 ほぼ床直	

H－4号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 坏	口径　12.6 底径　4.8 器高　4.1	①酸化焔　②橙 ③白色粒・角閃石・石英・片岩 ④完形	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	貯蔵穴	内外、部分的に煤付着。
2	須恵器 坏	口径　12.4 底径　5.6 器高　4.1	①酸化焔　②灰黄褐 ③白色粒・石英・褐色粒 ④ 2/3	外面：轆轤整形後、底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	床直	
3	須恵器 坏	口径　12.8 底径　6.2 器高　4.8	①酸化焔　②にぶい橙～灰黄 ③黒色粒・赤色粒・角閃石 ④底部破片	外面：轆轤整形。体部を不意に削ったため、その胎土が口唇部に付着。 内面：轆轤整形。	カマド	
4	須恵器 埦か	口径（16.6） 器高　[5.3]	①還元焔気味　②灰白 ③黒色粒・白色粒・石英　④ 1/4	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	貯蔵穴	
5	須恵器 埦	口径（14.8） 底径　6.2 器高　4.9	①還元焔気味　②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：轆轤整形。	カマド	
6	須恵器 埦	底径　6.6 器高　[4.1]	①酸化焔　②橙 ③白色粒・石英・角閃石　④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。　内面：轆轤整形。	カマド	
7	土師器 甕	口径（16.0） 底径　－ 器高［14.2］	①酸化焔　②にぶい黄褐 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④ 1/6	外面：口縁～頸部ナデ。胴上部横位篦ケズリ後、ナデ。胴下部縦位篦ケズリ。 内面：口縁～頸部ナデ。胴部横位篦ナデ。	覆土一括	
8	瓦 丸瓦	厚さ　2.3	①還元焔　②灰白 ③黒色粒・白色粒・砂粒 ④狭端部右側破片	凸面：ナデ。側端部面取り。 凹面:布目圧痕。端部面取り。側面:篦ナデ。 狭端部：篦ナデ。格子状圧痕。	覆土下層	
9	瓦 平瓦 文字瓦	厚さ　3.0	①還元焔　②灰 ③砂粒・石英 ④狭端部～両側面破片	凹面：布目圧痕。端部面取り。 凸面:平滑なナデ。篦描き「林」。端部面取り。 側面：篦ナデ。　狭端部：篦ナデ。	貯蔵穴	
10	瓦 平瓦	厚さ　2.2	①還元焔気味　②褐灰 ③黒色粒・白色粒 ④狭端部右側破片	凹面：布目圧痕。端部縦位・横位篦ナデ。中央部疎らな指ナデ。凸面：縄叩き。 側面：篦ナデ。　狭端部：篦ナデ。	貯蔵穴	
11	瓦 平瓦	厚さ　2.2	①還元焔気味　②灰　③石英・白色粒・砂粒　④狭端部右側破片	凹面:布目圧痕。端部篦ナデ。凸面:縄叩き。 側面：篦ナデ。　狭端部：篦ナデ。	カマド	
12	瓦 平瓦	厚さ　1.6	①還元焔　②灰 ③砂粒・石英 ④狭端部左側破片	凹面：布目圧痕。端部篦ナデ。 凸面：縄叩き後、縦位篦ナデ。 側面：篦ナデ。　狭端部：篦ナデ。	カマド	
13	石製品 叩石・薦石	楕円形自然礫の両端部に敲打痕。両面から側面にかけて、やや磨耗。中央に黒色物質が帯状に付着。 安山岩製。　長さ 13.4　最大幅 6.5　厚さ 4.3　重量 660g			カマド	
14	鉄製品 刀子	断面は三角形状を呈す。両端部欠損。 長さ［13.4］　刃部幅 1.1　茎部幅 0.79　最大厚 0.6　重量［26.4g］			旧貯蔵穴	

H－5号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	土師器 坏	口径（11.1） 器高　3.0	①酸化焔　②にぶい黄橙 ③角閃石・白色粒④ 1/4	外面:口縁～体部ナデ。体下～底部篦ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。油煙状炭化物微量。	カマド	底部外面に煤付着。
2	須恵器 埦	口径（10.5） 底径　6.6 器高　5.2	①還元焔　②灰 ③黒色粒・白色粒 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転篦切り後、高台貼付。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
3	須恵器 坏	口径（12.1） 器高　[4.1]	①酸化焔・やや軟質　②にぶい黄橙 ③石英・白色粒・黒色粒　④破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
4	須恵器 盤	口径（14.8） 底径（12.0） 器高　2.4	①還元焔　②灰 ③黒色粒・白色粒 ④破片	外面：轆轤整形後、体下部回転篦ケズリ、使用磨耗。底部回転篦ケズリ。 内面：轆轤整形。	覆土中層	
5	須恵器 甕	口径（24.0） 器高　[7.4]	①還元焔　②灰白 ③石英・白色粒・黒色粒　④破片	外面：轆轤整形後、頸部平行叩き。 内面：轆轤整形後、頸部当て具痕。	覆土一括	
6	土師器 甕	底径　4.2 器高　[5.9]	①酸化焔　②にぶい褐 ③白色粒・黒色粒　④底部破片	外面：胴下部斜位篦ケズリ。底部篦ケズリ。 内面：篦ナデ。	カマド	
7	鉄製品 刀子	茎に目釘残存。一部欠損。 長さ［18.6］　茎部長 6.0　最大幅 1.3　最大厚 0.6　重量 16.7g			覆土一括	

Tab. 9　出土遺物観察表（3）

H－7号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 蓋	口径 (19.0) 摘み径 (5.3) 器高　3.3	①還元焔気味　②灰～灰黄褐色 ③白色粒・赤色粒　④破片	外面：轆轤整形。天井部回転篦ケズリ。摘み貼付。内面：轆轤整形。返り貼付。	覆土一括	
2	須恵器 蓋	口径 (15.2) 器高 [2.2]	①還元焔　②灰白 ③黒色粒　④破片	外面：轆轤整形。折り返しの返り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
3	須恵器 坏	口径 (12.1) 底径 (5.6) 器高　3.7	①還元焔気味　②灰白 ③黒色粒　④破片	外面：轆轤整形。底部回転篦切り。 内面：轆轤整形。		
4	瓦 転用瓦 （平瓦）	厚さ　1.7	①還元焔　②灰色 ③砂粒・石英・黒色粒 ④広端部右側破片	凹面：布目圧痕後、糸切り。端部篦ナデ。 凸面：平滑なナデ。 側面：篦ナデ。　広端部：篦ナデ。	カマド右袖の補強材	破断面に磨耗痕。
5	石製品 加工石材	カマド右袖の間口補強材。正面をカマド内壁として設置。正面左側縁に、断面台形状の凸帯を作出。正面側の被熱著しい。角閃石安山岩製。高さ 21.4　幅 15.2　厚さ 11.1　重量 2750g			カマド右袖の補強材	

H－11号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 坏	口径 (12.1) 底径 (5.6) 器高　3.7	①還元焔気味　②灰白 ③黒色粒　④ 1/5	外面：轆轤整形。底部回転篦切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

ＢＰ－16号ピット

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	鉄製品 棒状鉄製品	両端部を欠損する、棒状の鉄製品。断面は円形状。紡錘車の軸か。 長さ [10.8]　直径 0.3 ～ 0.4　　重量 74.8g			覆土一括	

D－5号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	磁器 端反碗	口径 (6.8) 器高 [2.5]	①良好　②灰白 ③灰白　④小片	轆轤整形。コバルト釉染付。透明釉。外面に口唇下圏線、山水文か。。	覆土一括	瀬戸美濃 近代

D－7号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	磁器 蕎麦猪口	底径 (4.6) 器高 [2.6]	①良好　②灰白 ③乳白色　④破片	呉須染付、透明釉。畳付無釉。外面格子状草花文。轆轤整形。	覆土一括	肥前。大橋Ⅳ期。
2	陶器 蓋	底径 (3.1) 器高　1.8	①良好　②灰白 ③にぶい黄橙　④破片	土瓶類の落とし蓋。轆轤整形。摘み擬宝珠。透明釉、白泥。	覆土一括	産地不明

D－8号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	陶器 香炉か	口径 (9.7) 器高 [3.5]	①良好　②にぶい黄橙 ③橙色　④破片	半筒形、口唇内面に突出。内外灰釉。轆轤整形。	覆土一括	瀬戸美濃産。火入れか。
2	土器 焙烙	器高 [3.0]	①良好　②にぶい黄橙 ③黒色粒　④小片	在地系土器。轆轤整形。	覆土一括	

D－17号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	羽釜	口径 (18.8) 器高 [7.5]	①酸化焔・堅緻　②浅黄橙 ③角閃石・白色粒　④破片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

D－31号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	縄文土器 深鉢		①やや不良　②灰黄褐 ③白色粒・石英・角閃石　④破片	ＲＬ短節縄文を施文。	覆土一括	

Tab. 10　出土遺物観察表（４）

Ｄ－34 号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	縄文土器 深鉢	底径　(4.6) 高さ　[3.9]	①良好　②にぶい橙 ③白色粒・角閃石・石英　④台部破片	台付深鉢。小型土器あるいはミニチュア。 無文。	覆土一括	

Ｗ－４号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 甕	口径 (45.6) 高さ　[3.1]	①還元焔　②灰褐 ③白色粒　④口縁部破片	外面：轆轤整形。口縁に垂下する縁帯貼付。 頸部に櫛歯状工具による波状文。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

Ｎ－２号畠跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	土師器 Ｓ字甕		①良好　②にぶい黄橙 ③黒色粒・石英・片岩　④胴部破片	外面：箆ケズリ後、ハケメ調整。 内面：斜位箆ナデ。	覆土一括	
2	須恵器 壺か		①還元焔　②灰 ③白色粒　④肩部破片	外面：轆轤整形。櫛歯状工具による平行条線の後、刺突。内面：轆轤整形。	覆土一括 (Ⅶ層)	
3	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①還元焔　②灰 ③石英・砂粒　④左側面部破片	凹面：布目痕。端部面取り。 凸面：平滑なナデ。	覆土一括 (Ⅶ層)	
4	鉄滓	長さ　3.3 幅　3.0 厚さ　3.2	溶解し、一部ガラス化。		覆土一括 (Ⅶ層)	

遺構外出土遺物

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器 深鉢		①良好　②明赤褐　③白色粒・石英・角閃石　④口縁部破片	波状口縁の波頂部。口唇内面肥厚。	Ｈ２住	後期中葉 加曾利Ｂ３式
2	縄文土器 深鉢		①良好　②にぶい赤褐 ③白色粒・片岩　④胴部破片	屈曲部。竹管状工具による斜行する平行沈線を施文。	Ⅶ層	後期中葉 加曾利Ｂ３式
3	縄文土器 深鉢		①良好　②灰褐 ③白色流・角閃石　④胴部破片	竹管状工具による斜行する平行沈線を施文。	Ｈ２住	後期中葉～後葉
4	石器 ２次加工剥片	小型縦長剥片の打面周辺に２次剥離が認められる。黒曜石製。 長さ 3.1　幅 1.55　厚さ 0.6　重量 2.10g			Ｎ２畠	縄文時代
5	石器 打製石斧	素材剥片の両側縁に直接打撃による両面加工。刃部未調整。刃部周縁に磨耗痕。 長さ [4.9]　最大幅 4.25　厚さ 0.85　重量 21.3g			Ｎ２畠	縄文時代
6	石器 剥片（石核）	主要剥離面以外に大きな剥離面が認められるため、石核端部の調整剥片と思われる。 長さ 3.1　幅 1.55　厚さ 0.6　重量 2.10g			Ｈ２住 掘り方	縄文時代
7	須恵器 坏	口径 (12.8) 底径　(9.4) 器高　3.1	①還元焔　②明赤褐色 ③黒色粒・白色粒・チャート ④破片	外面：轆轤整形。底～体部自然釉。 内面：轆轤整形。	ＢＰ 86	
8	須恵器 坏	口径 (14.2) 底径　(7.7) 器高　3.6	①還元焔　②灰白 ③石英・白色粒・黒色粒 ④破片	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	Ⅶ層 (Ｈ１住とＨ２住の中間)	
9	須恵器 蓋	摘み　(5.2) 器高　[1.4]	①還元焔　②灰 ③黒色粒・白色粒　④摘み部破片	外面：轆轤整形。環状摘貼付。 内面：轆轤整形。	Ⅶ層	
10	土師器 坏	口径 (14.5) 底径　(9.7) 器高　4.9	①酸化焔　②橙 ③白色粒・黒色粒 ④破片	外面:口縁～体部ナデ。体下～底部箆ケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	Ⅶ層 (Ｈ１住とＨ２住の中間)	
11	羽釜	口径 (18.8) 器高　[7.5]	①酸化焔・堅緻　②浅黄橙 ③角閃石・白色粒　④口縁部破片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	Ｄ５土	Ｈ４住の遺物か

Ⅵ　まとめ

元総社蒼海遺跡群（93 街区）は、古墳時代～古代の畠跡と、８・10 世紀代の竪穴住居、中世の堀跡などから構成される。国分僧寺・尼寺中間地域を含む元総社蒼海遺跡群のなかにあって、上野国府からは北西外縁部の集落域にあたり、国分尼寺からは南へ 130 m という至近距離に位置する。中世蒼海城の視点で見れば、防御的には脆弱な北西部の地続き台地となる。これまで積み重ねられてきた元総社蒼海遺跡群の調査成果を基に、本遺跡の性格や意義を捉えてみたい。具体的には住居・溝・道・井戸・粘土採掘坑などを軸にした集落動態の検討である。各遺構の時期は報告書に拠るが、一部は筆者の判断で振り分けた。

① 古墳時代前期～７世紀前半

４世紀の竪穴住居群は国分二寺中間地域から続き、染谷川左岸からは離れない。これは、染谷川沿いの段丘面における水田耕作に軸足を置いているためであろう。元総社牛池川・北川遺跡では、４世紀以降の古墳時代に低地開発と水田耕作が継続されており、染谷川一帯でも同様の開発行為が想定される。本遺跡では As － C 混畠（Hr － FA を含まない）を検出しており、集落から離れた台地内陸部においては畠作が行われていたようである。５世紀の住居は少ないため詳細は不明ながら、染谷川沿いからは動かない。

６～７世紀前半段階では、前～中期集落域からあたかも押し出されるようにして、居住域が内陸へと拡散する。一見するとこの膨張現象は人口の自然増にも映るが、前期集落域から同心円状には行われていない。内陸進出地には何らかの選択が働いていると予測するが、それが生業に関わる地形的理由なのか、集団内部の社会的要請に基づくのかは今後の課題である。次期への足掛かりとなっている可能性も考慮し、奥部に点在する住居群の意味も合わせて検討する必要があろう。いずれにせよ、内陸開発には古墳前期から続く畠作があり、本遺跡では８世紀の住居に切られる Hr－FA 混畠も検出されている。

② ７世紀後半～８世紀

７世紀後半になると集落は内陸部へと展開し始め、国府成立を背景にして、８世紀以降の律令体制下での新規開拓が加速する。集落には、蒼海（40)･(41）のように前代から継続して住居が密集する区域、小見Ⅱ・Ⅶのように空白地となる区域、新開拓区域の３者が鮮明に浮かび上がる。図外ながら、蒼海（５）の東区では７世紀後半～８世紀後半の住居 16 軒が密集する。空白域には、後述する南北溝（道）が敷設されることにも、注意しておきたい。

当該期の内陸進出を支えた背景に、台地中央部の地下にある帯水層を想定しておく。３基の井戸が直線上に点在し、８世紀前半の３基は粘土採掘坑と一体化している。２条の地下水ライン(③図)に挟まれた帯状部が、台地中央部の低地帯であろう。本遺跡においても竪穴住居の埋没過程で掘り込まれた粘質土採掘土坑が６基ある。

８世紀中葉は国分二寺創建前後にあたる。当該期住居群は前時期から継続される。尼寺中軸線上の門前にあたる住居は建立前か、あるいは中葉でも新しい時期ならば造営に関わっていた可能性もある。

ところが、８世紀後半の集落域は、尼寺の門前を含め、南側の広い範囲から撤退する。その規制範囲は長方形を呈し、およそ南北２町×東西３町を測る。道路部分の調査範囲に影響されて矩形に見えてしまう感も払拭できないが、現状においては、国分尼寺造営に伴った方形の居住規制区域を想定しておく。ただし、その規制は厳格ではなく、この区域内には地下水脈に近接して中島状の居住区がいくつか残存し、本遺跡はこの「島ムラ」に該当する。図外ながら、尼寺寺域南西隅に隣接する蒼海 26－（１）区の当該期住居からは「大館」の墨書土器が出土しており、国庁や尼寺との何らかの関係が予想される。

本遺跡ではＨ－２号住居から転用硯が１点出土したものの、ほかの住居は遺物に乏しい。水脈ラインに集約さ

れた小集落群に対して、特定の性格が付与されるのかは不明であるものの、彼らによって井戸の維持・管理や粘土採掘が継続されていた可能性は十分にある。

尼寺門前の蒼海（20）－１区にある、瓦敷・細砂硬化層を伴う落ち込みについても、尼寺造営や修築に関わる粘質土採掘坑と推測する。斜めの主軸方位は地形に沿った粘質土の分布範囲を示し、採掘後に硬く埋め戻したものであろう。採掘は９世紀まで継続するようであり、掘削と埋戻しが複数回にわたって行われた可能性がある。脇にあるＤ－３号土坑にはいわゆる「須恵器壺Ｇ」と小型短頸壺が埋納されていたが、細砂の水成堆積が認められることから、元々は採掘坑と同時期に、粘土採掘を兼ねた水溜めとして掘削されたものと考えておきたい。

地形に沿った遺構群とは別に、東西・南北方向の道路遺構や溝、水路も周辺では確認されている。小見Ⅱ・Ⅳ遺跡などを通る溝は硬化面を有しており、道路遺構ともなっている。この道（溝）は国分僧寺東限から３町の位置にあるとして、かねてより注目されてきたところである。この溝の東側を並走する溝は、一部で水路ともなっているが、尼寺西限とおおよそ一致する。これが８世紀前半集落の西限を意味するのか、尼寺に関わる境界線を示すのか、断定できない。尼寺南限から中軸線を 80 m下ると、東西方向の道路遺構（２条の平行溝）が国府方面へと延びている。中間地域の平行溝（道路）との接続が考えられていたが、途中の遺跡では確認できない。

③ ９世紀～ 11 世紀

９世紀になると居住規制の弛緩が如実に表れ、染谷川沿いの中間地域大集落から堰を切ったように住居群が溢れ出し、尼寺南側の内陸部に再び集落が進出する。牛池川方面からも集落が展開し、尼寺南面には幅 130 mの斜めの集落希薄帯が形成される。この空白域は台地内にあってやや低い地形を呈し、集落域との間には浅い溝が掘り込まれ、敷地境界線と考えておきたい。希薄帯が地形に沿っていることを考慮すれば、９世紀段階で居住適地ではない範囲や耕地および生産地として維持すべき範囲を、尼寺前面の居住規制区域に充当した可能性もある。

本遺跡では明確な９世紀代の遺構を確認できなかったが、これは集落希薄帯が西側へと抉りこむように展開していたためであろう。８世紀集落との志向性は対照的で、社会変動の一端を示している。９～ 10 世紀代の確実な畠痕跡は検出できなかったが、調査区全体を覆う基本層序Ⅶ層には耕作土の可能性を付与した。希薄帯にあっては、畠・水田遺構の検出の有無にかかわらず、基本層序と遺構覆土の植物珪酸体分析の必要性を感じている。

尼寺寺域南西隅の周辺には、８世紀前半に開発された井戸を基軸にした新開拓集落が現れ、おそらくは規制内にあった島状集落が母体であろう。未調査区域に、９世紀の新たな井戸が存在しているものと予測する。本遺跡（蒼海 93 街区）の南側と西側では、前時期の空白を埋め尽くすような勢いで再開発集落が成長し、古墳時代以来の活況を呈して拠点的集落となる。これは遺物にも現れ、この範囲の９～ 10 世紀の住居からは、皇朝十二銭や青磁・緑釉陶器・金付着灰釉碗・墨書土器（「墓」）・暗文坏・五芒星形刻書坏・盤状坏・有鍔台付鉢・三足盤・円面硯・巡方などが出土している。蒼海（40）から引き継がれるようにして、蒼海（41）には鍛冶工房が存在する。

10 世紀に入ると、南西部は依然として拠点的集落を維持し続ける。対照的に、尼寺南東隅の集落が消え、空白帯中央部に新開拓集落が出現する。９世紀後葉には足掛かりを作っているようである。この集落の中央には、採掘坑を伴う井戸と瓦積み井戸の２基がある。自然地形の段丘崖湧水点や扇状地の谷頭湧水に依存していない場合、内陸部では当然ながら、掘削井戸は集落立地要件の一つとなる。逆に言えば、尼寺南東隅の集落が衰退した背景には、伏流水の遷移による井戸の枯渇が影響を与えていたのかもしれない。

本遺跡ではＨ－４・８・９号住居が 10 世紀代で、竪穴を壊した袋状の粘質土採掘坑が掘り込まれており、８世紀以来、土取り場としての認識が継続している。元総社地域では、粘質土採取が目的と思われる大きい床下土坑を伴う住居が各所にあり、その分布を探ることで、粘質材（カマド構築土や壁土など）・硬質材（カマド天井石・袖石など）双方の浅部地下資源利用の理解に深みが増すだろう。覆土上・中層が As － B の二次堆積で埋没したＨ－１号住居については、遺物が僅少なため 10 世紀前半以降としか判断できない。隣接する蒼海（16）のＨ－

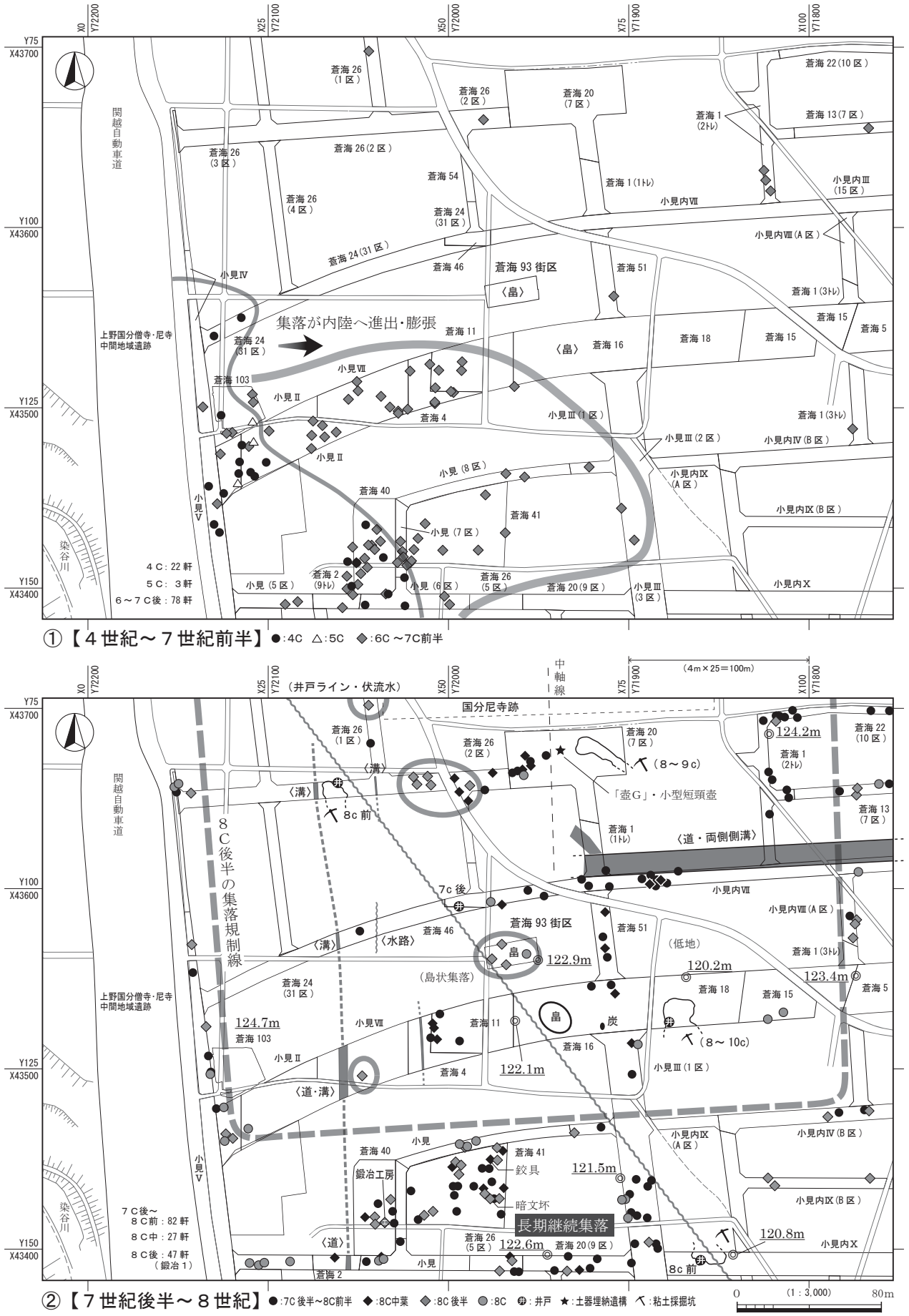
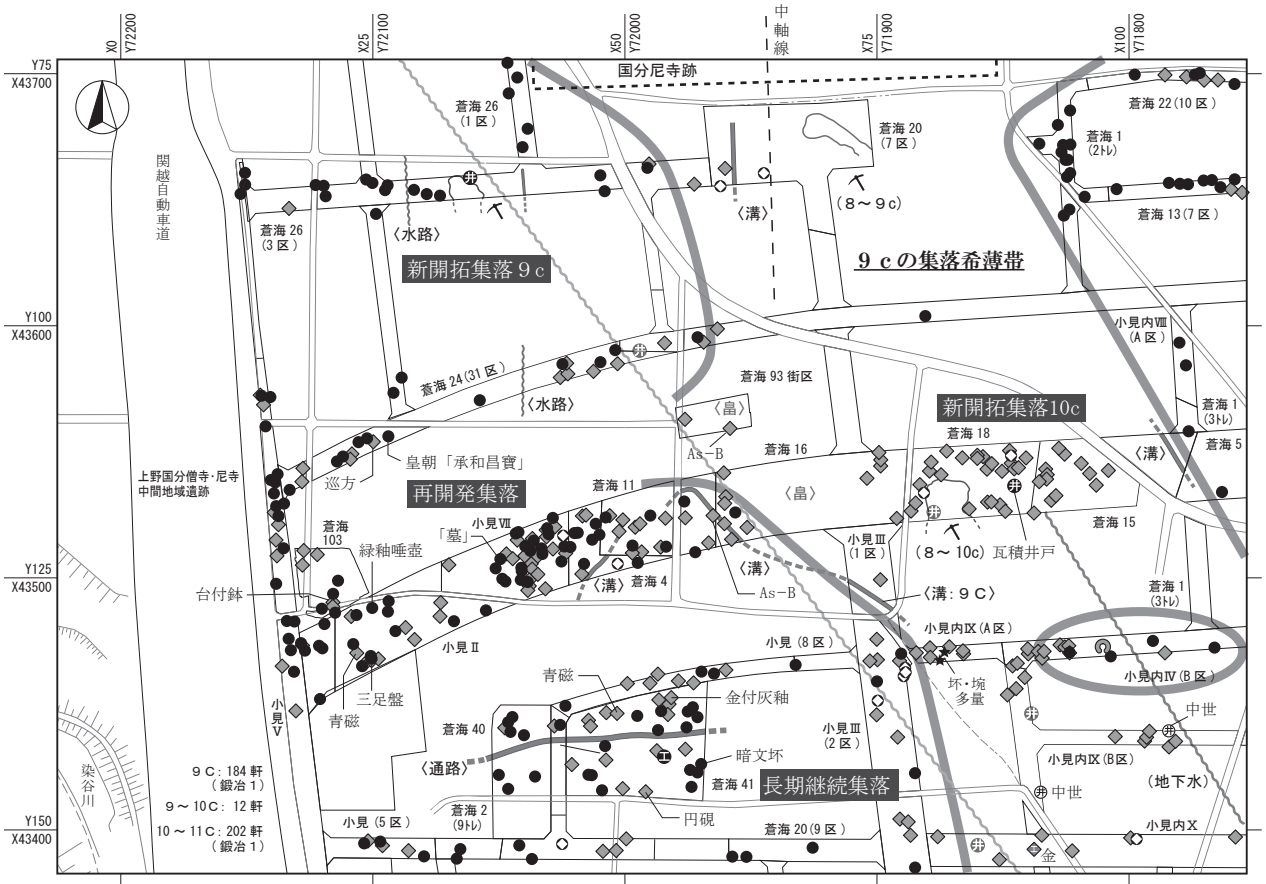
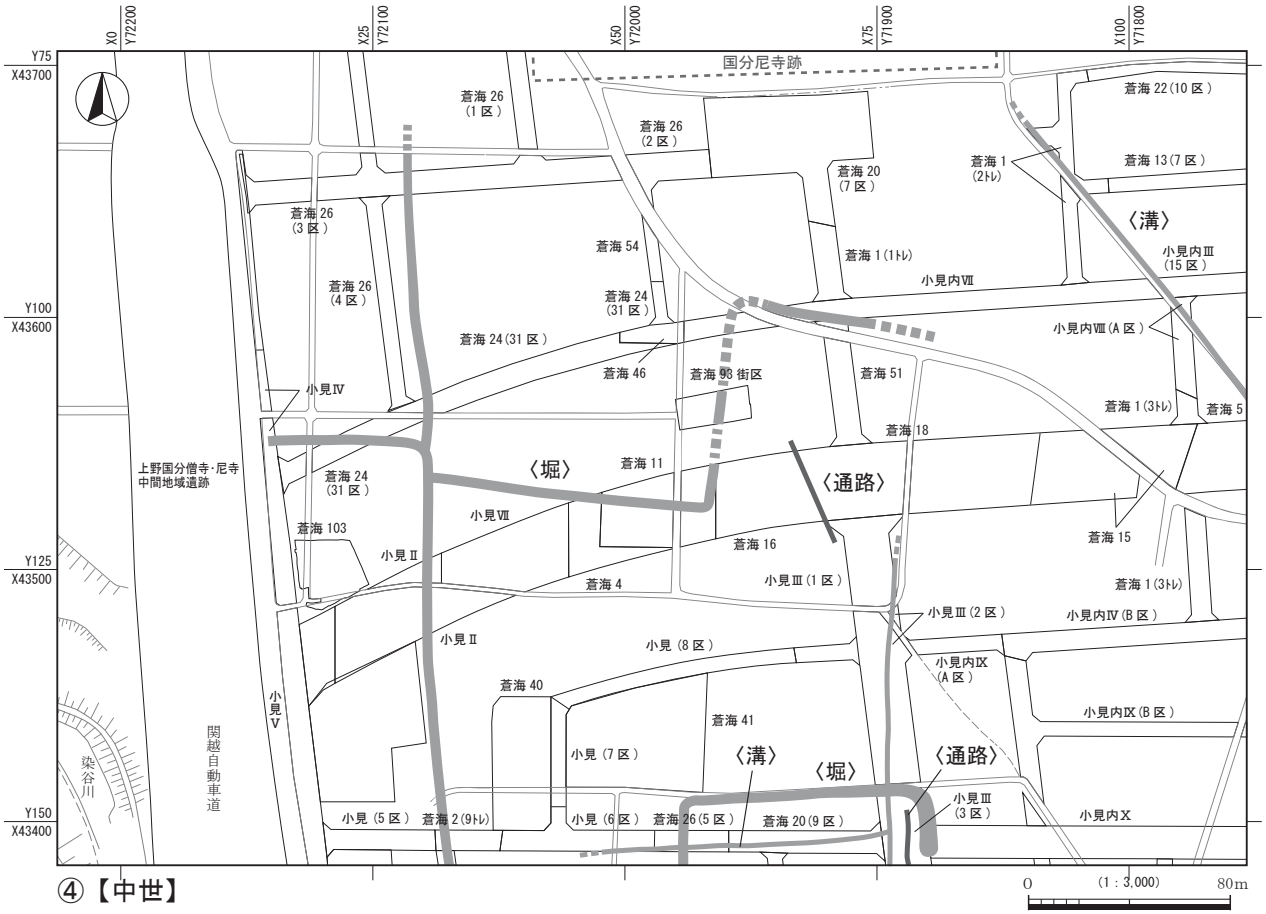


Fig.28　上野国分尼寺周辺の集落変遷図①（4～8世紀）



③【９・10・11 世紀】



④【中世】

Fig.29　上野国分尼寺周辺の集落変遷図②（９～ 11 世紀・中世）

４号住居は、周辺の住居に比べて竪穴が 20 ～ 30cm 程度浅いにも拘わらず、覆土上層に As － B の一次堆積層が認められ、時期は 10 世紀後半を示している。両住居がともに集落希薄帯の中と境界線上に立地していることを考慮すれば、例えば住居密集地において旧い竪穴の人為的埋戻しを仮定した場合、希薄帯では埋戻しがあまり行われず、窪地が長らく残存していたのかもしれない。本遺跡の場合、当該期住居では珍しい４本主柱構造による上屋の耐久性が、廃屋の倒壊・埋没速度に影響を与えた可能性もあり、今後の検討課題としたい。

11 世紀には竪穴住居は減少するが、図の右下から東側のエリアに重要な施設が集まってくる。小見内Ⅸ遺跡（Ａ区）では、須恵器坏・碗を計 69 点埋納した小土坑２基が 10 世紀後半～ 11 世紀初頭に設けられる。小見内Ⅹ遺跡には、金の溶解と箔製作に関わる工房があり、小見内Ⅳ遺跡にはミニチュア周溝墓のような墓（図外）と、対になると想定される葬送施設（周溝を伴う小型掘立柱建物）などが存在する。

全時期を通じて、全く居住されない区域として蒼海（16）が挙げられる。詳細時期不明ながら、古墳時代～古代の畠跡が検出されており、分析の結果、オオムギ族が検出されたため、ムギ栽培の可能性が指摘されている。詳細不明ながら、イネのプラント・オパールが古代遺物包含層から検出されていることにも留意しておきたい。また、本遺跡のＸｂ層相当層では乾燥した草地とヨシ属が生育する湿潤地の混在が指摘され、縄文時代には水溜り状の沼沢地が点在していたのだろう。本遺跡でも古墳時代前期～古代にかけての畠跡が検出されており、内陸部では継続的に畠作が行われていたものと推察する。調布の原料となるカラムシの加工および生産・栽培を示す事例としては、筆者が担当した蒼海（101）遺跡において検出された 10 世紀前半の埋葬人骨が挙げられる。20 代後半～ 30 代成人女性の上顎右第一切歯に特殊磨耗が認められ、分析者は歯を使って苧（苧麻）の繊維を固定し、しごき、切断する工程を伴う苧績（おう）み作業による特徴的な磨耗変形であることを推定している。重要な点は、長期間にわたって耕地や植物栽培地として維持され続けてきた区域の存在であり、このような土地が集落範囲を規定していた可能性もある。

④中　世

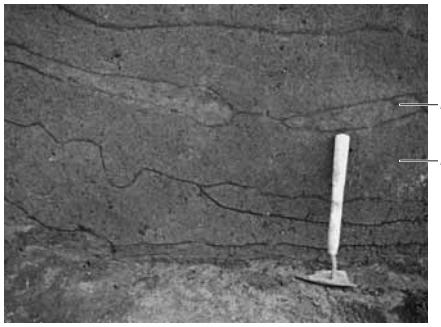
主要な堀や溝を図に示した。接続は推定線であるが、分かり易くするため敢えて大半を実線で表現した。本遺跡のＷ－１号溝がクランクしていることは確実であろう。東の延長線上は不明だが、旧道の直下を走行している可能性が高い。西側は南北方向の堀に接続するものと仮定した。この堀の土層断面を見ると、土塁を切り崩したと推測される覆土は、堀の南側・東側から流入している。つまり、南東側を守る意図がはっきり読み取れる。出土遺物がなく、本遺跡では構築時期を特定できなかった。

蒼海城の主郭からは直線で約 700 m離れた位置にあり、堀の規模も大きくないため、柵列によって防御性を補強している。元総社遺跡群には 14 ～ 15 世紀代の墓地や小規模な中世墓坑群、溝で囲まれた屋敷跡が点在し、中世の活動痕跡は多い地域である。このような状況では、蒼海城とは別の砦の可能性も排除できない。ただし、蒼海城主郭から西へ 500 m離れた小見Ⅲ遺跡（４区）では、幅５m×深さ 2.5 mの堀が東西に走行し、蒼海城の外郭堀とみて間違いないだろう。本遺跡からは南へ 250 mの地点であり、縄張図よりも実態ははるかに大きいことが解かる。現時点では、地続きの北西側台地を分断するために築かれた、蒼海城の最外郭施設群と推定しておきたい。

元総社蒼海遺跡群（93 街区）の性格や存在意義を、遺跡間相互の関係性を探究して捉えようとしたが、結果的に、不明点は未だ多い。本来ならば中間地域遺跡群などの調査成果をはじめ、様々な遺物の分析を盛り込まずに議論は成立しないが、筆者の力量では、遠く及ばない。特に推定上野国府域および国庁推定地一帯においては、国府成立期前後をはじめ、古代の集落遷移が国分尼寺周辺域に大きく影響を及ぼしているはずである。これらの必要不可欠な分析に加え、今後の発掘調査と研究の進展によって、本章の変遷想定図も大きく書き換える必要が生じるであろうが、ひとまずは小地域史の意味も込めて、提示しておきたい。

写　真　図　版

Ｈ－１号住居跡
As－B 堆積前の窪地
（北から）



As-B 近景

Ｈ－１号住居跡 完掘
覆土中位に As－B が
二次堆積する
（北から）

元総社蒼海遺跡群（93 街区）　調査区全景（上が北）

基本層序Ａ

基本層序Ｂ

Ｈ－１号住居跡 全景（北から）

Ｈ－１号住居跡 全景（西から）

ＳＧ－１（Ｈ１住の As －Ｂ直下の窪地）検出状況（北から）

Ｈ－１号住居跡　土層断面（西から）

Ｈ－２号住居跡　全景（南西から）

Ｈ－２号住居跡 カマド近景（南西から）

Ｈ－２号住居跡　土坑１ 遺物出土状況（南から）

H–2号住居跡　埋設甕（転用器台）截ち割り　（南西から）

Ｈ－２号住居跡　南壁の壁体痕跡（南西から）

Ｈ－３号住居跡・Ｄ－17 号土坑　全景（南から）

Ｈ－４・８・９号住居跡　全景（西から）

Ｈ－４号住居跡　カマド・貯蔵穴近景（西から）

Ｈ－４号住居跡　貯蔵穴出土 文字瓦近景（北から）

Ｈ－５号住居跡　全景　（南西から）

Ｈ－５号住居跡　カマド近景（南西から）

Ｈ－７号住居跡　全景・遺物出土状況（南から）

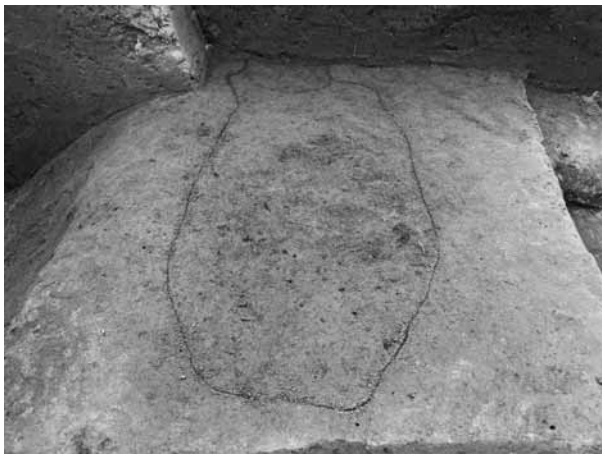
Ｈ－７号住居跡　カマド近景（南西から）

Ｈ－ 11 号住居跡　全景（南西から）

Ｔ－１号竪穴状遺構　全景（東から）

Ｔ－２号竪穴状遺構　全景（北から）

中近世遺構群（調査区西部）　全景（南から）



Ｄ－１号土坑　検出状況（西から）

Ｄ－２号土坑　馬幼獣骨検出状況（南から）

Ｄ－５号土坑　全景（南から）

Ｄ－７号土坑　土層断面（南から）

Ｄ－11 号土坑　土層断面（南から）

Ｄ－19 号土坑　全景（南西から）

Ｄ－28・32 号土坑　全景（南から）

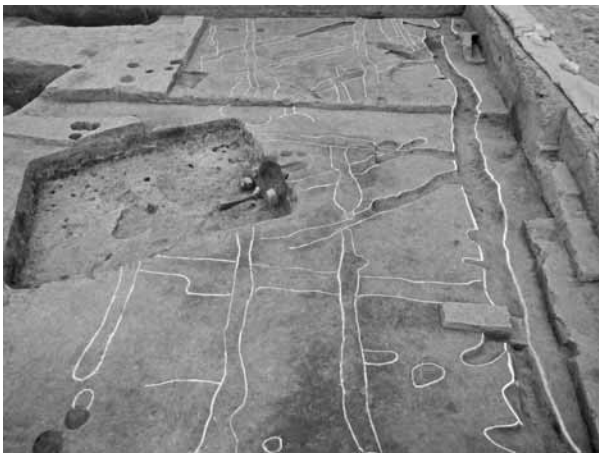
Ｄ－30 号土坑　全景・土層断面（南西から）

Ｄ－31・33・34 号土坑　全景（南から）

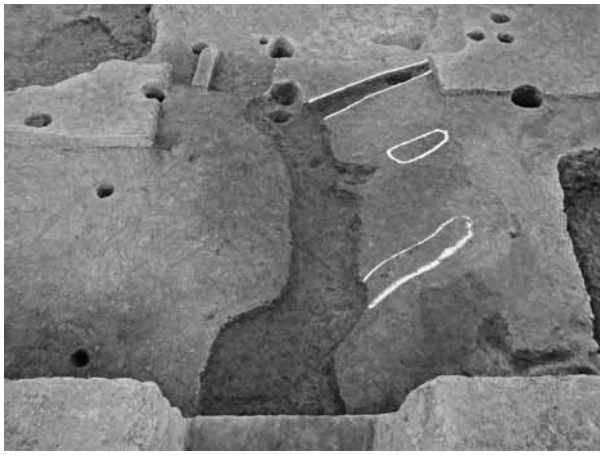
Ｗ－１号溝　全景・土層断面（南から）

Ｗ－１号溝　全景・土層断面（北から）

Ｎ－１号畠跡　検出状況（南から）

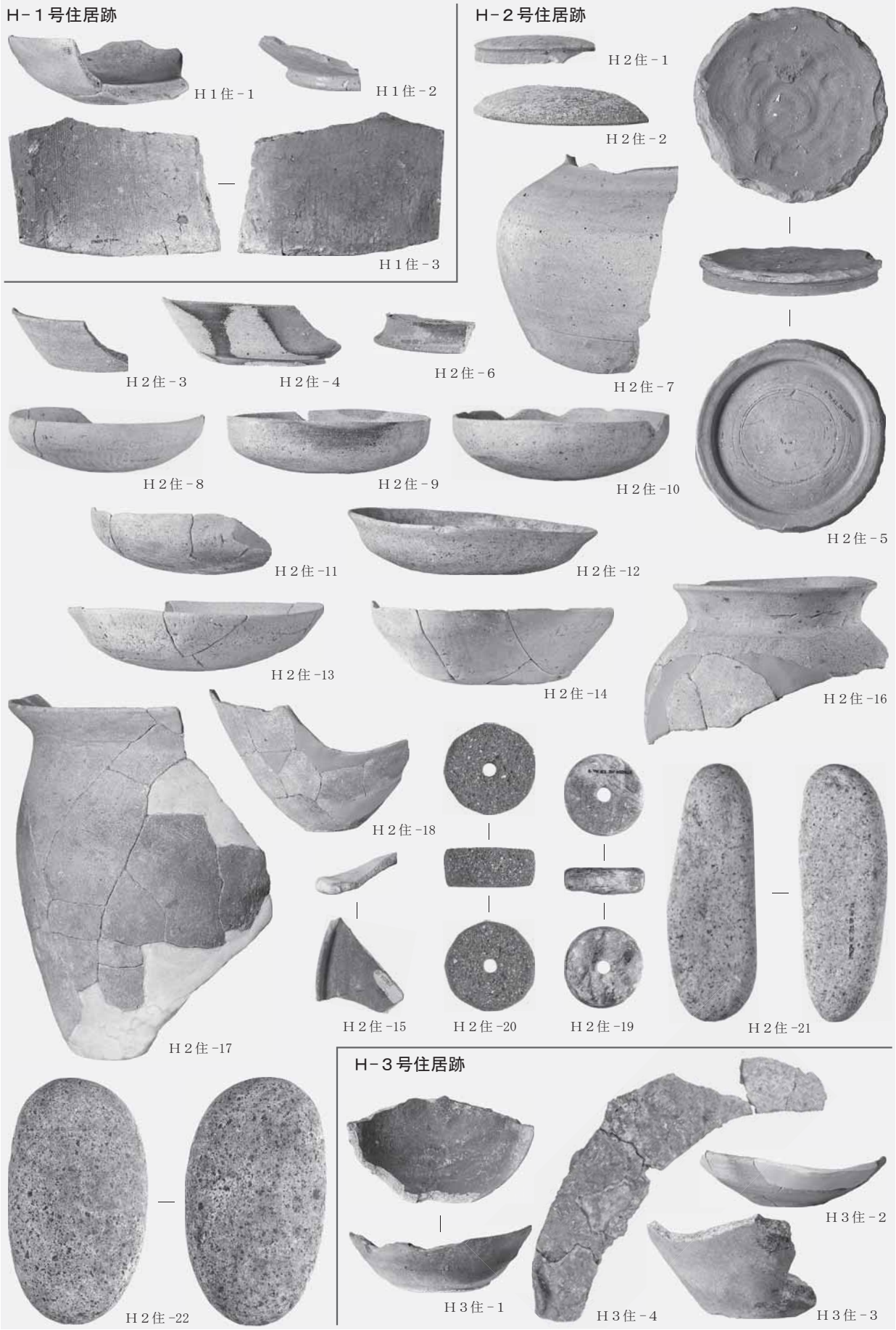


Ｎ－２・３・４号畠跡 / Ｗ－４号溝　検出状況（南から）

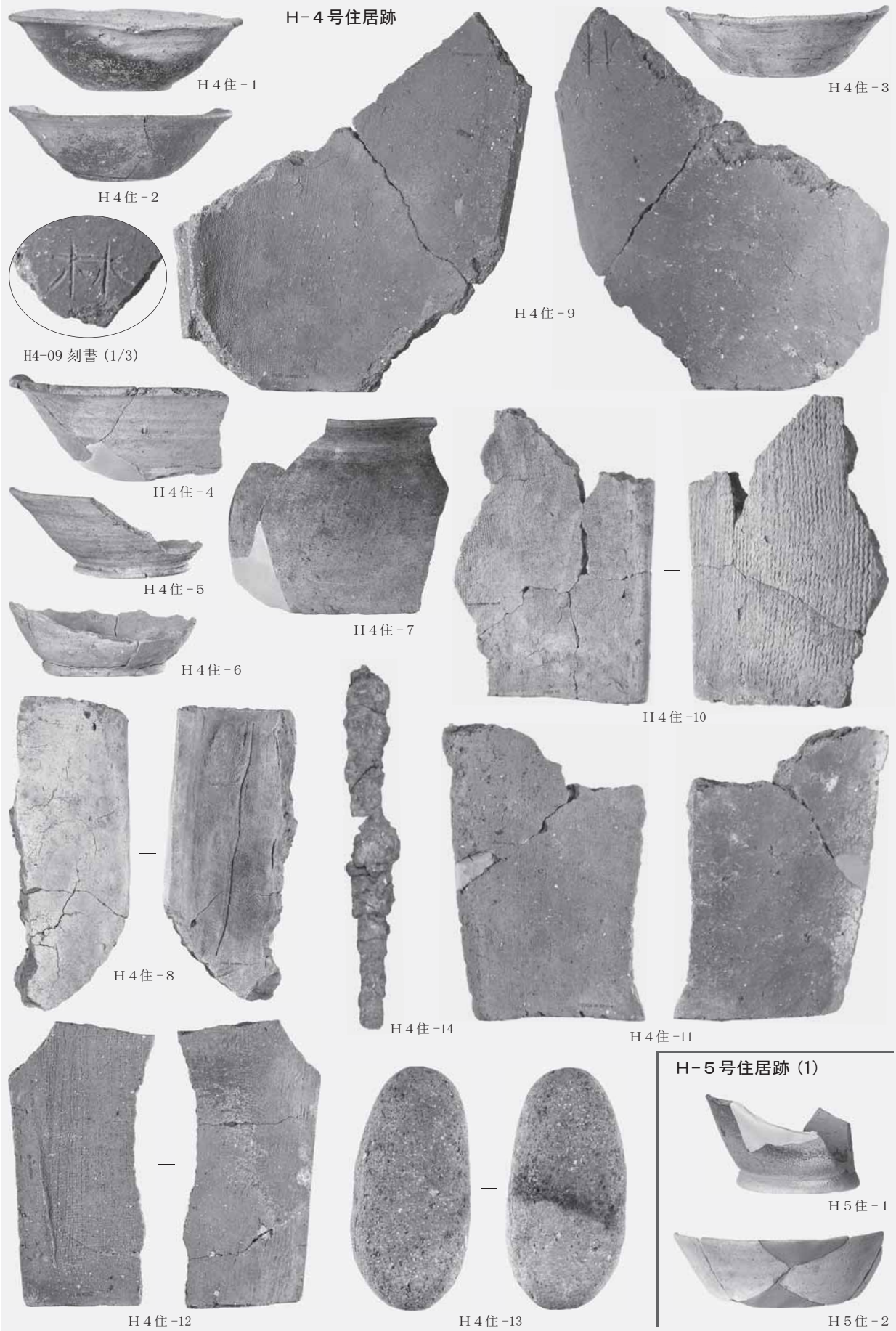


Ｎ－５号畠跡・Ｗ－５号溝　全景（南から）

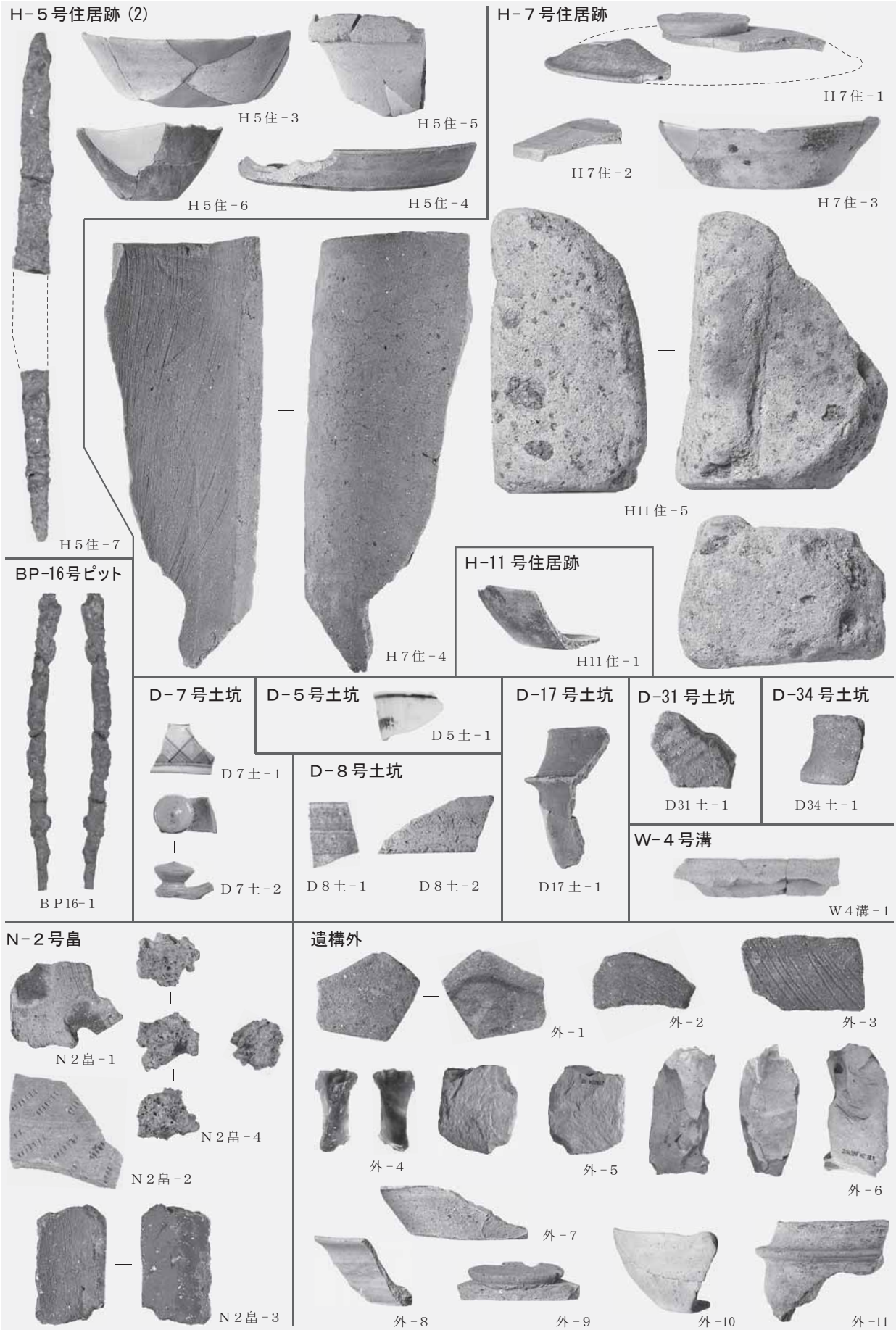
近世畠跡（調査区南東隅）検出状況（南から）


H－１号住居跡
H１住－１
H１住－２
H１住－３
H－２号住居跡
H２住－１
H２住－２
H２住－３
H２住－４
H２住－６
H２住－７
H２住－５
H２住－８
H２住－９
H２住－10
H２住－11
H２住－12
H２住－13
H２住－14
H２住－16
H２住－18
H２住－15
H２住－20
H２住－19
H２住－21
H２住－17
H２住－22
H－３号住居跡
H３住－１
H３住－２
H３住－４
H３住－３

出土遺物（１）


H－４号住居跡
H４住－１
H４住－２
H4-09 刻書 (1/3)
H４住－９
H４住－３
H４住－４
H４住－５
H４住－６
H４住－７
H４住－10
H４住－８
H４住－14
H４住－11
H４住－12
H４住－13
H－５号住居跡 (1)
H５住－１
H５住－２

出土遺物（２）


H－５号住居跡（2）
H５住－３
H５住－５
H５住－６
H５住－４
H５住－７
H－７号住居跡
H７住－１
H７住－２
H７住－３
H７住－４
H11住－５
H－11号住居跡
H11住－１
BP-16号ピット
BP16－１
D－７号土坑
D７土－１
D７土－２
D－５号土坑
D５土－１
D－８号土坑
D８土－１
D８土－２
D-17号土坑
D17土－１
D-31号土坑
D31土－１
D-34号土坑
D34土－１
W－４号溝
W４溝－１
N－２号畠
N２畠－１
N２畠－２
N２畠－３
N２畠－４
遺構外
外－１
外－２
外－３
外－４
外－５
外－６
外－７
外－８
外－９
外－10
外－11

出土遺物（３）

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（93 ガイク）
書名	元総社蒼海遺跡群（93 街区）
副書名	店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延　南田法正
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒 379 － 2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地 1　　TEL. 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会
発行年月日	西暦 2016（平成 28）年 12 月 20 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （世界測地系）	東経 （世界測地系）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
元総社蒼海遺跡群（93 街区）	群馬県前橋市元総社町　93 街区 1717、1718、1710	0142	27 A 224	36°23′35″	139°01′40″	20160509～20160610	361	店舗建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（93 街区）	集落跡 畠跡 城館	縄文 古墳 奈良 平安 中世 近世 近代	住居跡　9 軒 掘立柱建物跡　4 棟以上 柱穴列　3 条 ピット　209 基 炉跡　1 基 土坑　41 基 溝　5 条	縄文土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 陶器 磁器 石器 石製品 鉄製品	縄文時代後期の土器出土。 古墳時代～古代の畠跡。 ８・10 世紀代の住居跡。 As-B で埋没した住居跡。 竪穴住居埋没途中に掘り込まれた粘質土の採掘土坑多数。 中世の堀・柵列・掘立柱建物。

元総社蒼海遺跡群（93 街区）

－店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 28 年 12 月 12 日印刷
平成 28 年 12 月 20 日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／前橋市教育委員会
前橋市総社町 3-11-4
TEL　027 － 280 － 6511
印　刷／朝日印刷工業株式会社